

全国知事代表団訪米

第 8 回 日 米 知 事 会 議 及 び 視 察 報 告

昭和 44 年 10 月 14 日 ~ 27 日

JAPAN... U. S. GOVERNORS' CONFERENCE

写真あり

全 国 知 事 会

写真あり

説明：

10月15日 東京国際空港にて、塔乗機日本航空6便
前にて記念撮影

第 8 回 日 米 知 事 会 議

及 び

視 察 報 告

訪米知事団名簿

公 式 代 表

団 長	全国知事会副会長	奥 田 良 三
	奈良県知事	
	青森県知事	竹 内 俊 吉
	三重県知事	田 中 覚 (令嬢 田中優江)
	長野県知事	西 沢 権一郎
	鹿児島県知事	金 丸 三 郎 (夫人 金丸 栄)
	愛知県副知事	岩 瀬 繁 一
	岩手県副知事	中 村 直
大分県副知事	立 木 勝	

随 員

全国知事会	井 土 良 二
事務局次長	
同 渉外部長	小 川 政 吉

写真あり

説明：

10月23日 オハイオ州シンシナティー空港にて

は し が き

全国知事代表団一行は、日米知事相互訪問計画に基づき、昭和44年10月14日から同月27日まで2週間にわたり、ハワイ、オレゴン、アイダホ、ネブラスカ、オハイオ、サウス・カロライナ等6州とワシントンD・C・を訪問し、各州の行政と産業についてつぶさに視察するほか、訪問各州の知事を始め、多くの日系人その他アメリカ市民及び政府高官等とも親しく会談いたしました。

この間10月22日には、オレゴン州シンシナティで開催された第8回日米知事会議に参加し、日米共通の重要問題について、アメリカ知事団と真剣な討議を行いました。

この報告書は、第1部では第8回日米知事会議について、第2部では視察について報告することといたしました。

なお、今回訪米された知事団の方々の文通その他の参考にしていただくため及び、事務担当者の参考に供するため、世話になった人々の英文住所氏名リスト及び、アメリカ側が作成した英文日程を付することといたしました。

目 次

第 1 部

第 8 回 日 米 知 事 会 議

1. 日程および出席者	13 頁
2. 会議要旨	13
議題 1. 当面する社会福祉対策と青少年問題	15
議題 2. 職業教育と訓練について	23
議題 3. その他	26
4. 両国政府代表挨拶	31
5. 下田駐米大使演説要旨	33
6. おわりに	34

第 2 部

視 察

1. 日 程	39
2. 10月14日(火) 東京	47
3. 10月15日(水) 出発当日	47
4. 10月14日(火) ハワイ(ホノルル)	48
5. 10月15日(水) ハワイ	49
6. 10月16日(木) ハワイ～オレゴン	55
7. 10月17日(金) オレゴン(ポーランド)	61
8. 10月18日(土) オレゴン～アイダホ(ボージー)	71
9. 10月19日(日) アイダホ	76
10. 10月20日(月) アイダホ～ネブラスカ	84
11. 10月21日(火) ネブラスカ～オハイオ	88
12. 10月22日(水) オハイオ	91
13. 10月23日(木) オハイオ～サウスカロライナ	97

14.	10月24日(金)	サウスカロライナ	99頁
15.	10月25日(土)	サウスカロライナ～ワシントン	105
16.	10月26日(日)	ワシントン	107
17.	10月27日(月)	ワシントン	110
18.	あ と が き		119
19.	世話なった人々の氏名リスト		123
20.	英 文 日 程		137

第 1 部

第 8 回 日米知事会議

第 八 回 日 米 知 事 会 議

1. 日 時 昭和 44 年 10 月 22 日
午後 2 時～5 時
2. 場 所 米国オハイオ州シンシナティ市
シエラトン・ギブソン・ホテル
3. 出 席 者
日本側 奥田奈良県知事（団長）、竹内青森県知事、田中三重県知事、沢長野県知事、金丸鹿児島県知事、岩瀬愛知県副知事、立木大分県副知事、中村岩手県知事。
随員 井土（事務局次長）、小川（事務局渉外部長）
米国側 オハイオ州ジェイムス・ローズ知事、ケンタツキー州ルイス・ナン知事、インディアナ州エドガー・ホイットコム知事、ミシガン州リチャード・ヘルムプレヒト副知事（知事代行）、ウエスト・ヴァージニア州ウイリアム・ロイ副知事
ブレヴァード
随員 クリーフィールド（米国知事会事務局長）

4. 会 議 概 要

先づ、会議の議長を勤めることになった地元オハイオ州ローズ知事は、前記の米国側出席の知事、副知事を紹介した後、傍聴席に詰めかけていたコモドー（Commodore）と称する一群の人々を紹介した。彼の説明によれば、これらの人々は、世界中各地を旅行し、云わば州知事の民間大使のような役割を果たしている人々であり、その一部は昨年日本を訪れ、大部分を東京と滋賀県に滞在し、非常に温かいもてなしを受け、日本を研究して

帰ってきた。彼等は非常な親日家であり、今回、日本知事の公式のホストとして接待役を引き受けている。

ローズ知事挨拶

最近米五大湖（ミシガン、スペリオル、ヒューロン、エリー、オンタリオ）周辺の諸州は、ブレッド・バスケット＝穀倉地帯）と呼ばれる地域であるが、今や工業等が著しく発展し、この地域の人口は米国全体の人口の37%、税収は米国全体の50%を支払っており、オハイオ州はニューヨーク、カリフォルニア両州に次いで人口が多く、ブレッド・バスケット以外の州は今や五大湖各州の郊外になろうとしている。このような重要な地域に日本知事団をお招きしたことを光栄とし、心から歓迎の意を表す。

次いで、奥田団長は、竹内青森、田中三重、西沢長野、金丸鹿児島各知事および岩瀬愛知、立木大分、中村岩手の各副知事を紹介した後、大要次のような挨拶を行った。

挨拶要旨

この機会に先づわれわれは、人類の幾世紀かに亘る夢であった月世界旅行の快拳が、本年7月貴国によつて初めて実現したことに対し、違大なる米国の科学の勝利として、日本人の心からなる賛辞を表します。

われわれ日本知事団の一行は、ハワイ州到着以来関係各州の知事さんおよび関係各位から非常な歓待を受けてまいりましたが、本日はオハイオ州知事ローズさん始め多数の知事さん、民間の方々から熱烈な歓迎を受け、心から感謝申し上げます。また本日は米国の多数の知事さんと一堂に会して意見交換が出来ますことを大変嬉しく思っております。

さて、日米知事会議および日米両国知事の相互視察は、米国における州行政およびわが国における府県行政の実態を把握し、両国民それぞれの民

情に接して、行政施策の参考に資しますとともに、両国民の相互理解に寄与するところこれまで多大であつたのであります。また、日米両国は、両国政府および国民の相互理解のもとに、ますます親密の度を加え、相互の繁栄につつましてすばらしい成果を挙げてまいつたのであります。しかしながら、世界経済の現状におきましては、両国政府および両国民は従来にも増して、それぞれの政治、経済等につつましては、相互の理解と協力をいたさねばならぬと存する次第であります。

このような時にあたりまして、御地において第八回日米知事会議が開催され、「職業教育と訓練」「当面する社会福祉対策および青少年問題」が議題としてとりあげられますことは、わが国が当面する重要問題であり、まことに意義深いことであります。

本日の会議および今回の各地域の諸視察が必ずや今後の日米両国の相互理解と共栄の基礎を築く一助となることを確信しております。

来年、1970年は、万国博覧会の年であります。3月15日から9月13日まで、わが国の大阪で開催されます万国博覧会には、米国の多数の知事さんは勿論、その他多数の米国民が大勢でこ来日頂き、万国博覧会開催の意義を達成し、その十全を効果を見ることが出来ますようご理解とご協力をお願い申し上げます。

次いで議題に入った。

議題 1 当面する社会福祉対策と青少年問題

この議題は日本側提出議題であり、奥田奈良県知事より概要次のような報告があつた。

わが国の高度の経済成長は、一面社会福祉対策の重要性をクローズアップ

した。すなわちわが国の社会福祉は、当初の生活保護の救貧対策から、次第に精神薄弱、身体障害者、老人、児童、母子の福祉の分野へとその対象を拡大して発展してきたのであるが、当面する社会福祉事業としては、特に老人対策と心身障害者（児）対策が重要であると考ええる。

1 社会福祉対策

(1) 老人福祉対策

我が国の老人に関する現状をみると、国民総人口のうち老人の占める割合は年々増加しており、1979年には人口の17.6%を60才以上の老人が占めることになるものと推計されている。さらに一方では、家族制度の変遷、核家族の増加により老人世帯が多くなり、親子の親密度が徐々にうすらぎ、老人の孤独化を一層強めることとなってきた。また、経済界の急激な合理化、集中化によつて産業界があげて若年労働力を欲するので、中高年齢者はますますその職域を狭められてきたため、老人の就職がますます困難となり、老後の生活の安定をもおびやかすことになりつつある。加えて一般的に子の扶助をも期待できない社会情勢になりつつあることから考え、これらの老人をとりまく不安を除去するためにも、根本的な老人福祉対策を立てねばならないと痛感する。このような現況から世界でも優れたものといわれている老人福祉法が制定され、現在国において次の事業が行われている。

(1) 経済的、肉体的、精神的に支障のある老人のための老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホームの設置、および健康保持のための一斉老人健康診査、孤独感を解消するための老人クラブの育成、老人福祉センターの設置、生活の安定を図るための就労斡旋事業、核家族化対策としての老人住宅、寝たきり老人対策としての居宅診査特殊寝台の貸与、また老人家庭奉仕員による介護等の事業である。従つてこの国の施策に則つ

て各府県ともこれらを実施するとともに強化を図り、一方ではそれぞれの地方の特殊性を生かした敬老対策を実施している。

わが奈良県においては、人口 901 千人（1969 年 8 月 1 日現在推計）のうち老人 108 千人に対し、養護老人ホーム 10 ヲ所定員 836 人、特別養護老人ホーム 3 ヲ所 150 人、老人福祉センター1 ヲ所を設けており、本年度も収容施設を増設することとしている。また居宅対策として健康診査、家庭奉仕員 24 名特殊寝台の貸与、老人クラブの育成に努める一方、県独自の事業として敬老金の交付、並びに敬老の日を中心とした長寿者慰問、施設の慰問、県下老人の福祉大会資質向上と社会の進展に寄与せしめるための老人大学等を開催し、ボランティア活動の促進も併せ実施している。

(2) 心身障害者（児）対策

わが国の心身障害者は 1048 千人、児童 116 千人で大人は人口 1000 人当たり 15.7 人となっており、これらのうち就労者は 39.3%、残りの者は何らかの形で扶養を受けているものと考えられる。

一方精神薄弱者は約 50 万人と推計され、うち 25%が重度の者であろうと思われる。これらの心身障害者については、身体障害者福祉法、精神薄弱者福祉法、児童福祉法が制定され、これらの福祉対策が実施されている。主なるものとして、社会復帰および機能訓練のための収容施設、授産施設の設置、一般的福祉としての身体障害者手帳交付、更生医療補装具の交付、相談機関としての身体障害者相談員の設置、精神薄弱者相談員の設置、職親委託あるいは心身障害者家庭奉仕員の設置等を制度化し、これを効果的にするため、行政機関として相談所及び福祉事務所を窓口として種々の活動を促している。

奈良県においては、この一連の制度を充分活用するとともに、これらの福

祉を受けられない重度の心身障害者に対する施策が最も重要であろうと考え、県単独で在宅重度心身障害者介護手当の支給、およびこの介護手当すら受けることの不可能な常用介護を要する者については終身県で保護する施設を設け、安らかに生活を送るよう対策化している。

最近にいたり、国において心身障害者コロニーの設置が図られ、着々進行中ときき及んでおり、2、3の府県において府県単位のコロニーを計画中有るかにきいているが、これらは心身障害者対策の画期的な進展であろうと思う。

2 青少年問題

次代をになう青少年が健全に育つことは、人類の繁栄と国家の興隆にとって大変望ましいことでもあります。しかしながら、残念をことに「青少年問題」を特別にとり上げて議論し、研究し、対策を講じなければならぬほど、青少年に関する社会的な問題が起っていることは、世界的な一つの傾向であり、わが国もご多分に洩れないのでありまして、誠に遺憾な現象であると考えます。

わが国の青少年の不健全化の傾向としては、年を追って凶悪化、低年齢化、集団化、裕福家庭化があげられる。これら青少年問題の起因は大別して①家庭内における親子の連帯感の喪失②マスメディアの急速な発達であると考えます。

こうした憂慮すべき事態に鑑み、政府においては、総理府に青少年局を設置し各省庁の連絡をはかつて、その対策を講じてきたところである。さらにこれを発展的に解消して、直接内閣総理大臣が対策本部長となつて、総理府内に直轄の機関として「青少年対策本部」が設置され、わが奈良県においてもこれに呼応して総合調整する部局を設け、積極的に取り組んでいる。

そこで、関係機関や団体、そして国民すべてを含めた「組織活動行政」が

青少年問題対策には必要でありましょう。行政と団体がうまくかみあつて、国民運動の機運は漸次高まつている。その対策の内容としては、①「家庭の日」の普及並びに実施②俗悪広告の追放である。

わが奈良県は、人口 100 万に満たない小さな県であるが、日本の古代文化が発祥し栄えたところであり、現代もなおいたるところに貴重な文化財を残している。私はこうした由緒ある奈良県において、常々日本で最も古いところで最も新しいことを積極的に進めたいと願い、十数年間知事として精進してまいりました。特に①野外活動センターの建設②青少年の家の建設③青少年の研修④健民運動場の設置⑤体力づくりに努力してきたのである。

これらに呼応して、県下に組織をもつ青少年団体（ボイスカウト、ガールスカウト等すべての青少年団体）が、「伸びよう奈良県少年のつどい」の旗印のもとに「みずから伸びよう」との合言葉をもち結束し、これらを育てる母親の組織が「青少年を守る母のつどい」を結成し、両者あい手を取り合つて、青少年健全育成県民会議を組織して、自主的に活発な活動を展開するに至つたのである。

以上の報告に対し、ホイットコム・インジアーナ州知事より次のような意見が述べられた。

青年は日本も米国も同じような傾向を辿つていると思う。米国では連邦政府の局又は代理機関を通して青年の福祉、また老人の福祉についてまた心身障害児についても同様にやつている。プログラムを効果的にやるために検討が加えられているが、政府のやり方には手続が複雑で無駄が多いと思う人が多数いる。最近わが州では福祉の分野で実験をしている。即ち、福祉上の援助については、手続の煩鎖を省略するために、申込みば審査なしに承認したが、6 ヶ月で予算が 2 倍になつて了つた。ごまかして恩恵を受けた者があつ

たからである。このような失敗談を申し上げるのは、その轍を踏まないようにとの配慮からである。次に青年対策についてはいくつかのエージェンシーを通じてやっている。一般的に云つて、青年の大多数は良い青年である。大多数の青年は生産的で良い青年である。少数の悪い青年を見て一般に悪いと云うのは当らない。

福祉対策費については、連邦政府の社会保障費から支出されているが、州の一般経費からも支出されている。私の州は比較的小さな州で経済的に見ても大産業は一つしかない。日本の福祉対策は大変参考となるので、文書の形でお互の対策を交換いたしたい。私の州の問題点、対策を書類でお渡ししたい。

次いで、フェルムプレヒト・ミシガン州副知事（知事代行）より次のような発言があつた。

今晚の招宴にわが州からマクナマラン資源局長が出席することになっているが、彼は昨年、三週間日本に滞在し、その大部分を東京と滋賀県で過ごした。その間、福祉の分野についても意見交換をして来たが、日本が秀れた内容をもつてこの分野に活躍していることを知り敬意を表している次第である。米国では福祉施策の世話になることが必要である者のうち、8分の1しか恩恵を受けていない。このようなときニクソン大統領の提案はまことに意義深いものがある。この提案は、われわれの社会は、凡ての人に一定水準以上の福祉を受くべきことを認め、老人、心身障害者に対して国は援助すべきであるとの認識の表われである。米国には数多くの老人がいて、貧困生活を送っている。社会としてはこうした老人に対し福祉の手を差しのべなければならない。老人に対する援助は物価の上昇に見合ったものでなければならないし、職を得させることが大切である。それと同時に現実に即した援助をしな

ければならない。従つてわれわれは日本のプログラムから学ぶところが頗る大きいと思う。特に日本の老人ホームとかいろいろのプログラムを採択したい。われわれが当面しているもう一つの問題は健康の問題である。特に強調したいのは、予防的な健康診断のプログラムを作る必要があるということである。

次に青少年問題についてであるが、日本の考え方は大変よいと思う。奥田知事の「家庭の日」の設定は大変結構と思う。米国では家庭の日は一年に一回ぐらいしかない。青少年問題の起因は日本とよく似ている。ミシガン州ではこれまで個々バラバラなプログラムで対処していたが、総合的なプログラムで対処したいと思つている。教育は青年に対する身近かなプログラムであるので、教育的プログラムを改善したいと思つている。その一つはパラ・ティーチャーズという考え方である。学校の先生でなく、学校以外の時間で、生徒と接触を持つ教師の仕事を作りたいということである。

以上のような米国知事の報告に対し、田中三重県知事より、米国には社会福祉対策や青少年対策についていろいろのプログラムがあるようであるが、これは民間でやつているのか州政府、それとも連邦政府かとの質問があり、米国側から次のような答弁があつた。

老人、青少年に対するいろいろなプログラムは過去 10 年ぐらい前までは民間の仕事であつたが、これらの問題の重要性が認識せられ、最近はじめて連邦政府と州政府がその責を果たすようになって来た。しかし、今でも民間の援助は不可欠である。青少年の分野については、連邦政府が経費負担して州がうまくやれるように援助している。

ここローズ・オハイオ州知事が福祉制度について私の意見を述べさせてもらいたいと前置きして、大要次のような意見を述べた。

私の福祉制度に関する考え方は、一部教育制度にも応用できるものである。われわれの社会は人間的に見放された者、社会からはみ出した者をつくって来た。われわれの福祉の目標はすばらしいが、これを実施する行政分野に問題がある。福祉についてはいろいろの概念があり、いろいろな処置の繰り返しがあつて、重複が多い。オハイオでは 505 のプログラムがある。米国厚生省はこの 505 のプログラムに答を出さなければ実施を認めない。従つて多年に亘り仕事がたまつてゐる。援助のためよりも書類の整理に追われている。いろいろな様式の書類に答を入れるために、財政的には 2,000 万ドルが書類の整理に費されている。ニクソン大統領は福祉の問題を解決しようとしているが、彼は福祉問題に真正面から取り組んだ最初の大統領である。現在の米国の福祉制度は時代遅れである。施しの的となつて金をばらまいてゐるのは問題である。

青少年の教育制度についていえば、小学校に入学してくる生徒のうち、14%が大学を卒業しているにすぎない。われわれは大学に入学するための高校を作つてしまい、労働者のための高校がない。そのため、生徒の大部分は自分で自分の仕事を見つけるか、福祉のやつ介になつてゐる。米国では 105 千人が何にも仕事ができないので仕事がない。オハイオでは 40,000 人の退学生が出た。これは落第ではなく、教育制度が適正でないのではみ出したのである。一般教育は失業に結びつく。技術教育施設に入学させて早く卒業させることが肝要である。青年に適切な職業を与え、施しの的な福祉のサイクルを断ち切らなければならない。われわれは青年を救ふことによつて社会を救ふことができる。職業訓練と青少年問題は一括した仕事であると考えられる。

議題 2 職業教育と訓練について

この議題は米国側から提出された議題であつたが、前述のようにローズ・オハイオ州知事が社会福祉、青少年問題を解決するための制度についての私見を述べた際に、この議題についての意見も併せて述べてしまったので田中三重県知事が日本の現状について大要次のような報告を行つた。

只今ローズ知事より、青少年問題に関連して「職業教育と訓練について」大胆卒直なご意見を聞いた。米国知事会より提出された本議題の意図が分らなかつたために、われわれが用意して来た資料はローズ知事の発表された意見に対応するものとは必ずしも思わないが、日本の現状および今後の課題について簡単に報告したい。

先づ職業教育の現状から申し上げたい。わが国の職業教育は大別して次の三つに区分できる。一つは「中等教育（高等学校）における産業教育」であり、一つは「高等教育（大学、短期大学、高等専門学校）における理工系学部での科学技術者の育成」であり、一つは、「社会教育における通信教育を通じて行なう職業教育」である。高等学校における産業教育では、「産業教育振興法」にもとづき 1952 年以來、公、私立学校の設置者に対し、産業教育の実験、実習施設、設備の整備充実をはかるための経費について国がその一部または全部を補助負担して今日に至っている。高等教育における科学技術者の養成は、「学校教育法」「大学設置基準」および「短期大学設置基準」等にもとづいて、理工系学部学科学生に対し実施しており、「大学」は現行学制の最終段階で 4 年修業、「短期大学」は 1950 年発足の制度で 2 年乃至 3 年修業であり、テクニシャン程度を養成し、「高等専門学校」は 1962 年発足の制度で、現在は工業高等専門学校と商船高等専門学校の二種類があり、共に実習に重点を置き専門職業教育を実施し、中堅技術者を養成してい

るのである。

次に職業訓練の現状について申し上げたい。わが国の職業訓練は、本年9月までは、1958年制定の職業訓練法に基づき実施していた。しかし、労働力の有効活用と質的転換の必要性から、本年7月に同法を改正し・10月1日から実施段階に入ったばかりであり、成果を期待しているものである。新職業訓練法の骨子は、以下に述べる9月までの職業訓練の内容のような、国、都道府県が行う職業訓練と企業内の職業訓練とを有機一体的に連携して職業訓練を全面的に拡大実施することとしたわけである。

わが国の職業訓練は、公共の機関が労働者一般を対象とする「公共職業訓練」と、事業主がその雇用労働者を対象に行う「事業内職業訓練」との二つに大別していたものである。公共職業訓練施設には都道府県が設置する「一般職業訓練所」が321カ所、雇用促進事業団が設置する「総合職業訓練所」が75カ所「職業訓練大学校」が1カ所および国が都道府県に委託実施させる「身体障害者職業訓練所」が10カ所、市町村、労働組合、公益法人が労働大臣の認可を受けて設置する「認可職業訓練施設」が5カ所で合計412カ所が設置されている。次に「事業内職業訓練」は、事業主が雇用労働者に対して行う職業訓練をいい、これに対し労働者は便宜と援助を与え、普及向上を図っている。事業内職業訓練には単独訓練と共同訓練がある。国は訓練職種ごとに、学科、技術の科目とか訓練時間とか、期間、設備について一定の基準を定め、各事業所の実情に応じ弾力的に運用ができるようにしている。

次に今後の課題について申し述べたい。先づ職業教育の課題から申し述べたい。

①高等学校進学者の増大等に伴い、後期中等教育の多様化が必要とされており、教育内容の一層の細分化、特殊化、専門化をはからねばならない。多

様化については、高等学校に科目を増設する等その領域拡大によるか、またはその他の各種学校の高等学校化によるか、二つの考え方があり、今後総合的検討が必要とされている。②学科と進路との関連を考慮するとき、普通科卒業生の4割が就職者であるので、これに対し職業教育を一層適切に施すにはどうすべきか、③職業教育を主とする学科から大学に進学する者の数も上昇している現在、大学入学制度または中学校における適切な進路指導について検討の必要がある。情報処理教育に重点をおく学科の設置の必要性が高まり、実習上の電算機については都道府県に共同利用施設を設ける必要があり、また担当教員の研修を行わねばならない。⑤農業高校を卒業した者で農業をやらないものが多い。農業教育をどうするか、などの問題がある。

更に、高等教育における科学技術者の育成についても、今後の経済社会の発展の方向および自主技術の開発強化の要請ならびに科学技術の需要増大に対処し、大学、短期大学、高等専門学校理工系学部学科について質、量両面の抜本的拡充をどのようにはかるべきか、また、社会通信教育は現在学校または民間法人が主体となり文部大臣の認可を受けてやっているが、経費負担あるいは内容について改善を期さなければならない等の問題がある。

次に職業訓練の課題について述べたい。現在、技能者の不足は184万人で不足率は19.5%に及んでおり、職業訓練の拡充は、今後も重要な課題である。これが対策としては、適応性のある人間を養成することが大切であり、中高年齢層の活用、婦人の労働力の活用が重要である。婦人の労働力を活用するためには保育施設の整備が必要である。

なお、日本の大学問題については、大学制度の古さに起因していることがないわけではないが、順次解決の方向に向っている。

大学問題に関連してローズ・オハイオ州知事から次のような発言があつた。

私は、せつかく納税者が金を払って建てたものに火をつけることは絶対に許されないと思う。どんな条件の下であつても、暴力を堪え忍ぶことはしたくない。オハイオ州の場合は、納税者が一生懸命働いて得た金を税金としてとりたて、その税金で建てたものに火をつけてもやすような学生の行為は絶対に許さない。問題の一つは、教育をしてもその教育に即した仕事がなければそれは教育でないことである。

日本も米国も同じ問題に直面している。職業をみつけなければならをいという頭痛がある。経済発展のためにも職業を見つけないければならない。仕事をしなければ、どこかで悪いことをしている。職業を見つけてやるのが先決である。

議題 3 その他

日本側から意見交換事項として提出したものについて、順次米国から発言があつた。米国側の発言の要点は次のとおりである。

金丸鹿児島県知事の幼児教育に関する質問に対し、ヘルムブレイト・ミシガン州知事から次のような報告があつた。

米国では、ヘッド・スタート（先発）と呼ばれるプログラムがある。学校入学前の児童に対するいろいろな教育のプログラムが米国にあるが、一番成功していると思われるのは、ヘッド・スタートというプログラムである。このプログラムは、豊かを家庭の子供と低所得の家庭の子供とを一緒にして教育するという方法である。

また、ニクソン大統領が検討しているデイ・ケア・プログラムというのがある。これは福祉家庭の子供を日中みてやるというプログラムである。この法律が通過したのは随分前であるが、大統領は検討している。単に子供をみ

てやるというだけでなく、もう少し積極的に何かしてやろうというのでこの問題を再検討している。大統領は、このデイ・ケア・プログラムと前述のヘッド・スタートとを何らかの形で結びつけようと考えておられる。つまりヘッドスタートのいい点をデイ・ケア・プログラムの中にとり入れて行おうとしているのである。そうすることによつて、福祉家庭の母親が働けることになる。それと同時に、ただ単に子守をしてもらうだけでなく、学校入学前の何らかの教育を子供たちに施すことができる。

(問) 金丸鹿児島県知事。ヘッド・スタート・プログラムは誰がこれを実施しているか、また、どの範囲で行われているか。

(答) 民間と州と両方で行なっている。費用は連邦政府から出ている。もちろんこのプログラムまたは施設は、大都市または人口の多い町で多く行われている。しかし農村でも見られる。

(問) デイ・ケア・プログラムはヘッド・スタートと性質が似ているか。

(答) そうです。もちろんデイ・ケア・プログラムも大都市の人口の多いところで行っている事業の一つである。というのは、大都市では、福祉家庭が非常に多いので、そのためにデイ・ケアという福祉家庭の子供対象の施設が大都市に集中することになる。なお、デイ・ケア・センター及びヘッド・スタートのほかに、幼稚園前の幼児を対象とするプリキンダー・ガーデンというプログラムがある。しかし、これらの仕事の定義はまだはっきりしていない。われわれとしては、働く女性が非常に多い現状からして、これらの対策は非常に重要であると思つている。

続いて西沢長野県知事より、観光事業について質問し参考資料の提供を要請した後、残存輸入制限撤廃問題と繊維品の自主規制の問題について、住民代表としての知事の立場として、その困難性を指摘し、米国知事の理解を求

めたのに対しローズ知事より次のような答弁があつた。

(答) 観光事業について

米国では連邦政府と州政府が協力して、とくに都市における土地利用の問題について、いろいろの事業を行つている。交通及び観光については、連邦政府と州政府と両方から費用を出している。もちろん地方自治体からも費用が出ている。運輸省からガイドラインになるような参考資料を日本に送らせてたい。

貿易問題について

残存輸入制限品目に関しては、これは主として農務省の仕事であり、われわれはその大きな部分の一部分しか関係していない。また繊維品の問題は商務省の管轄であるが、円卓を囲んで何らかの形で交渉が行われている限り希望が持てるのではないかと思う。「しやべつている時は歩いていない」というけれども、話している限り希望が持てると考えている。すべての分野で、商務省と農務省と国務省とつねに連絡をとつて、窓口をあけてさえいれば、何らかの形で希望が持てると思う。米国の場合でも、農業の分野でまだまだ完全な農業を営んでいるとは云えない。しかし、ニクソン大統領が農業の問題を解決していこうという動きを見せている。非常に多くの食糧が米国では無駄になつていると思う。

次いで、田中三重県知事から、河川、海水の汚染対策及び火力発電、原子力発電の公害対策について質問したのに対し、ローズ・オハイオ州知事は次のような答弁をした。

オハイオは他の州と比べ、汚水処理施設の数が一番多い。今までに 10 億ドルを費して汚水処理施設をつくつている最終的にはつきり決まつていないが、連邦政府が 50% 出せば州が 25%、地方が 25% 出してやるわけだが、

連邦政府が一寸怠慢である。滞納していてなかなか腰を上げない。

2年前にオハイオで水資源開発局が債券を発行し、その資金でこういう施設をつくっている。米国ではもし企業で500万ドルの施設を作るとすれば、500万ドル投資する見返りとして1,000万ドルの利益をあげなければならぬわけである。われわれの場合は、500万を投資してこういう施設をつくると、25年乃至30年の期間で企業に貸付ける。そうすると資本に見返りができるより却って損をするということがある。債券（収入債リベニュー・ボンド）の方を考えて見ると、普通のオープン市場で買う債券よりも、1.2%乃至2%利子が低い。

エリー湖に位置しているすべての企業及びすべての地域社会は第2次的な処理を行わねばならない。2段階目の汚水処理として85%乃至95%まで処理することが法律で定められている。どうしてこういう計画が成功したかといえば、水資源開発局（ウォーター・デベロップメント・オーソリティ）が債券を発行して資金を確保したことが成功のカギである。ある都市では第3段階目の処理をして95%乃至98%まで処理する所までできている。

火力発電所の冷却水の話が出たが、連邦政府と州政府はまだその基準を設定していない。しかし約60日後には火力発電所の冷却水の基準もはつきり出てくると思う。基準が決められたならば、どんなことをしてもそれに沿って仕事をして行きたい。

米国の諸州のうち、私の州では企業は最もよく協力してくれていると思うが、その協力のもとにその基準に沿って仕事をしてもらおうと考えている。水資源開発局関係のいろいろを法律や規則ができたら皆様に後でお送りしたい。連邦政府さえも将来そういう法規をまねて行くのではないかと思う。

以上で議題の審議を終り、和気あいあいの裡に挨拶の交換が行われた。

ローズ・オハイオ州知事は、米国側の知事団を代表して、皆様方にここに集まって頂き熱心に協議することが出来たことを非常に嬉しく思うとともに、心から感謝の意を表します。どのような問題でも結構ですから、お国に帰られて何らかの情報を得たいお気持ちがあつたら、手紙を頂きたい。できる限り資料を集めてお送りしますと挨拶した。

ホイットコム・インディアナ州知事は次のように挨拶した。

私は皆様方とすべてのプログラムに参加したいと思つたが、残念ながら、インディアナ州に仕事が待っているのですぐ帰らなければならない。日本の知事副知事各位は、米国でナンバー・ワンの知事、ローズ知事によつて歓待を受けておられるわけである。ローズ知事は非常に進歩的な方であり、このオハイオ州では米国の他の知事がやっている以上のことをやっておられる。私のインディアナ州では、最も新しい、最も近代的な港をつくっている。インディアナ港である。この機会をかりて、皆様方に来年の夏開港するとき是非ご来訪下さるようご招待申し上げたい。私は来年の夏家内をつれて是非日本の万博をお訪れたいと思つている。

ローズ・オハイオ州知事発言

最近、月の世界の探険が行われた。私は最初から自慢するつもりはなかつたが、結果としてアームストロング、最初に月の表面を歩いた人が私の州、オハイオ州から出ている。又、電気を発見したエジソンもオハイオ出身である。別に自慢をする積りはないが、情報までお知らせする。

ホイットコム・インディアナ州知事発言

アームストロングはオハイオ州出身かも知れないが、大学は私の州のパーズル大学に行ったことを一寸自慢したい。しかし、住んでいたのはこちらの州で、毎日私の州の学校に通つていたに違いない。

次いで、日本知事団団長奥田奈良県知事より次のような趣旨の挨拶があった。

本日の会議は極めて有意義な会議であった。われわれは明日はサウス・カロライナに行き、その後ワシントン DC を訪れる予定である。この前の日曜日にはアイダホ州の知事が日曜日を割いてわれわれを歓待して下さった。感激にたえない。来年は3月15日から9月13日まで日本の大阪で万博が開催される。どうか米国の全知事及び夫人のご来訪をお願いしたい。三重県は御木本真珠の産地であるので、夫人を連れてきて頂きたい。米国知事会に心から感謝したい。また万博のとき、ぜひ宇宙飛行士が日本に来られるようご尽力賜わりたい。

ローズ・オハイオ州知事発言

そういった趣旨のことを手紙や何かを書いて下されば、サインしてニクソン大統領に渡すので、こちらに文書で出して頂きたい。

奥田奈良県知事発言

月の人に来て頂くとともに、月の石を持って来て欲しい。

4 両国政府代表挨拶

当初米国知事から示された案では、知事会議において、ジョンソン国務次官、下田駐米大使の挨拶があることになっていたが、都合により、晚餐会で挨拶することになった。会議終了後、晚餐会前に日本知事団はジョンソン国務次官および下田駐米大使と別個に会い、歓談した。両氏の挨拶の内容は、日米知事会議と密接な関連を持つものであり、日米両国政府の日米知事会議にかけている期待も大きいと思われるので、ここにその要旨を報告することとしたい。

ジョンソン国務次官演説要旨

私は、日本について米国人に語るるときしばしば触れるのだが、日本の民主的政治過程が、かくも明らかに高度の人的資質をそなえ、自己の職責に献身的な都道府県知事を生み出している事実に、私は非常な感銘を受けている。したがって私はこの数年来、同じような特性をそなえているわが国の州知事と日本の都道府県知事の各位とのこの関係が、ますます深まり、活気を帯びてきたのを見て、とりわけ喜ばしく思っている。各位は言語と文化を異にしておられるが、各自が直面しておられる問題の上では相違点よりも類似点の方が多いことを認められていると思う。結局、限られた予算、都市化、汚染、教育問題……あるいはまた、選挙管理の問題……これらの問題には国境がないのである。

日米両国関係が大幅に成長し、その結果、これに伴う両国間の諸問題も増大している分野に、経済、財政、貿易の交流という問題がある。このような関係から生れる恩恵は、日米両国に膨大な利益をもたらしているので、懸案の問題に不当の重要性をもたせたり、これらの恩恵に暗影を投げかけたりしてはならない。しかしもしそれを望めないとすれば、われわれは相互理解を達成し、他の分野における諸問題の解決に努めると同じ精神で、それらの諸問題の解決に努力することが肝要である。……私が米国民の心配している事柄の幾つかについて日本知事各位に述べたのは、批判や非難のつもりからでは毛頭なく、各位が米国民への理解を深めて帰国の途につかれることを切望するためである。他方最初に申し上げたように、これらの事柄に関しても、同様な率直さで米国の各州知事に話しかけられるよう、私は望んでいる。なぜなら、日米両国民の将来にとつてだけでなく、太平洋・アジア地域の各国民にとつても大きな意義をもつに違いない両国間の理解をわれわれが促進

できるのは、このような交流によるはかないからである。

5 下田駐米大使演説要旨

今日、日本国民は、経済的業績を通して獲得した拡大せる可能性の基礎の上に立つて、日本がいかなる世界的役割を果たすべきかを探求している。日本国民は今や、その高まった潜在力に相応して国際間で負うべき責任を強め、且つ広めることができるし、またすべきであると感得している。

他方米国の宇宙飛行士によつて達成された月面到着の巨大な業績によつて象徴されるように、世界は輝やく技術的進歩のもう一つの新世紀に向いつつある。

日米関係は、になうべき世界的責任に対する日本国民の変化しつつあるアプローチと態度にかんがみ、また、同時に人類が成就しつつある急速を技術的進歩にてらして、更に新しい発展をなすべきであります。

かようにして、1970年代が接近するにつれ、われらの二国は太平洋をまたいで、エネルギーで固く、また、氷結する協力の関係の建設に着手することでありましょう。そのような協力を基礎にふんまえて、われわれ二国民は世界、特にアジアと太平洋地域の平和と繁栄の促進に更に大なる寄与をし得ることでしょう。このことこそ日本政府の真摯な望みであり、固い決意とするところである。日米関係はこうした高まる日本の世界的責任との関係において、日本国民が示している変化しつつあるアプローチと態度に照合した新しい発展をなすことでしょう。私はこの会議が日米両国の関係をどのようにまたいかなる方向に発展さすべきかという問題に何らかの配慮をされんことを真剣に希望する。

6 おおりに

今や、国際外交は軍事優先の外交から経済外交に転換しようとしている。日米関係において、わが国が国内農業保護のため外国農産物に課している関税に対する米国の撤廃要求、米国がわが国から輸入している繊維製品に対し数量制限を行わんとすることに対するわが国の反対等はこのような現象の好例と見ることができるであろう。このような問題が政府当局者において折衝される場合には、ナショナル・インタレストがむき出しに出て容易に結論が出ないのみならず、両国民の国民感情を刺激して、事態を紛糾させ両国民が相互に不利益を蒙る恐れがある。しかるに、両国の知事がこれらの問題を提起した場合には、都道府県が、または州知事が抱えている問題として、お互いの立場を理解し合うことができ易いのである。従って、その問題が直ちに解決されなくても、両国民の相互理解を促し両国民の感情を和げ、互惠の方向を見出すことができるであろう。

第7回日米知事会議において加藤岡山県知事が米国の繊維品輸入制限および加徴金問題に対して、日本の知事の立場を表明したごとき、また、今回の日米知事会議において西沢長野県知事が農産物自由化問題および繊維製品数量制限問題について日本の知事の立場を表明したごときは、日米知事会議の意義を一層明瞭にしたものとして注目すべきことである。わが国においては、欧米先進国に比べて著しく所得の少ない農業および中小企業の体質を改善し、育成することが焦眉の急となつている。しかもこれらの産業の安定育成には地域に即したきめの細かい施策が必要であり、府県がやらなければ解決出来ない問題であるといっても過言ではないであろう。国際的視野に立つてこれらの問題を考えるとき、外国との相互理解を得ることがいよいよ必要となるのである。また、わが国における経済の発展に伴い、工業製品等においても

外国と競合する機会が多くなるであろう。このような事態を考えると、国際知事会議は、府県の施策の参考になるばかりでなく、府県住民の生活安定に直接つながる重要な意義を持つというべきであろう。

第 2 部

視 察

1. 日 程

1969年10月14日（火）東京

- 15：30～16：30 都道府県会館3階知事室において知事一行顔合せ。JTBより旅行手続きについて説明。
- 16：30～18：00 アメリカ大使館邸においてマイヤー大使夫妻のティパーティー出席。
- 10月15日（水） 東京
- 09：00 訪米知事団日航カウンターにてチェックイン。
- 10：10～10：20 空港VIPにおいて歓送式。
- 10：30 歓送式終了後直ちに出国手続き。
日航塔乗機を背景に一同記念撮影。
- 11：00 離陸，JAL6便。
- 10月14日（火） ハワイ（ホノルル）
- 23：10 ホノルル空港着陸。
バーンズ知事代理ポイルス准将その他日系人代表出迎え。
ロイヤル・ハワイアン・ホテル宿泊。
- 10月15日（水） ハワイ
- 09：30 ロイヤル・ハワイアン・ホテル1階特別室において奥田团长メッセージ発表。
- 10：00 州庁に向けホテル発。バーンズ知事を公式訪問。
- 11：15 パンチポール国立墓地に花輪を捧げる。
- 12：00 日本総領事官邸においてビュッフェ式昼食会。

- 午 後 自由行動（案内者つき）
- 17：20 ホテル発。バーンズ知事公邸において知事夫妻主催歓迎晩さん会。
- 19：30 以後自由行動。

ロイヤル・ハワイアン・ホテル宿泊。

10月16日（木） ハワイ～オレゴン

- 09：45 ホテル発。シーライフ公園見物。
- 11：45 シーライフ公園発。ポリネシア文化センター訪問。
昼食。
- 18：15 ホテル発。日系人会主催晩さん会。（歓楽亭）
- 22：15 ホノルル発。パンアメリカン航空 894 便。機中泊。

10月17日（金） オレゴン（ポートランド）

- 07：35 ポートランド国際空港においてマッコール・オレゴン州知事及び州，市関係者並びにバラ祭女王による歓迎。
- 08：45 ベンソン・ホテルに向け出発。州警察官先導。
- 12：00 マッコール知事，シュランク・ポートランド市長，ディウ
ィース・ポートランド商業会議所会頭主催昼食会。
オレゴン州交通局長ジョン・フルトン氏の「オレゴンと日
本との提携」について講演。
- 14：00 外輪船によるポートランド港周遊。ウイラメット河。
オレゴン州州都セーラムに向け出発。
オレゴン州庁訪問。知事室にて記念品贈呈。
- 17：30 知事邸において歓迎カクテル・パーティー。
- 19：00 イラヒ・カントリー・クラブにおいて知事主催歓迎晩さん
会。

- 作のエンジン等を視察。
- 11 : 15 本田工場出発。
- 11 : 30 ヒルクレスト・カントリー・クラブ到着。昼食。フランク・オガミ氏夫妻その他日系人出席。昼食後ゴルフ。
- 13 : 30 ヒルクレスト発。
アマルガメイテッド製糖会社の工場視察。約 30 人のアイダホ在住日本人研修生が歓迎する。
- 14 : 30 シンプロット馬鈴薯加工工場，巨大な冷蔵庫，冷凍加工完成品，摂氏零下 20 度の冷凍庫等視察。
- 15 : 15 シンプロット工場発。ウィルダール近くのジェイムス山田氏の農場視察，茶菓の接待を受く。
- 17 : 30 ダウンタウナー・モテルにおいて記者会見。
- 18 : 00～19 : 30 休 息。
- 18 : 30～21 : 30 ダウンタウナー・モテルで晩さん会。
有名なバスク・オインカリ踊子たちの余興あり。
- 10 月 20 日（月） アイタオ～ネブラスカ**
- 07 : 15～08 : 00 ダウンタウナー・モテルで朝食。サミエルソン知事出席。
- 08 : 30 ハイヤーにてダウンタウナー・モテル発空港へ。州警察官護衛。
- 09 : 15 ポイジー空港発。ユナイテッド航空 670 便。
- 10 : 43 コロラド州デンバー空港へ。
乗替え。
- 11 : 30 デンバー空港発。ユナイテッド航空 264 便。
- 13 : 38 オマハ空港着。
- 13 : 45 オマハ空港よりグレーハウンド・バスにてラディソン・ブ

- ラックストーン・ホテルに向う。
- 15 : 00 ホテル着。
- 15 : 15～17 : 00 ポーイス・タウン視察。(見捨てられた貧困家庭の子供たちの施設)
- 17 : 15 ラディソン・ブラックストーン・ホテル帰還。
- 17 : 15～19 : 00 自由時間。
- 19 : 00～19 : 30 ホテルにてティーマン・ネブラスカ州知事主催カクテル・パーティ。8階エメラルドの部屋。
- 19 : 30 同ホテルにて同知事主催晩さん会。

ラディソン・ブラックストーン・ホテル宿泊

10月21日(火) ネブラスカ～オハイオ

- 07 : 00 ホテルにて朝食。1階シミアンの室。
- 08 : 00 ホテル発。グレーハウンド・バスにてリンカーン市に向う。
- 09 : 15～11 : 00 ネブラスカ大学視察。
- 11 : 00～12 : 00 州議事堂及び州庁訪問。
- 12 : 00～13 : 30 ファスト・ナショナル銀行役員室にて昼食。テーマン知事出席。
- 13 : 30 バスにてオマハのブラック・ストーンホテルに向う。
- 16 : 05 空港出発。ユナイテッド航空 262 便。
- 17 : 17 シカゴ着。イリノイ州シカゴにて乗替え。機内夕食。
- 21 : 00 シカゴ発。デルタ航空 653 便。
- 22 : 57 シンシナティ空港着。空港にてローズ・オハイオ州知事出迎え。バスにてシェラトン・ギブソン・ホテルに向う。同ホテル宿泊。(西沢知事は午後 6 時 47 分アレゲーニ航空 862 便にてシンシナティ着)

10月22日（火） オハイオ

- 09：00 (1) ホテル発。シンシナティ地区の港湾施設視察。
(ポート、機動艇を使用し貨物船施設の視察。)
- (2) シンシナティ・ミリング機械工場視察（世界最大といわれる）
- (3) プロクター・アンド・ギャンブル石けん工場視察。
以上3個処を自由選訳により視察する。
- 12：00 訪問する会社の招待により昼食。
- 13：15 ホテル帰還。
- 14：00～16：00 日米知事会議。（シエラトン・ギブソン・ホテル4階大舞踊室。）
- 18：00 オハイオ州主催カクテル・パーティ。
- 19：00 公式晩さん会。

シエラトン・ギブソン・ホテル宿泊。

10月23日（木） オハイオ～サウスカロライナ

- 09：00 オハイオ河遊覧。
- 16：00 シンシナティ空港に向けホテル発。
- 16：25 シンシナティ空港発。デルタ航空345便。
- 19：30 ジョージア州アトランタ空港着。乗替え。
- 20：29 回空港発。デルタ航空651便。
- 21：20 チャールストン市立空港着。（サウスカロライナ、州及びチャールストン市関係者出迎え。ホテルに直行。

シエラトン・フォート・サムスター・ホテル宿泊。

10月24日（金） サウスカロライナ

- 7 : 30 ホテルにて朝食。州港湾局主催。遊覧ポートにてホテル棧橋出発。フォートサムスター史跡，州管理による港湾施設，カッパー河橋，工業施設，海軍基地，州立港湾穀物エレベーター等視察。
- 10 : 00 穀物取扱い施設視察。
- 10 : 30 バークレー・チャールストン・ドーチェスター技術教育センター視察。
- 11 : 30 アヴコー・ライコウミング会社工場視察。
- 12 : 00 同上工場において昼食。
- 14 : 45 サウス・カロライナ更生センター（サマーヴイル）視察。
- 16 : 30 シタデル陸軍大学校で閲兵式参観。
- 17 : 30 ホテルに帰還。
- 19 : 30 コロニー・ハウス・レストランでチャールスト郡委員会主催歓迎レセプション及びディナー。

シエラトン・フォート・サムスター・ホテル宿泊。

10月25日（土） サウスカロライナ～ワシントン

- 07 : 30 ホテルにて朝食。
- 10 : 00 ホテル発。チャールストン史跡，セントマイケル教会，ハンリー博物館等視察。
- 10 : 30 ミドルトン・プレース庭園視察。園内にて茶菓の接待。
- 11 : 30 オールド・タウン視察後個人の家庭訪問。昼食。
- 13 : 30 シタデル・スタジアムにてシタデル対ディヴィッドソン大学のフットボール試合見物。
- 15 : 15 スタジアム発ホテルに向う。
- 17 : 15 ホテルよりチャールストン市立空港に向う。
- 18 : 15 同空港発。ナショナル航空 420 便。（機内夕食）

19：25 ワシントン空港着。

ウインザー・パーク・ホテル宿泊。

10月26日（日） ワシントン

10：00 ホテル発。

ジェファソン記念堂，リンカーン記念堂，タイダル・ベースン，ポトマック公園，アーリントン墓地等市内観光。

12：00 ワシントン郊外の河本幸夫氏邸にて支那料理による昼食接待。

15：00 ホテル帰還。

18：00 日本大使館において大使主催晩さん会。

ホテルにて解団式。

ウインザー・パーク・ホテル宿泊。

10月27日（月） ワシントン

08：00 運輸省においてポルペ長官と朝食会。

ポルペ長官講演。

11：30 アグニュー副大統領と会見。

12：00 上院議院における昼食会列席。

13：00 上院議会参観。

16：30 ワシントン・ナショナル空港発。アメリカン航空 584 便。

（奥田団長は 14：30AA464 便にてワシントン・ナショナル空港発，ニューヨークに向う。

2. 10月14日（火） 東京

知事団一行最終打合せ

午後3時30分から4時30分まで、都道府県会館3階知事室で、訪米知事団一行の最終打合せと、一行の顔合せ会が開催されました。この打合せ会には、さきに出発された三重県田中知事を除き、団長奥田知事ほか全員が出席されました。

先づ事務局から、翌15日東京国際空港出発に際し、日航カウンターにおけるチェック・イン手続きについて、VIPルームで開催される歓送式次第等について説明があり、続いて日本交通公社職員から、貴金属の持ち出しや携行外貨等について説明が行われました。

マイヤ駐日アメリカ大使夫妻の招待

上記打合せ会終了後一同は、直ちにアメリカ大使官邸を訪問し、マイヤー大使夫妻招待のティー・パーティーに出席いたしました。この日は大使も公使も都合が悪くて知事団を迎えることは出来ないとのことでしたが、大使がようやく都合をつけて知事団一行を招待することになったということでした。

約1時間半歓談ののち記念撮影をしてから知事団一行は、大使官邸を辞去しました。

3. 10月15日（水） 出発当日

出 発 晴

午前9時訪米知事団一行東京国際空港に集合、日航カウンターでチェッ

ク・インを済ませました。

午前 10 時 10 分から同 25 分まで、2 階ロビーの VIP ルームで、一行の歡送式が行われました。

歡送のことば	宮内局長
挨拶	団長 奥田知事
乾杯	音頭 宮内局長
	司会 篠原総務部長

歡送式進行中係員によつて代理通関が行われ、出国手続きは完了しました。知事団一行は、CIQ 室を通り廊下から一度地上に下りて塔乗機の前で、第 8 回日米知事会議代表団と書いた横幕を広げ、かねて依頼しておいた日本航空写真班員によつて、記念撮影が行われてから機上の人となりました。JAL6 便は、定刻通り午前 11 時に離陸しました。

天気晴朗、絶好の飛行日和です。晴空に舞い上つた塔乗機は、高度 1 万メートル、時速 800 キロで頗る快適な飛行を続け、一路目的地にばく進みました。遙か下界に綿雲が流れ、雲の切れ目からかすかに海上の白波が見えました。

4. 10 月 14 日（火） ハワイ（ホノルル）

ホノルル国際空港

午後 11 時 10 分、予定通り塔乗機は、ホノルル国際空港に着陸しました。東京国際空港を飛立つてから約 7 時間、日本時間なら 10 月 15 日午後 6 時頃ですが、ホノルルでは、14 日午後 11 時なのです。これは東京とホノルル間に時差が 19 時間あるため、1 日さかのぼつて前日に着くことになるのです。ですから機上の人となると間もなく日が暮れ始め、深夜

ということになるのです。始め東京国際空港午前10時発の日航便の予定でしたが、予約がとれなくて11時便になったのです。

空港にはバーンズ知事代理ポイルス将軍や多数の日系人代表の方々が出迎えてくれました。パスポートとバゲジクレーム（荷物引取券）は、在ホノルル日本総領事館の浜中領事と日航職員が処理してくれましたので、通関手続きも荷物引取の手数も何もありませんでした。空港貴賓室に案内され、各種の飲物のサービスを受けながら少時休憩しました。ポイルス将軍は、「本夕はバーンズ知事夫妻が皆様をお出迎えする予定でしたが、ハワイ全島の重要市長会議が行われ、その会議は今も続行されております。このような訳で、知事夫妻は、皆様をお迎え出来ないで残念でしたが、くれぐれも皆様によろしく伝えてほしいとのことでした」と挨拶しました。

昭和37年に日米知事相訪問が始められましてから、日本知事団の訪米は、今回は4回目です。そして毎回ハワイを訪問しました。第1回訪問の際は、前任知事でしたが、第2回、第3回ともバーンズ知事夫妻は、日本知事団を空港まで迎えてくれました。ホノルル到着は、いつも深夜でしたが、バーンズ知事夫人は不自由な身体で、車椅子に乗って空港まで迎えて下さいました。バーンズ知事夫妻の誠実真摯な人柄が偲ばれます。

日系人代表の方から、馥郁とした真紅のレイを一人一人肩から掛けてもらいました。飲物のサービスを受けている間、フラダンスの歓迎を受けました。約1時間休憩ののち、州警察の車を連ねて宿舎ロイヤル・ハワイアン・ホテルに送られました。就床午前2時。

5. 10月15日（水） ハワイ

メッセージ発表

午前 9 時 30 分、ロイヤル・ハワイアン・ホテル 1 階の Board of Director's, Room (役員室) で、ポイルス将軍立合いのもとに、団長奥田知事のメッセージ発表が行われました。3, 4 名の記者と 1, 2 名の写真部員のほか、テレビ、カメラが据え付けてありました。メッセージの発表が済んでから、ハワイ・タイムスの記者という若い婦人記者が、70 年万博のこと、日米知事会議の議題のことなどについて、奥田団長に質問しました。ポイルス将軍は、「私も奈良を訪問したことがあります、その記憶は今も新たです」といいました。奥田団長が「私の息子は大蔵省から派遣されて、2 年間イースト・ウエスト・センターで勉強しました。」というポイルス将軍は「奥田知事さんの後継者として立ばな知事さんになれるでしょう」といいました。奥田団長が、すでに知事 5 選であることを伝えますとポイルス将軍は、バーンズ知事は、現在 2 選目であるが、来年は選挙が行われるので、知事も立候補します。3 選目の立候補は、ハワイだけのことで他の州では例のないことです。しかし 3 選は、近い将来禁止されることになりましようと思しました。

ハワイ州庁訪問

午前 10 時ホテル発。ハワイ州庁にバーンズ知事を公式訪問しました。この州議事堂は先月落成式を挙行了たとのことでした。一見万国博のどこかのパビリオンのようなようです、5 階建てです。先づ知事の公式接見室に案内されました。バーンズ知事は、これは知事の執務室ではなく、公式の接見室であるといわれました。中央の知事席を囲んで半円形にテーブルが配置され、右から順次日本知事団が席につき、最後に神奈川県津田知事が席につきました。日本知事団の紹介があつてからバーンズ知事の挨拶に続いて奥田団長の挨拶があり、最後に津田知事の挨拶がありました。津田知事は、ホノルルの白木屋で開催された神奈川県見本市に出席のためホノルルを訪問し、この日本知事団と一緒に、バーンズ知事に会見したのでした。

バーンズ知事と会見ののち、チン院内総務の案内で議事堂内を参観しま

した。バーンズ知事の執務室や上下両院の会議室を参観しました。両院内はいずれも茶褐色のジュータンが敷きつめられ、上院は 25 名、下院は 51 名の議席が設けられておりました。木部は悉くハワイ産のコアの木を用いたそうです。

上院議員 25 名のうち日系人議員は、約半数の 12 名を占め、下院議員は、半数を越える 27 名を占めており、日系人が強大な勢力を占めていることを窺い知ることができます。一緒に案内していたバーンズ知事は、上下両院とも開会式以外は、知事は出席する必要はないのだといわれました。案内者の説明によると、このビルは未だ完全には竣工していないが、建築費は 300 万ドル（10 億 8 千万円）を要したとのことでした。試みにこのビルで働らく職員数を尋ねましたところ、常勤は 400 名で、臨時雇は 100 名であるとのことでしたが、ハワイ全島の人口の約 79 万（1968 年 1 月推定）としますと、日本の小さな県と比較しても、職員数は、大変少いように思いました。アメリカ各州の州庁職員は、多いところで 3,000 名程度だそうです。これは事務が簡素化され合理化されているからだと思っています。

パンチポール国立墓地

ハワイ州庁を辞去してから一行は、ハイヤーを連ね、午前 11 時 15 分パンチポール国立墓地を詣で、アメリカ側で用意してくれた紫のカトレヤの花で飾られた花輪を捧げました。この墓地はパンチポールの丘にあつて、ここは、凡そ 7 万 5 千年前起きた噴火によつて出来た噴火口だといわれています。広さは 112 エーカーあつて、緑の芝生に蓋われ、その中にマッチ箱を倒したような低い白大理石の墓碑が、規則正しく並べられ、ところどころに参詣人の供える南国の花が飾られています。第 2 次世界大戦の戦歿勇士 1 万 3 百柱を含め、1 万 9 千 5 百柱の英霊の墓碑が立てられているのです。1949 年 9 月 2 日対日戦勝第 4 年目の記念日に墓地として定められました。墓地の中央奥に記念碑と記念堂が建てられていますが、こ

これは 1958 年 6 月に着工され、1965 年 1 月完成しました。堂内には遺体の失われた 2 万 6 千 250 名の英霊の氏名が記録されています。大理石の碑には、月桂樹の小枝を持つた清素な女神の像が浮彫にされていますが、この像の高さは 30 呎あります。第 2 回日本知事団の訪米の際は、完成後間もないこの碑に、団長東知事によつて花輪が捧げられました。

日本総領事官邸における昼食会

正午吉岡総領事主催の昼食会が、総領事官邸で開催され、日本知事代表団と日系人代表の方々が招待されました。総領事官邸は、緑に囲まれた静かな住宅街にあつて、日本の知事代表団ハワイ訪問の際、毎回昼食会に招待されています。屋上にへんぽんと翻る日章旗が、緑を背景に印象的でした。カクテル・パーティに続いて日本食によるビュッフェ・スタイルの昼食が供されました。

約 1 時間半、ゆつくりご馳走になつてから、各ハイヤーに日系人の案内人つきで自由行動に移りました。

ヌアヌパリとアラモアナ・ショッピング・センター

一行は先づヌアヌパリを訪れました。此処は断崖の上にあつて四季春秋といつてもハワイは四季の区別はありませんが、一年中昼夜を問わず強風の吹くところで有名です。展望台の下は深い崖になつていて、遙か裏オアフの街を俯瞰することが出来ます。昔ハワイを統一したカメハメハ大王が、敵をこの断崖から追い落した古戦場であるといわれています。

ヌアヌパリから一同車を連ねてアラモアナ・ショッピング・センターに向いました。ホノルルの人々は、全米第一のショッピング・センターであると誇つていますが、最近はポートランドのロイド・ショッピング・センターに一位を譲つたということです。いずれにしても構内に 6,000 台の自動車を収容することのできる無料駐車場もあり、各種の店舗が広大な地域に軒を連ねています。白木屋もこの中に店を構え、いろいろな日本製品を売っています。

ハワイ日系人の祖国愛

ハワイの日系人の人々は、日本人を心から敬愛し、むしろ彼等の誇りとしているように思われます。それは日本知事団のハワイ訪問の慶ごとに日系人の人々が時間と金を惜しまず大歓迎してくれることにも窺われますが、初対面の人であつても親切によく世話をしてくれます。小田さんはハワイ日系人会の役員をしている人ですが、今回も知事団の案内人としてよく世話をしてくれました。この小田さんが自動車ドライブ中、滔々と現代日本批判論をぶちました。曰く、『自由を主張する者は、他人の自由も尊重せねばならぬ。然るに何ぞや殊に現代日本の青年男女は、自らの自由は主張するが、他人の自由は踏みにじり、恬として恥ぢないのみか、当然のこととしている。日本人の公衆道徳は全くなつてない。

この頃日本の若い人々が沢山ハワイを訪問するようになったが、彼等は公園や海岸や道路をちらかし放題にする。だからハワイの人々は Japanese Pig (日本人の豚) と呼んでいるのである。私がこのような苦言を呈するのは、真に日本を愛し日本を誇りとしているからである。

だが私は日本が好きだ。山紫水明の日本を愛し、日本の文化を誇りとしている。日本人は、元来人情が細やかで親切心に富んでいるのだ。』

ざつとこのような論旨を熱気を帯びた口調で述べ立てましたが、ハワイの日系人は、真に日本を愛し、彼等の誇りとしているので、われわれ日本人、特にハワイを訪問する日本人は、彼等の期待に背かぬようにしなければならぬと思いました。

バーンズ知事夫妻主催歓迎晩さん会

午後 5 時 30 分からハイヤーを連ねてバーンズ知事官邸 (ワシントン・ブレース) に向いました。広い邸内は緑に囲まれ、青々した芝生に蓋われています。

多数の州、市関係者や日系人代表の人々に、官邸も芝生も人々が溢れておりました。16 日付のハワイ・タイムスの報道は、この夜の参会者 1400

名の大宴会と報じておりました。邸内にも芝生にも、カクテルのカウンターが何か処も設けられ、山海の珍味のご馳走が山盛りされていました。誇張ではなく、流石大勢の人々が食べても、ご馳走は一向減らないようでした。部屋の一隅の壇上には、バンドが演奏され、終始華やかなフラダンスが演じられていました。

バーンズ知事夫人は、例の車椅子に乗って、つつましやかに部屋の隅で人々に挨拶していました。バーンズ知事の姿が見えないので、儀典長のポイルス將軍に尋ねますと、「そのうち裏庭の方からは入って来ますよ。いつもそうなんです」と申されました。宴酣の頃知事は、ひよつこり姿を現わしました。知事は、歓迎の辞を一席ぶって得意になるような人ではないのです。夫人の傍にバーンズ知事呼んで来て、日本知事代表団から、一人一人土産物が贈られました。奥田団長からは、正倉院の御物を模した京都西陣織のテーブル・センター、大分県立木副知事からは、名産の竹細工に代えて絹織物等々、贈物の内容が日本語で説明され、逐一通訳されました。知事夫妻は、終始にこやかな笑みを湛え、小児麻痺で車椅子に乗っている夫人の傍で、いたわるように夫人に話しかけている知事は、夫婦道はかくあるべしと人々に教えているようでした。

バーンズ知事は、熱心なキャソリックの信者で、かつて日米知事交換訪問で日本訪問中も、どんなに疲れていても毎朝6時の教会の礼拝は欠かしたことがありませんでした。『知事はなぜ酒も煙草ものまないのですか？』と尋ねました時知事は、一言『妻が病気だから』と答えました。それでいて大の日本びいきで、四男には征四郎という日本名を付けている位です。

午後7時30分官邸を辞去、日本人会の人々に連れられて、何処かのレストランで、カクテルを飲みながら、フラダンスや火の踊りを見せて貰い、ホテルに戻りました。ロイヤル・ハワイアン・ホテル宿泊。

6. 10月16日（木） ハワイ～オレゴン

シーライフ・パーク

午前9時、ハイヤーを連ねてホテル発。絶好の日和。シーライフ公園視察。

ここでちよつと各州の日程のことについて触れてかきます。アメリカ本土では、各州ごとに日本語の日程を準備してくれます。これは昭和42年の第3回の日本知事団の訪米の時以来、クリフィールド局長の尽力によって各州で準備されることになったものですが、これがどんなに役立つかは、測り知れないものがあるばかりでなく、日米の理解と友好の象徴といえるものであります。それ以前は、すべて英文の日程が渡されたのであります。ハワイでは、今回も英文の日程が渡されましたが、大変凝った趣向のものでした。3つ折りのホルダーになつていて、カバーの表紙には金色の州のシールが貼られ、その下に招待者の氏名と、滞布中の案内者と運転手の氏名が印刷してありました、ホルダーを開くと左側にバーンズ知事の写眞があり、中央に日程が印刷してあり、カバーの他の2面には、新装成つた州庁が印刷してあつて記念品として持ち帰るのに格好のものでした。

シーライフ・パークは、マカプー半島の北岸にあつて、ワイキキ反対側約150哩のところにあります。マカプー海洋研究センターの一部をなし、一般に公開されています。年間50万人の訪問者があつて、ホノルルの観光事業にも大役を果しています。巨大な水槽によく訓練されたイルカや鯨が入れてあつて、若い女性の吹く呼び子に応じ、あるいは水中でいろいろの芸をしたり、あるいは空中に張られた綱を連続ジャンプしたり、餌を求めて空中20呎もハイジャンプをして見せます。

園内に水族館もあつて、地下からガラス窓を通して魚の生態を観察する

ことが出来ます。この水槽には 30 万ガロンの海水が貯えられています。浜辺の池に巨大な海亀が、少女の手から餌をもらっていました。此処は単に娯楽施設であるばかりでなく、海洋科学研究所でもあるのです。日本は異状な寒波の襲来というのに、好天に恵まれたホノルルは、シヤッ一枚で汗が出る程でした。

ポリネシア文化センター

シーライフ・パークを後に午前 11 時半ポリネシア文化センターを訪問しました。

ポリネシア文化センターは、モルモン教会が経営する教育と娯楽の施設であり、他方ポリネシア文化の存続を目的としています。モルモン教会が経営し、この文化センターの入場料や訪問する観光客の案内等によつて、数百名の学生にスカラー・シップを与えています。文化センターでは、古代のハワイ、ポリネシア、タヒチ、マオリ、トンガ、サモア、フィジ等南方諸島の小民族の文化と生活、習慣等を紹介しています。幾つもの部落に分れ、部落から部落は、ガソリンのトロリー・カーに乗つて巡回します。

知事団を案内してくれたのは、現地人留学生の女生徒と、他にもう一人日本人留学生でした。日本人留学生は、福井秋子さんといつて、東京都中央区蠣殻町 1 の 8 が自分の住所であると教えてくれました。

「このお仕事は、私今日始めてなのでうまく説明できますか知ら？」といつて少し上気しているようでした。サモアの家では夫婦の寝室を見せてくれました。床の上の粗末な寝具は、ダブル・ベッドで、長い竹の枕が置いてありました。集会所のようなところは、学校の教室で、机も椅子もありません。生徒は床の上に座つて授業を受けるのだそうです。トンガの家では、頭にレイを乗せてくれました。これは英語では Head Band ですが、現地語では Tipare というのだそうです。トンガの踊り Espell Mataali を見せてくれました。フィジの家では、女王様の部屋を見ました。

昼食は、ハイビスカス簡易食堂で、珍らしいポリネシア料理のご馳走に

なりました。一人一人の首に、美しい南国の花のレイを掛けてもらいました。食堂の正面が芝生になつていて、ポリネシアのダンスの余興で饗応してくれました。帰りがけにみんな門の外まで送つてくれて、ココア・ナッツの実の汁をご馳走してくれました。

日系人会主催歓迎晩さん会

午後6時半から日本料亭「歓楽」で開催された日系人会主催の晩さん会に招待されました。参会者約500名の大宴会でした。日系人会の小田氏の司会で始められ、全国知事会井土次長が、日本知事団一行紹介のあと、日系人会々長西氏が、在ハワイ日本総領事、州知事代理、ホノルル市長代理その他日系人会幹部の紹介ののち、日本知事代表団の男性には、真紅のレイが、鹿児島県知事夫人と三重県知事令嬢には、純白のレイが贈られました。

西氏の歓迎挨拶に次いで吉岡総領事が、約10分間にわたる演説をしましたが、その要旨は次のとおりです。

『私は昨年9月当地に赴任しましたが、多数の日系人の方々から盛んな歓迎を受けました。その際こんなにも多数の日系人の方々がおられることに驚いたのであります。

戦後日本は戦争を放棄し、新しい民主的文化国家として生まれ代り、専ら日本製品の海外輸出によつて経済の発展を図つて参りました。

百年前日本人は、始めてハワイに移住しましたが、僅か百年にして今日これだけの発展を遂げられましたことは、まことに驚嘆に価するものであります。知事各位は、日本の発展の最先端に立たれる方々であり、日本人は海外輸出と移住の外に生きる道はないのでありまして、知事各位のご指導とご＝導とをお願いする次第であります。

同胞が海外に進出しても、後続部隊が続かなければ自滅する外はありません。私は十数年前初代の移住課長をしておりましたので、日本人の海外移住に関し、特に深い関心を抱いているものであります。ハワイには現在

20 数万の日系人がおられますが、知事副知事各位には、海外移住がいか
に重大な意義を有するかがお分りのことと存じます。

日本の発展は、海外に人が出るか物が出るかにかかっています。ハ
ワイのパパイヤが今年 4 月日本に輸出されることになり、また、島根
県の梨がハワイに輸出されることになりました。青森県のりんごも、
河に棄てる程あるのでしたら、安くどんどんハワイに輸出していただ
きたいと存じます。』

奥田団長挨拶の要旨

日本知事代表団を代表して、一言ご挨拶申し上げます。私どもは一昨日
ホノルル国際空港に到着いたし、香り高いレイとキッスで迎えられま
したが、今晚はまた美しいレイとキッスで送られることになりました。
できることなら他の知事さんたちに先に行っていただいて、私だけも
っと長く滞在させてもらいたいと思う程であります。広いアメリカで、
自由に日本語で話が出来ますのは、ハワイ州だけだと存じます。

西会長さんのお話によりますと、日系人の皆さん方は、日系人会の連
合会を作って私どものお世話を下さいましたそうで、全く感激の外は
ございません。日本の知事さん方は、すでに 3 回当地を訪問してあり
ます。私どもは 4 回目の訪問であります。先に来られた知事団も、
このようにご歓迎を受けたことと存じまして、お礼の言葉も無い次第
であります。

日本は大筋において、非常を經濟の発展をいたしております。これは
皆様方のお方に負うところが多大であると存ずるのであります。

来年は、大阪で万国博が開催されます。ハワイでは、万博の援時を
するため特別の予算をとられたそうですが、万博に来られけしたら、
ぜひ奈良

と私をお訪ねいただきたいと存じます。奈良は大阪の隣りで、1,200年の古都であります。万博の資料を少しお持ちいたしましたので、ご覧いただきたいと存じます。

日系人会の皆様の一層のご活躍をお祈りして、私のご挨拶といたします。

ホノルル空港出発

歓楽亭の晩さん会場から、次の訪問地に向うため、直接ホノルル国際空港に向いました。空港貴賓室には、ポイルス将軍、日系人会の西会長、小田氏その他多数の日系人会代表の方々が送りに来ておられました。例によってフラダンスの歓送がありました。歓楽で真紅の大きなレイを贈られたのに、ここでもまたレイを贈られました。首が廻らない位です。恐らく1億10ドルか20ドルしたろうと思われました。

バーンズ知事は、貴賓室には入らず、入口の廊下で一行を迎え、ライブまで送ってくれました。午後10時20分、パンアメリカン機894便は、定刻通り夜のホノルル空港を離陸しました。東京と違い澄み切った空には銀の星がまたたき、下界のホノルルの街は、青、赤、黄とりどりの輝やく真珠をばら撒いたようにきれいでした。

機上余談

ホノルルから先アメリカ本土内は、随員も含めてすべて飛行機は、ファストで旅行することになっています。飛立って1時間もするともう真夜中です。ラウンジに日本人スチュアデスが所在な気に独り腰掛けて「お休みになりませんか？」と挨拶されました。言われるまゝに向い側に腰を卸して四方山の話をしました。このお嬢さんは、夏目陽子さんといつて、日本知事団のため特に搭乗を命ぜられたとのことでした。彼女の話によると、父親は外務省の役人で、目下両親ともアフリカに在勤中で、お父さんは60才で彼女は次女で23才と言いました。ハワイ大学で勉強中2年前にパンアメリカンのスチュアデスの試験に見事合格し爾来スチュアデスとし

で勤務しているそうです。PAA のスチュアデスは、約 3 千人いて、そのうち日本人は約 250 人とのことでした。おばあちゃんが都下の国分寺に往んでいるので、月 2 回程の日本滞在中は、おばあちゃんを訪ねるのだとっていました。彼女は現在ホノルルに下宿しているが、月 600 ドルの給料で、下宿代や自動車のガソリン代等を差引くと、毎月殆んど貯金はできないと言っていました。2 年間かかってやつと家庭用品が整った位ですが、これだけの給料でも、日本に住めたらと思いますとっていました。600 ドルは邦貨で 21 万 6 千円ですから、日本では、副知事クラスの高級取りの筈です。ガソリン代といったのは、下宿から空港への通勤に使う自家用車のことなのです。

お嬢さんと長話しているうち、時計を見ると午前 4 時 20 分、機内放送で、やがてシアトル国際空港に到着するので、バンドを締めるようにと注意がありました。外気温度 4 度とのこと。

シアトル国際空港着

午前 4 時 40 分シアトル国際空港着。此処で乗降客の乗替えがありますが、ポートランドまでの客は、機内待機です。ポートランドまでは、約 30 分の飛行距離ですが、塔乗員は、夏日陽子さん以外全部交代しました。

滑走路には、飛立つ順番を待つ飛行機が、列を作つて待機しています。次ぎ次ぎに夜明けの空に舞上り、物凄い爆音と黒煙の尾を引いて、大空の彼方に吸い込まれて行く。自分の飛行機のことには分らないから、他の飛行機を見て、あんな風に舞い上つて行くのだろうと想像する。2、3 分後には、雲海を眼下に、機はもう上空を飛翔しています。窓から金属製の大きなジェット・エンジンと翼が見えます。こんな大きなエンジンを抱え、翼にはドラム缶に 300 本ものガソリンを積み、よくも軽々と飛行するものだと、何十回も飛行機に乗つていながら、不思議に思えました。

7. 10月17日（金） オレゴン（ポーランド）

ポートランド空港にて

午前7時35分、知事団一行の搭乗機は、ポートランド国際空港に着陸しました。空港にはトム・マッコール知事ほか州、市、商業会議所関係者、バラ祭り女王等が待機して歓迎してくれました。

ポートランド市は、札幌市と姉妹都市の提携を結び、かつて日本から日本庭園が贈られ、日本との交流も厚く、日本人に特に親愛の情を抱いています。ばらが有名で、別名ローズ・シティと呼ばれています。

マッコール知事は、謹厳温厚な、髪に少し白髪を交えた初老の紳士です。一人一人に固い握手をして歓迎の意を表してくれました。日本語の「知事団一行日程」とホテル室割りリストその他各種資料等準備され、手際よく各人に渡されました。午前8時45分空港発、州警察官の先導で、ハイヤーを連ねて宿舎ベンソン・ホテルに向いました。

オレゴン州警見

オレゴン州は、米本土西北部に位し、太平洋に面し、北はワシントン州、南はカリフォルニア州に挟まれ、面積は251,180平方キロあつて、日本全体の半分よりやや大です。全米中第10位に位し、人口は200万です。州都は人口約7万の小都市セイレムにあります。州中最大の都市は、ポートランドで、人口は約45万です。市長はテリー・D・シュランク氏です。札幌市と姉妹都市。

ワシントン州との州境にコロンビア河が流れ、電力、漁業、水運に多くの貢献をしています。主な産業は、農業、漁業、林業、工業、観光事業等で、州立公園が210カ所もあつて風光明媚で、観光収入だけでも年間31億ドルに達するとのこと。

州内に約6,000人の日本人が居住し、その約半数は、ポートランドと

その周辺に居住しています。

州北西部にフード山があります。富士山と同じ位の高さで、高原に屹立し白雪に蓋われた姿は、富士山にそっくりです。そしてどの観光案内書にもフード山の姿が見られます。

昼 食 会

正午、ベンソン・ホテルのクリスタル・ルームで、マッコール知事、シュランク・ポートランド市長、ディヴィース・ポートランド商業会議所会頭主催の昼食会に招待されました。この昼食会には、ポートランド海運界、民間会社、市民代表等約 200 名が出席し、盛大な昼食会でした。

シュランク市長、マッコール知事の挨拶があり、昼食会ののちフルトン交通局長の演説と奥田団長の挨拶が次の通り行われました。

ポートランド市長テリー・D・シュランク氏の挨拶

マッコール知事、奥田知事、畠中総領事、ディヴィースさん、フルトンさんそして日本知事団の方々。

ローズ・シティ、ポートランドは、高貴な日本知事団ご一行をお迎えできましたことを、光榮に存じております。

貴国とわれわれの州との友好の歴史は、日本人が始めてオレゴン州に到着した 19 世紀中葉にさかのぼります。これはコモドール・ペリーが美しい江戸湾に投錨する以前のことでありました。今日日本人を祖先とするオレゴン人は、あらゆる経済上の仕事や専門の職業に活躍しておられます。そしてわがポートランド市とオレゴン州の経済的文化的発展に多大の貢献をしてこられました。

多くの市民及び商工業指導者の方々は、皆様方の今回のご訪問を、興味深く、有益にそして楽しいものとするため協力されました。私どもは、皆様の当地ご滞在中、ポートランドとそのメトロポリタン地域について、知っていただきたいと希望しております。私どもはまた皆様方が、私どもの家庭、庭園、公園及び商工業の現状について、ご視察いただきたいと希望

いたしております。当然私どもは、皆様方が、私どもの偉大にして発展を続ける港湾施設とコンテナイゼーション（コンテナ化）の活動も、ご視察いただきたいと希望しております。ポートランドは真にアメリカ太平洋岸における大港湾の一つであり、一方貨物は全世界を相手としていますが、とりわけ日本は、われわれの第一の貿易相手国であります。

明日私は、隔年ごとに開催される第10回日米市長及び商工会議所会頭会議に出席のため、カリフォルニアのロングビーチに出発いたします。4日間われわれ両国の政府及び公共団体共通の広範囲の議題について討議されます。これらの討論から、日米両国にとって利益となるような回答が出て参りますことを、希望いたしております。

われわれお互によく知り合い、お互いの国の伝統と文化を認識し、われわれ両国国民の願いとするところを学ぶことができますのは、今日このような会合又は、私が来週出席する会議においてであります。このような方法においてのみわれわれは、お互いの名誉と尊厳を保ちつつ、永遠の平和を達成し得るのであります。

終りに私は、重ねて皆様方が、ローズ・シティにおいで下さいましたことを感謝し、ご訪問の記念として、皆様方に、私どもの愛するポートランド市とオレゴン州の写真集をお贈りしたいと存じます。

ようこそポートランドへおいで下さいました。ドウモ、アリガトウ、ゴザイマシタ。

トム・マツコール知事挨拶

私の友人及び隣人たちと共に、私が受けた日本でのご親切なおもてなしにお返しするのに、これ程よい機会が又とありましようか？

オレゴン州は本日ここに、日本から来られた5名の知事及び3名の副知事のご一行を、歓迎できますことを光栄に存じます。

先年私が、美しい日本を訪問し、私ども一行と共に素晴らしいご歓待を受けましたこととは、私の心から喜びとするところでもあります。

かくして前回の訪問者として、また、同じく知事の職にあるものとして今日、私が日本で過したすばらしい日々に対し、多少なりともお返しが出来ますことをうれしく存じます。そして私は、州知事として、全オレゴン州民が心から皆様を歓迎申し上げておりますことを、つけ加えたいと存じます。

日本とオレゴン州は、共に太平洋に面する偉大なる国であります。日本とオレゴン州は、共に新しい世紀の事業に乗り出しておるのであります。そして共に冒険と旅行、新しい世界と新しいアイデアに対して、共通の意欲を抱いております。かくして私どもは、友人として相携えて行くことが出来るのであります。

かつては人間関係において、われわれを遠く距てていた太平洋が、今やわれわれを結びつけるてだてとなつております。

今やわれわれは、事業に対しても、娯楽に対しても、明日に対する計画に対しても、一体となつております。われわれはお互に親しい友人であり、急速に発展しつつ緊密な関係を保持しております。

確かに今回の皆様のご訪問は、われわれ両国の関係をより一層強固にするものであります。

日本からの賓客の皆様は、今回アメリカの6つの州を訪問されます。オレゴン州は、皆様方を歓迎する最初の州であり、われわれは、オレゴン州とアメリカ合衆国の心からのご歓待をなし得ますことを、誇りに存じます。

オレゴン州民は、自分たちの州を誇りといたしております。私どもは、私たちの州をお目にかけてたいと存じております。また、州に関するいろいろなご質問に、お答えしたいと存じます。そしてまた再びお訪ね下さいませよう願つております。これまで多くの人々は、重ねてお訪ね下さいました。これが17世紀以来今日まで私どもが、着実に発展して来た理由であります。

それ故私どもは、日本からご訪問下さいました皆様方が、多くのオレゴ

ン州民と、じかに、気軽にお会い下さることを希望いたしております。オレゴン人は、公式的な儀礼的な世界では、あまり知られておりません。オレゴン人は、握手をしたり自由におしやべすることが大好きで、ここから本当の友情が生れてくるのであります。

皆様方が当地におられる間に、わが州の出来るだけ多くのものを、見ていただきたいと存じます。また、出来るだけ多くの人々に会っていただきたいと存じます。そして日本に帰国される際には、オレゴン州と州民の思い出を、お持ち帰りいただきたく存じます。また再びお出でをお待ちしております。オレゴンの歓迎は、いつでも時の制約はございません。

われわれは、皆様方を親友としてお迎えいたします。われわれは皆様方を、同じ運命につながれた世界の同胞として歓迎いたします。私どもは皆様方に、オレゴン州の美と誠実とをお送りいたします。そして最後に、皆様方の楽しいご旅行をお祈りいたします。

オレゴン州交通局長ジョン・フルトン氏の演説

日 本 と の 提 携

今日日本の皆様とお会いできましたことは、私の光栄とするところであります。

皆様方の今回のご訪問は、偉大なる日本とわが州との結びつきを、一層強固にするものであります。この結びつきは、貿易による経済的結びつき以上のものであり、また、温かい個人的友好関係の永続的結びつきであります。

われわれの経済的結びつきは、明白、かつ、真実であります。われわれの州の公道に、遠く離れたレクリエーション地区に、皆さんは貴国のトヨタやダットサンや本田の製品を見ることでしょう。ちょうど4日前シュランク市長は、トヨタ丸出迎えのため埠頭に参られ、トヨタ自動車会社が輸出した、100万台輸出記念の式典に参加されました。この日本の偉大な自動車産業の里程碑を達成せしめたのは、偶然のことではないと存ずるの

であります。

日本の鉄鋼は、もう一つのわれわれの重要な輸入品であります。この鉄鋼は、われわれのビルの骨格を造り、橋梁を建築する助けとなつております。マッコール知事の強力な指導によりオレゴンは、貿易を阻害する人為的障害に断乎反対しております。

このホテルのすぐ近くにも、われわれを結合する経済的結びつきのもう一つの明白な象徴がございます。それはポートランド東京銀行支店であります。これはポートランド州の立派な銀行の一つに数えることをわれわれは、誇りにしております。われわれはまた、日本食糧庁のアメリカにおける唯一の事務所を、ポートランドにもつておりますことを喜んでおります。

日本からの輸出及び日本への輸出を別にしてもオレゴンは、アメリカの主要な流通配分の基地として重要であります。

今朝皆さん方は、われわれの国際空港にお着きになりました。この空港の旅客と貨物は、急速に伸びております。そのため新らしい滑走路を作る予定であり、ターミナル自体もぐつと大きくする計画であります。工事が完成しますとポーランド国際空港は、アメリカでも屈指の飛行場になると思います。そのうちわれわれは、出来るだけ早い時期に、日本航空の寄港を実現したいと思つております。これが美現しますと、日本とオレゴン州との結びつきは、より一層強固なものになると存じます。

貿易の窓口として私どもは、海と空からの輸送を陸上で補つております。すなわちポートランドは、アメリカの広大な中部を横断する4つの大陸横断鉄道の終点となつております。これに加えて私どもは、高速道路網をもち、貨物を迅速にトラックで運搬しています。これは貨物がコンテナ化されるに従い、ますます重要になつてきております。

このような将来のコンテナ化に対処するため、ポートランドの埠頭は、日本の日立が建造した2基の高速コンテナ・クレーンを備付けました。私どもは、来年春就航する日本の6つの船会社の新らしいコンテナ船が、定

期に寄港されることを待ち望んでおります。

私は、このような健全にして安定した経済的結びつきは、オレゴン人と日本の市民との温かい個人的関係から生れたものであると確信いたします。長年の間私どもは、ポートランドに支店をもつ貴国の大貿易会社を知っております。これらの会社は、有能な日本人のスタッフをもち、彼等はわれわれの社会の一員であるばかりでなく、貴国の文化をわれわれに紹介する手助けもしてくれました。

オレゴン州の都市の幾つかは、日本の都市と姉妹提携を結んでおります。ポートランド市の姉妹都市は札幌市で、10年前に提携を結びました。それは単に文書による関係だけではなく、貴国々民とアメリカ国民の永続的交流の生きた活気に溢れた、実例でありました。

長年の間われわれは、貴国の学生、技術者又は若い実業家等を迎えて参りました。

今回われわれは、北海道大学から、16名の学生を受入れました。彼等は、ポートランド州立大学で勉強しております。われわれはこの学生交換計画をさらに発展させたいと考えております。

商業あるいは専門的職業を目指す若い人々は、オレゴン州で、彼等の目標に適合したところで働らく機会を有しております。彼等は、銀行、船会社、林産業、酪農あるいは家畜の飼育等の各種の分野で、実際的な現場の体験を得る機会を得ております。

皆さん方の日程は、訪問していただく時間の余裕がありませんが、私どもは、ポートランドに伝統的に日本的な側面、これは私どもが高く評価している貴国文化の一面を有しております。それは日本庭園でありまして、この庭園は、貴国の造園技師である東京の戸野琢磨博士の指導により造られたものであります。その美しさと落ち着きは、この庭園を訪問する者の焦点となつております。

このような友好の絆は、個人的な訪問や、今回のような高貴な方々の団

体の訪問によつて、絶えず固められてきたのであります。オレゴン人もまた日本では、アットホームな気持ちで過せるのであります。シュランク市長は1959年に、最初の貿易使節団として貴国を訪問いたしました。同市長はその後も他の3つの団体と共に日本を訪問しております。それから昨年11月にはマッコール知事は、使節団を率いて東京、大阪、神戸を訪問いたしました。知事と共に、オレゴン州の経済関係代表30名が訪日いたしました。これらの訪日は、貴国の為にも、また、わが国の為にも有益なものであります。

私は、今日ここにご出席のすべての方々に、オレゴン州のわれわれは、日本をよく存じておるとはつきり申し上げることが出来ます。このことは貴国々民に対する尊敬と、よき友人としての愛情を意味するものであります。そして又深く根差した結びつきと、お互がよく知り合っていることを示すものであります。

奥田団長挨拶の要旨

日本知事団々長として、一言ご挨拶申し上げます。

私どもは今朝ポートランド国際空港に到着いたしました。空港では、マッコール州知事さん、ポートランド市長さん、商業会議所会頭さんその他多数の方々のお出迎えをいただき、厚くお礼申し上げます。たゞ今はまた私どものためこのような盛大なパーティを開いていただきまして、一同に代り、深く感謝申し上げます。

私どもは今回日米知事相互訪問計画に基づき貴国を訪問いたしました。この計画は、昭和37年に創められ、日米の共通する問題を討議し、かつ、両国の行政と産業の視察を行うものでありまして、すでに相互に4回ずつ訪問が行われました。私どもは第4回目の貴国訪問であります。

さき程ディヴィス商業会議所会頭さんのご挨拶の中にもありましたように、私どもは、貿易のうえでもまた文化的にも、お互に手を結び合つて行くことは最も必要なことであり、また、ポートランド市長さんがいわれま

したように、日本とオレゴン州は、ペリーの日本来航以前から、長い年月友好を保つて参つたのであります。

私はマッコール知事さんが、空港でわざわざ自動車を下りて、子供連れの婦人と語っておられた時、また、この食堂でウェイトレスと話しておられた時の誰とでも親しく打解けて語り合っておられるお姿に、深く打たれたのであります。この一事からも、オレゴン州と日本とが、固く手を握り合つてゆくことは、容易なことであると存するのであります。

私どもは、オハイオ州シンシナティで日米知事会議を開催し、アメリカの知事さん方と共通する重要問題について討議いたします。また、ワシントン D・C・では、大統領との会見を期待いたしております。

私どもが帰国いたしましたら、皆様方の心からのご好意を、多くの日本人に伝えたいと存じます。

明年は大阪で万国博が開催されます。ポートランドは札幌市と姉妹都市の提携を結んでおられますので、どうか沢山の方々が万国博と札幌市をご訪問をいただきたいと存じます。その際は、千二百年の古都奈良市と私も、ぜひお訪ね下さいますよう、お待ち申し上げます。

ポートランド港周遊

午後 2 時 20 分から、外輪船でポートランド港を周遊しました。ポートランド港は、コロンビア河と市内を貫流するウイラメット河の接合点にあつて、コロンビア河は太平洋に接続しています。もちろんオレゴン州最大の港で、1967 年の貨物取扱い量は、1,400 万トンに達しました。この港には 5 万トン級の船舶の入港が可能です。河の南岸には、各種港湾施設や大工場が並んでいます。知事団は、案内者の説明を聞きながら、外輪船で視察しました。コンテナ・バース、船舶解体場、河船建造工場、米国最大という車両工場、製材工場、パルプ工場、船舶修理工場等を船上から視察しました。この港は、港湾委員会が管理しているとのことでした。約 2 時間視察ののち、州都セイラムに向け出発しました。途中労働者クラス

の住宅地帯を通りました。百坪程の屋敷に 30 坪程の住宅が並んでいましたので、これ位の住宅はどの位かと尋ねましたところ、土地付きで 15,000 ドル程だと答えました。邦貨で 540 万円程ですから、アメリカの普通の月給取りの給料 700 ドル（邦貨 25 万 2,000 円）と比較すると日本より遥かに安い訳です。

州 都 訪 問

セイラムは、ポートランドの南方自動車で約 1 時間の距離にあります。人口的 7 万、オレゴン州の州都です。アメリカの見どころは、地方の小都市にあるといつても過言ではないと思います。道路が完備し、住宅も商店も工場も役所も、ゆつたりとした敷地を取つて、それらがよく手入れの行き届いた芝生と緑樹に囲まれ、区画整理もよく出来ています。雑踏したニューヨークやシカゴと比べると、空気は澄み騒音もなく、アメリカの楽園のように思われます。

緑の芝生に蓋われた数エーカーの敷地の中央の、白大理石の 4 階建ほどの長方形の建物が、州議事堂です。建物の中央に 50 呎程の白大理石の円形の塔があり、その上に 24 呎の像が立っています。白い大理石が周囲の緑の芝生に映えて、何とも美しい眺めです。州議事堂の左右に 2 つずつ白大理石の建物がありません。これら 4 つのビルは、州庁舎です。

州議事堂の中に上下両院と、知事の公式会見室と知事執務室とがあります。日本知事団は、この公式会見室でマッコール知事と会見しました。

この接見室でマッコール知事から、デスク用セット置物が日本知事団に贈られ、日本知事団よりもそれぞれ贈物がされました。マッコール知事は「信じられない程の贈物をいただき妻もきつと大喜びでしょう」といいました。団長を中心に記念撮影ののち、知事執務室を見学して辞去いたしました。

知事私邸の訪問

午後 5 時 30 分、知事私邸のカクテル・パーティに招かれました。知事

は公邸を持たないので私邸に招待するのたといっていました。テーブルの皿の中に沢山の小石程のジャスパー（宝石の類）がは入っていて、知事夫人は、自由にお持ち下さいといつて、知事たちにくれました。

この辺はブライダル・ディル（花嫁の谷）というのだそうです。

午後7時からイラヒ・カントリー・クラブの歓迎晩さん会に招待され、午後9時30分ポートランドに向け出発、ベンソン・ホテルに宿泊しました。

8. 10月18日（土） オレゴン～アイダオ（ポイジー）

コロンビア河溪谷視察

午前7時30分ベンソン・ホテル内のオックスフォード・ルームで朝食ののち、午前9時バスでコロンビア河溪谷の視察に出発しました。バスはコロンビア河に沿って河の上流に向って走る。この国道は、4,000キロ走るとニューヨークに達するそうです。

最初の停車地は、景勝の地マルトノマ滝（Multnomah Falls）でした。コロンビア溪谷中第一の滝で、全米第二の滝だそうです。滝の高さは620呎で、ポートランドの東方30哩のところにあります。少し曇っていたので、良い写真が撮れなくて残念でした。アメリカの景勝地のよいところは、日本のように俗化していないことです。滝の近くにすばらしいハイウエーが走っていますが、見物人の姿はまばらです。自然の景色がそのままに保存され、しかも公衆道徳が行き渡って、紙屑一つ落ちていません。滝の水量が少ないので、雄大の感はありませんが、美しい眺めです。

続いてポネビル・ダム（Bonneville Dam）を視察しました。ポートランドの東方40哩のところにあります。コロンビア河にダムを築き水力発

電をしたり、州民のレクリエーション場ともなっています。ダムは陸軍技術部隊が設計し建設し管理しています。1938年に完成し、総工費7,600万ドル（現在の金額に換算すると21,000万ドル）を要しました。発電機10基、水門18、落差20メートル、52万キロワットの発電能力をもっています。

ダムの傍らに魚の階段（Fish Ladders）という特別の水路があつて、ダムで阻止される魚が、このラダーを伝わってダムを上下に移動出来る仕組みになっています。緩やかな階段の上を、白波を立てて水が流れています。魚はこの階段を上下するのです。またFish Counting Stationという設備があつて、上下する魚の数を機械的に数えています。魚の種類は、鮭、スティールヘッド（Steelhead）、シヤッド（Shad）スタージョン（Sturgeon）等で、鮭が最もポピラーです。ダムの下流では、魚釣りやポート漕ぎを楽しむことも出来ます。

近くに魚の研究所があります。コロンビア河から産卵期の鮭や鱒を捕獲してきて、一尾ずつ俎に上せ、棍棒で一撃をくらわすと、魚は数回尾を痙れんさせてのびてしまいます。直ちに小刀で腹を割き、バケツの中にだいたい色の卵を手で掻き出します。見ているとまことに惨酷のようですが、産卵期の魚は、産卵が済むと死んでしまうので、無惨な撲殺にはあたらないのだそうです。バケツに溜った卵には、上から雄魚の白い精液がかけられ、手でよく掻きまぜます。そして適当に温度が調節してある孵化槽に送られます。摂氏11度で約50日すると孵化するそうです。

こうして孵化し適当に成長した稚魚は、コロンビア河に放流されます。一人前に成長した鮭や鱒は、コロンビア河で収獲されるのではなく、カリフォルニアからアラスカまでの間の太平洋岸で捕獲されるのだそうです。この魚の研究所には、毎年100万人を越える人々が訪問するそうです。

帰途池の中に、丸太のように身動きもしないで横たわっている怪物のような2匹の魚を見ました。コロンビア河でとれる最大の魚で、世界でも最

大の淡水魚だろうとのことでした。これが Sturgeon という魚で、長さ 9 呎、重量は 200 キロあるとのことでした。最大のものは 20 呎 1,200 ポンド（約 150 貫）にも達するそうです。コロンビア河で 1 匹はナイフで切られて死に、他の 1 匹が手傷を負ったがこの池にいと説明者はいいました。この魚は、古代発生時代より殆んど変化しておらず、数も非常に少なく、15 才以下では産卵することもなく、80 年以上も生きるそうです。河底に住み大食家で何でも食べるが、特に鰻を好物とするそうです。

フード・リバー・イン (Hood River Inn) で昼食

午前 11 時 30 分、バスは予定どおり、コロンビア河畔のフード・リバー・インに到着しました。フード・リバー地区の日系人代表が招待してくれた昼食会です。クラブ・サラダのご馳走で歓待してくれましたが、先刻イーグル・クリーク養魚場で、自家製のパイの大きいのを腹いっぱい食べたので、せつかくのご馳走が 3 分の 1 も食べられなくて残念でした。フード・リバー出身のケン・ジョンステン上院議員が、歓迎の挨拶を述べ、日系米人は貴い人的資源であると日系人の活躍を称賛、奥田団長からお礼の言葉が述べられました。帰りにそれぞれフルーツの籠入りを贈られました。

フードリバーからポートランドの宿舎ベンソン・ホテルに帰還、出発の準備を整えてから、飛行機の出発時間まで、市内観光をすることになりました。ポートランドの日本庭園を視察するか、ロイド・ショッピング・センターにするかということになりましたが、賛否両論で決定せず、結局団長の裁決を仰ぐことになり、ロイド・ショッピング・センターに決定しました。このセンターは、最近出来たもので、全米第一を誇るものだそうです。これが出来るまでホノルルのアラモアナ・ショッピング・センターが、全米第一を誇っていましたが、今は第 2 位に転落したとのことでした。ロイド・センターの入口に、赤い看板に黄色い文字で、急造の歓迎の看板が立ててありましたが、歓迎の歓の字のつくりの欠がかけて歓になっていました。その左に「知事団の皆様、ようこそおいで下さいました。ポートラ

ンド、ロイド・センター」と書いてありました。その傍に英語で Lloyed Center, Welcomes, the Distinguished Japanese Governors。

と書かれていました。何処の盛り場でも同じように、此処でも超ミニヤスラックスやジーパン娘が商店を縫ってたくさん歩いていました。天気が良かったので、入口の装飾や花壇などの写真を撮って歩きました。

空港ではマッコール知事，州，市関係者や日系人の方々が送ってくれました。ポートランドからアイダホまで，僅か 700 キロの距離で，55 分で到着する筈ですが，時間表では，2 時間程かかることになっています。時差が 1 時間もあるからです。

アイダホ州警見

アイダホ州は，オレゴン州の東隣りに位置し，面積はオレゴン州よりやや小さく，人口は約 75 万です。州都はポイジー（Boise）で，人口は約 7 万 5 千で，州内第一の都会です。コロンビア河の支流スネーク河が，州の南部を貫流し，北部は概ね山岳地帯をなしています。

アイダホ州には 3 つのニックネームがついています。これらは最も端的にアイダホを説明しているものです。先づアイダホには，「ジェム・ステイト」の別名があります。Gem は宝石の意味で，ルビー，オパール，ジェスパー，サファイア，アメジスト，アゲート，スター・ガーネット等を産出します。特に最後のスター・ガーネットは，アイダホと印度にのみ産するものです。アイダホはまた，銀の産出は，全米の 2 分の 1 を占めています。日本知事団は，お土産に銀の盆を贈られましたが，それはアイダホが有名な銀産出州であるからです。

次に「ジャガイモの州」(Potats State) の綽名がついています。それはアイダホ州が全米第一のジャガイモの産出州であるからです。年産額は約 300 万トンに達しています。日本知事団は、ジャガイモの形をしたバッジをつけて貰いました。ジャガイモに次いで砂糖大根の産出は、全米第二位です。

「鍋の柄の州」(Panhandle State) の綽名もついています。これは地形を象徴している名前で、北部が鍋の柄のように細長く突出しているからです。

知事はドン・サミュエルソン氏 (Don Samuelson) で、体軀堂々として容貌魁偉ですが、至つて温厚誠実な人柄で、多くを語らず、少し長く接すると深い敬愛の念に打たれます。昭和 43 年に、訪日アメリカ知事団に参加されました。

行き届いた歓迎 (10 月 18 日夜)

午後 7 時 20 分ポイジー空港着陸。いつものように一般乗客が全部飛行機を下りてから、奥田団長を先頭に日本知事団が下りました。飛行機の昇降口は、空港ビルのフィンガーと接続していますから、タラップを降りる必要はありません。サミュエルソン知事は、一行を廊下に待ち受けて、偉大な掌で一人一人固い握手を交わして歓迎しました。

直ちに州警察官の先導で、ハイヤーを連ね宿舎ダウンタウナー・ホテルに向いました。空港から 20 分程のドライブでホテルに達しました。

ホテルには日系人の方々が「日本知事団歓迎」の旗を立てて出迎え、さつそくウイスキーの乾杯で知事団一行を歓迎してくれました。

ダウンタウナー・ホテル (The Down townner) は、ホテルといつても、周囲の静寂な環境といい設備といい申し分ないホテルです。広い駐車場を前にして 4 階建のビルがあり、最近裏に 6 階建のビルが建て増しされました。部屋にはダブル・ベッドが 2 つありましたが、まだあと 4 つ位は入る程の広さです。

テーブルの上にはシュリンプが大皿に山盛りになつていました。コーヒーも日本茶も用意され、大きな籠にフルーツが一ぱい詰め込まれていました。洗面所には、ビールが半打氷に冷してありました。その他知事の歓迎挨拶のカード、和英文の日程、各知事団部屋割表、各種資料等が揃えてありました。それにも増して日本へ送還する資料等のため、セロハン紙と細紐まで用意され、細かい行き届いた配慮とすばらしい歓迎には、ただ感嘆するばかりでした。サミュエルソン知事の人柄を反映するものでしょう。シュリンプは大変美味で、頑張つて食べましたが3分の1程平げたのみ、2日間の滞在中フルーツ少しとビール2本飲んだだけでした。心のこもった温かい歓迎とは、正にこのことだと思いました。

9. 10月19日（日） アイダオ

知事私邸での朝食会

午前7時15分バスにてホテル発、知事私邸に向う。7時30分から知事夫人招待の朝食会。快晴、やや冷氣あるもオーバーの必要なし。知事団は、朝食しながら歓談、途中西沢知事は、姉妹州ミズリー訪問のため出発されました。さすがジェム・ステートの名に恥じず、部屋には沢山のジェム原石がありました。知事夫人は、テーブルの上の皿に盛られた小石のようなジェムの中から、好きなものをお持ち帰り下さいと仰いました。インディアンズ・アイという黒い石をいただいて来ました。夫人の説明によると、インディアンの涙のように見えるところからこの名が付けられたとのことでした。

知事邸を辞去してから、近くのロッキー・メソジスト教会を訪問しました。

メソジスト教会を訪問

午前 8 時 40 分、ロッキー・メソジスト教会を訪問しました。多分サミュエルソン一家が所属する教会なのでしょう。アメリカの知事の中には、多くの熱心なキリスト教信者がいます。ハワイのバーンズ知事、前マサチューセッツのポルペ知事、元フロリダのブライアント知事等、皆熱心な信者です。アメリカ人がよく隣人を愛し、正義感が強く、公德心が優れているのも、幼少の頃から宗教々育によつて、自由、博愛、平等を教え込まれているからなのではないでしょうか？ 欧米に行われているチップの習慣も、日本人には理解し難いことなのですが、信仰によつて生れ培われて来たもののように思われます。宗教心の欠如は、人間を魂のない欲望だけに支配される機械にしてしまわないでしょうか？

日曜のことで、礼拝堂は礼拝者で満員でした。教会堂のステインドグラスは、殊に見事でした。日曜学校もありました。フエロシップ・ホール (Fellowship Hall) は、600 人を収容出来る大ホールでした。アメリカの宗教々育は 2 才から始められ、生涯続けられると説明されました。誰も見ていなくても神様が見ておられる、といった信仰によつてのみ人は、正直に陰日向なく、強く生きられる、そんな考えが浮びました。

自慢のステンレス製の勝手を見せて貰つて教会を辞去しました。

州議事堂訪問

メソジスト教会に続いて州議事堂を訪問しました。

ポイジー (Boise) の語源は、Boyzee から出たものであり、その源は Les Bois 即ち The Woods 森の意味から出たものだそうです。

議事堂は、少し小高い丘にあつて、ワシントン D・C・の国会議事堂を模して造られています。中央に高さ約 200 呎のドームがあり、左右に翼のように 4・5 階建てのビルが伸びています。中央のドームは 1906 年に建築され、左右の翼は、1920 年に完成しました。中央のドームは、コリント式円柱で支えられ、天井まで突き抜けています。材料はアイダホ

のサンド・ストーンとヴァーモント州の大理石で造られ、議事堂にふさわしいマッシイブな建物です。

1階には、翼のある首の失われたサモスレイス（Samothrace）の勝利の像や、各種の鉱石の見本が陳列してありました。

知事執務室に案内されました。Buck stops here 責任の止まる室、すなわち最高責任者の室の意味だそうです。次に両院議院に案内されました。上院議員は35名で、下院議員は70名で、上院議長は通常副知事とのことでした。議長席の左右に電光掲示板があり、票決は直ちにこの掲示板に表示されるようになっていきます。

製材工場、トレーラー・ハウス等視察

午前9時30分州庁発。最初にポイジー・キャスケード公社のバーバー製材所を見学しました。この工場はすべて電化され。年間電気料金4万ドルを支払うそうです。年産額は板にして2千2百万呎に達し、この板は普通の住宅2,200戸分に相当し、これに使用する木材は、12万4千本であります。従業員は58名で、年間給料は、50万ドルに達するということでした。使用する木材は、松、モミ、エゾマツ、カラマツ等で、主としてポイジー河流域や一部アトランタ地域から産出されます。樹皮、鋸屑、細片は、農家が家畜の寝わらに使用するとのことでした。

ここで特に記録すべきことは、この全行程を通じ、サミュエルソン知事自身知事一行を案内してくれたことで、ここにも知事の誠実な人柄の一端を窺うことが出来ました。

バーバー製材所視察ののち、ラッキー・ピークに5分間程車を止め、下車して写真などを撮影してから、セキュリティ、トレーラー製作所を視察しました。

トレーラー・ハウスというのは、日本ではまだ見かけませんが、トラックで牽引して移動できる家のことです。一切の家具調度が備え付けてあり、冷暖房が完備していますから、快適な小住宅です。アメリカのように広大

な土地を有するところでは、至極便利な移動家屋ですが、残念ながら日本では、あまり利用されないだろうと思いました。従業員 50 名で 1 日 5 台を生産しています。1 平方呎当りの単価は 6・7 ドルで、350 平方呎の家は、5000 ドル、住宅用は、8500 ドル（300 万円強）で、甚だ安価であることが何よりの魅力でした。

バスは、学生数 7,000 人を収容するポイジー州立大学を経て、ジェム・ステート本田のバイク展示場を視察しました。たくさんのオートバイや雪上車が展示してありました。試みに値段を尋ねますと、90CC のオートバイ 379 ドル（13 万 6,440 円）で、雪上車は 1300 ドルとのこと、手頃な値段だと思いました。展示場の裏に修理工場がありました。

ヒルクレスト・カントリー・クラブで昼食

午前 11 時 30 分、ヒルクレスト・カントリー・クラブでサミュエルソン知事、フランク・オガミ氏夫妻等日系人を交え、昼食をしました。アイダホ州には、約 2,500 人の日系人がおります。

ここで余談ながらバカでかいアメリカについて触れておきたいと、思いません。アイダホ州の面積は、216,400 平方キロ（全日本の半分に近い）もあつて、人口は 80 万に満たないのですから、何処でも一望千里の大平原を見ることが出来ます。アイダホの農家一戸当りの平均耕地面積は、530 エーカーだそうですから、その広大さは驚嘆するばかりです。アイダホ州は、北部は山岳地帯で、景勝の地が多く、年間 6 百数十万人の観光客が訪れるそうですが、さすが広大な土地だけあつて、観光地の人影は何処も閑散としています。そして自然の風景がそのまま保たれていることに感心します。アメリカは田舎こそ見る価値があります。

アマルガメーテッド製糖工場視察

アイダホは、先にも記しましたように、アメリカ第 2 の甜菜（砂糖大根）の生産地です。この工場は、全米第 1、世界第 2 の製糖工場とのことでした。いきなり砂糖の袋が山のように積まれた倉庫に案内されました。ビー

トの含有量は 15 パーセントで、1 トンの甜菜から 130 キロの砂糖が採れること、1 エーカー当り 25 トン生産され、1 袋の砂糖は 100 ポンドで、この倉庫には 25 万袋貯蔵されている等の説明を聞きました。

倉庫の中で 30 名の日本人研修生の歓迎を受け、サミュエルソン知事の挨拶、日本知事団の紹介等がありました。

この農業研修制度は、アメリカ 4H クラブ財団と日本農業研修委員会、日本大使館、国務省、労働省、農務省等の協力によつて行われています。高等学校を卒業した 18 才から 30 才までの青年が選ばれて、農業研修を受けます。研修期間は 2 年間で、このうち 4 分の 1 は、英語を含めた学課の授業を受け、残りの 4 分の 3 は、それぞれの受入れ先で専門分野について実地の指導を受けることになっています。

長野県西沢知事は、ミズリー州を訪問中で此処は訪問しませんでしたので、長野県からの研修生富岡君他 2 名に、知事から託された日本の味噌などの贈物を届けました。みんな元気に「頑張ります」と言っていました。

シンプロット馬鈴薯加工工場

先ずカールドウェル (Caldwell) にあるシンプロット (Simplot) の 1 日の消費を挙げてみましょう。生馬鈴薯 5 百万ポンド、水の消費量 4,296 万ガロン、揚物に使う油 12 万ポンド、電力消費 1,600 ドル、天然ガス 1,600 ドル、パッキング材量トラック 5 台分となっています。摂氏零度で貯蔵する倉庫は、1 億ポンドの馬鈴薯を貯蔵することが出来、毎日 30 台の貨車とトラックで製品を積み出しています。1 日の使用人は 2,400 人で、これらの数字が示すように、大きな工場です。

じゃがいもは、脱水してから粉末にし、いろいろなものに加工し、油で揚げたりしてインスタント食品などを製造しています。驚いたことに、じゃがいもの屑で牛 2 万頭を飼育しているとのことでした。牛には必ず角があるものと考えていましたが、ここの牛はみな角がありません。角を矯めて牛を殺すの譬がありますが、現代では牛の角を無くすことも出来るよ

うです。

ジェイムス（James）山田氏の農場視察

山田さんは2世で日本語がよく話せませんが、夫人は英語より日本語の方が上手のようでした。農家とは思えないこざつぱりした家で、応接とダイニングで十数人の接待に十分の広さがありました。夫人の手づくりのお饅頭や茶菓のご馳走になりました。山田さんは40がらみの朴訥な人でした。季節的に人を雇うだけで、たった1人で300エーカーの土地を耕作していると聞いて驚きました。山田さんは知事を裏の納屋に案内して、その秘密を明してくれました。納屋には見上げるほど大きなコンバインや耕作機があつて、山田さん自身で運転してみせてくれました。機械の運転も修理もみんな自分でやるのですと言っていました。独力で300エーカーを耕作する秘訣はここにあるのでした。

午後5時30分ダウンタウン・ホテル帰還。

記者会見

午後6時からダウンタウン・ホテルで記者会見が行われました。始めに奥田団長から次のような挨拶がありました。

『日米両国の知事が当面する問題について研究し、行政と産業の視察を行ない、あわせて両国の理解と親善を深めるために、日米知事相互交換訪問が生まれました。今回は、オハイオ州シンシナティで第8回日米知事会議が開催されますので、私どもはこの会議に出席のため貴国を訪問しました。』

続いて記者の次のような質問と応答が行われました。

問 アイダホ州と日本とどのような共通点があるか？

答 今日知事私邸にお招きを受けたり、教会、製材工場、トレーラー・ハウス製造工場、製糖工場、馬鈴薯加工工場、日系人農場等の視察をさせてもらつたが、アメリカはすべてが大きい。特に土地がケタ外れに広大である。然し共通点もある。新しい農業方法、土地の有効

な利用，トラックで運ぶことの出来るトレーラー・ハウスやプレハブ住宅は，日本の現状に鑑み，非常に参考になった。日系米人の方の農場も見せてもらって，私どもは喜んでいる。特に日曜日にもかかわらず，サミュエルソン知事自からご案内いただいて感激している。

問 日本からの輸入の関税制度は適正を欠いていると思わないか？

答 それぞれの理由があると思うが，われわれは，知事としての立場で適正に行われるように努力したい。オレゴン州の木材の輸出とかグレープ・ジュースの輸入等の問題があるが，これらの問題もお互によく話し合つて解決してゆきたい。』

晩さん会

午後 8 時から宿舎ダウntaxウナー・モテルでサミュエルソン知事と日系人共催の晩さん会が開かれました。日系人共催者の氏名リストには，次のように記されておりました。

フランク・オガミ氏夫妻，アイダホ州ウエイザー。

K・ツカマキ氏，オレゴン州オンタリオ。

M・ヤマダ氏，オレゴン州ベイル。

ロン・ヨコタ氏，アイダホ州ポイジー。

ジョン・アリマ氏夫妻アイダホ州カールド・ウエル。

イシ・ミヤケ氏夫妻，アイダホ州ナンパ。

ジャック・オガミ氏夫妻，アイダホ州ウエイザー。

ジョージ・イセリ氏夫妻，オレゴン州オンタリオ。

ジェイムス・ヤマダ氏夫妻，アイダホ州ウイルダー。

宴会前に時間の都合上バスク・ダンスの余興がありました。これらのダンサーたちは，ピレネー山脈地方から来たということです。踊りは 3 組に分れ，両手を挙げ跳ね廻り，時々奇声を発する甚だ素朴のものでしたが，女性はスペインの娘のような服装をして，17・8 才の愛くるしい娘たちでした。サミュエルソン知事は，これらのダンサーたちを一人一人紹介し

ました。

食事が終わってから、青森県竹内知事から次のような挨拶がありました。

竹内知事挨拶の要旨

今夕は、奥田団長のご指命によつて私がお挨拶をいたすことになりました。本夕は、当地の日系人の代表の方々と懇談することが出来、非常なご歓待を賜わりまして、知事御夫妻及び御列席の皆様方に厚くお礼申し上げます。

私どもは今回第8回日米知事会議出席のため訪米いたしました。その意義につきましては、日米両国の友情の絆としての役割を果し、しかして世界の平和につながるものであります。

今朝は7時からただ今10時まで、実に15時間にわたつてサミュエルソン知事御夫妻のご案内やお世話をいただきましたが、これこそ知事御夫妻の御人格を物語るものであると存じます。

昨夜私どもは、ポイジー空港に着きましたが、今朝夜が明けてみますと、アイダホ州の雄大な山野に驚いたのであります。このような雄大な自然にはぐくまれた皆様方もまた、広く豊かな心考か持であられます。

今日1日で私どもは、多くのことを学ぶことができました。大沃野、大森林等は、神が恵をたれ、皆様のご努力によつて今日の偉大なるアイダホ州を築かれたことと存じます。今日1日で私どもは、訪米の目的を達したように思いました。

たくさんご馳走をいただき、バスクの踊を見せていただき、その上贈物を頂いて、重ね重ねお礼を申し上げます。

最後に日系人の方々が、すはらしいご努力と忍耐によつて、偉大なお仕事を成し遂げられましたことに、心から敬意を表します。

10. 10月20日（月） アイダホ～ネブラスカ

ネブラスカ州へ

午前7時15分からダウンタウナー・ホテルで朝食。サミュエルソン知事も会食しました。

午前8時30分、州警察官先導でホテルからモーターケイド（ハイヤーの行列）で、ポイジー空港に向いました。知事、ポイジー市関係者、日系人の方々に送られユナイテッド航空264便に搭乗、9時15分ポイジー空港を飛び立ちました。これから海拔4,200メートルの大ロッキー山脈を越える訳ですが、機上から眺めるとアメリカ全土が山脈で被われていると思われる程広大な山脈です。山脈の東麗にコロラド州都デンヴァーがあります。市は郊外の人口も含めると92万の大都会です。海拔1,600メートルの高原上にあり、空気が澄み清涼で、樹木に被われ、周囲は「高原の女王」といわれるロッキーの白雪をいただく峯に包まれ、すばらしい保養地です。午前10時43分デンヴァー着。ユナイテッド航空264便に乗り替えて11時30分デンヴァー空港発、午後1時38分、目的地ネブラスカ州オマハ空港に到着しました。空港では、ティーマン知事代理モンロー局長、市の商業会議所代表等に迎えられ、リグレーハウンド・バスで、宿舎ラデソン・ブラックストーン・ホテルに向いました。

ネブラスカ州瞥見

ネブラスカ州は、殆んどアメリカ合衆国の中央部に位し、東の州境にはミズリー河が流れ、西は大ロッキー山脈の麓に及んでいます。気候は大陸的で寒暑の差が甚だしく、トネイダーと称する大竜巻きが起ることがあります。アメリカの主要な農業州の一つで、トウモロコシの大農園があり、（作付面積420万エーカー）これを飼糧として畜産業が盛んです。牛の飼育数は650万頭といわれ、これらの牛は、オマハの屠殺場に送られま

す。オマハは年々200万頭の牛，100万頭の豚，羊が取引きされ，世界一のタイトルを誇っています。気候，風土の関係からネブラスカ人は，開拓者精神に富み，開放的であるが粗雑で，行動的であるといわれています。

オマハは，州内第1の都会で，都市圏の人口46万といわれています。州都は人口13万のリンカン市（Lincoln）にあります。

ボーイス・タウン視察

この施設の長は，神父ニコラス・H ウェグナーさん（Nicholas H. Wegner）といて，70才を越えたと思われる老人でした。ウェグナーさんが案内し，いろいろ説明してくれましたので，その概要を記すことにします。

この施設は，見捨てられた貧困家庭の子供たちを収容していますが，非行少年少女は入ることが出来ません。52年前に僅か5人で創立されましたが，現在は800人収容し，職員と従業員は500名おります。1,200エーカーの敷地に，小学校から高等学校までの校舎と宿舎と酪農場と農園とがあります。年間予算は100万ドルで，これはすべて寄付によるものだとのことでした。

100万ドルは邦貨3億6千万円ですが，これほど多額の寄付が集まるのが不思議に思えましたので質問してみましたところ，帰するところ日本との国情の相違にあるようでした。アメリカでは，大金持ちが死亡すると，財産は子孫に分配することもなく，遺言によつてそつくり寄付をする人が多いのだそうです。文字通り子孫のために美田を買わずというところでしょうか？個人主義の国ですから，親は親，子は子で，子供は親を頼らず自力で独立してゆきますが，親は親で，有り余る財産があつても子供に与える必要はないのです。

ウェグナー神父さんは，日本知事団帰国後，眠っている子供を背負つた可愛らしい少年の陶器の人形と，少年の町の名誉市民証とを送つてくれ

ました。名誉市民証には、英語で次のように書かれていました。

HONORARY CITIZEN

BOYS TOWN, NEBRASKA

Father Flanagan's Boy's Home, Boys Town, Nebraska
and its Citizens deem it an honor to bestow upon

MR. MASAKICH OGAWA

the title Of Honorary Citizenship

Given under my hand this 20TH Of October, 1969

署 名

FATHER WEGNER, DIRECTOR

知事主催レセプションとディナー

午後7時からラディソン・ブラックストーン・ホテル8階のエメラルド・ルームで、ノーベルト・ティーマン知事 (Norbert T. Tiemann) 主催のカクテル・パーティとディナーが催されました。

ティーマン知事歓迎挨拶の要旨

未だ食事をしておられる方は、そのままお続け下さい。おしやべりをしておられる方は、ちよつと止めてこちらを向いていただきたい。

日本から来られた知事代表及び付添いの方々。皆様方がネブラスカをご訪問下さいましたことに対し、ネブラスカ州民を代表して、歓迎の意を表したいと思います。

1年前に私は、4月と8月に日本を訪問しました。目的は、ネブラスカの牛肉から取れるタローと、砂糖を混合して作った薬品を、日本の会社と提携して販売することです。これは第一工業産業と折衝しましたが、2回目に成功しました。また私どもは、住友とも関係を持っております。

訪日中私は、オマハの姉妹都市である静岡市を訪問いたしました。静岡商工会議所を訪問いたしました際、荻野市長さんともお会いしました。市長さんは、動物園を造る計画であると話されましたので私は、その際は、

ネブラスカのバッファローを贈ると約束しました。私どもは、静岡市といろいろ交渉をもつておりますが、日本全体としても、友好関係にあるものであります。当州には日本を知りたいと希望している人が沢山おりますがそのような人には私は、明年大阪で開催される万国博に、ぜひおいでなさいと勧めております。

ゴルフの話に移りますが、日本のゴルフ・コースは起伏に富んでいて、大変むづかしいコースです。奥田知事さんのハンディを聞きましたら、18だといわれましたので、これは相手にならないと思いました。ある日日本でゴルフをやりましたが、日本のゴルフの玉は、アメリカのより小さいようです。日本製のクラブで打ちましたが、その時はうまくいつてほつとしました。後でキャデーが女性であると聞き、それからは玉がどうしても真直に飛ばなくなりました。

われわれ両国間の関係は、全くすばらしいと思います。われわれは日本製品とサービスを輸入し、日本からもわれわれの製品を輸入していただき、日米の一層の友好と発展をお祈りして、私の歓迎の言葉を終ります。

田中知事挨拶の要旨

ティーマン知事ご夫妻、市長、商業会議所会頭ご夫妻、その他各界代表の方々。私どものためこのような盛大な歓迎会を催していただき、厚くお礼申し上げます。

空港ではまた、モンロー局長及び商業会議所の美人の方のお出迎えをいただき。ありがとうございました。

私どもは、ハワイ、オレゴン、アイダホ各州を歴訪して当地に参りましたが、デンバーで飛行機を乗り替えオマハに到着いたしました時、広大な沃野を見て一驚したのでありますが、この沃野の牧草を食べて畜産特に牛の飼育は、全米首位を占めておられるのであります。

戦後日本は、工業製品を輸出して生存しておりますことは、ご承知のとおりであります。パン食も一般的になつて参りました。日本の工業製品を

買つていただき、またネブラスカの製産品を買入れ、両国の貿易の発展と、親善の増進のため努力したいと存じております。オレゴン州、アイダホ州、ネブラスカ州の知事さんは、皆さん体軀堂々としておられます。私どもはこれら各州の農業生産を買入れ、おいしいものを食べ、次代の日本の知事は、皆さん方のように立派な躰の知事を育てたいと存じます。明日は、ティーマン知事のキャピトルを訪れ、いろいろ教えを受けることになっております。

コマーシャルになつて恐縮ですが明年は万国博が開催されますので、多勢おいでいただきたいと存じます。その節は、奈良県ばかりでなく、その隣の三重県もぜひお訪ね下さい。私どもは姉妹都市静岡市にも決して負けないご歓待をいたします。

さきほどゴルフの話が出ましたが、日本にはゴルフの上手な芸者もおります。芸者のキャディも用意し、ポールも大きいのを準備しておきます。

最後に、当地日系人の方々が非常なご努力とご活躍をしておられますことに、敬意と感謝を捧げたいと存じます。

奥田团长附言

田中知事さんが、一つ忘れたことがありますから補足いたします。それは万国博にはぜひ奥さん方を沢山お連れいただいて、三重県の真珠をたくさん買つていただきたいと存じます。

午後9時晩さん会終了。ラディソン・ブラックストーン・ホテル宿泊。

11. 10月21日（火） ネブラスカ～オハイオ

ネブラスカ大学視察

快晴。午前7時ブラックストーン・ホテル1階シミアン・ルームで朝食。

午前 8 時 グルーハウンド・バスにて州都リンカーン市に向う。同市のネブラスカ大学を午前 9 時 15 分から 11 時まで視察。学生数は 32,000 で世界 70 カ国から留学生が来ており、日本からも 10 名来ているとのことでした。寄宿舎は 1,300 名収容しています。見たところ女子学生数のほうが多いので、男女の割合を聞きましたら、女子は全学生の 65 パーセントを占めているそうで、案内者は、よい婿を探すため入学するので女子の方が多いのですとっていました。

美術館に案内されました。この美術館は、始めシエルドン兄弟が献納し、後にネブラスカ州民とリンカーン市民の寄附により、フィリップ・ジョンソンの設計によつて建設されました。維持費は大学から出ています。20 世紀のアメリカだけの美術品やフランスのキュービズムの影響を受けた絵画や、赤地に黄色の太い線が引かれただけの抽象画や、マークラフコー (mark Roihko) の肖像画などを見ました。版画室には、銅版でネブラスカの伝統や歴史を表わしたエッチングがありました。コーンと州庁を描いた陶器製の壁画を見ました。

州議事堂訪問

午前 11 時から 1 時間州議事堂を訪問しました。この議事堂の設計と芸術は、ネブラスカの遺産を表象しているといわれています。世界の建築物の傑作といわれ、1948 年に全米の有名な建築家 500 名が世界の最も優れた建築 25 を選んだ際、彼等はこの議事堂に第 4 番のランクをつけたといわれます。中央に高さ 400 呎の塔があり、その尖端に 19 呎の「ロダンの種蒔く人」の銅像が立っています。建物全体の面積は、横、縦 437 呎あります。1922 年に着工され、1932 年に完成しました。工費 1,900 万ドルを要し、現在の金額にすると 5 倍ないし 10 倍に達することです。1959 年リンカーン市百年祭の際高原の塔 (Tower on the Plains) と呼ばれました。中央の 4 本の柱はイメリー産の大理石で、1 本の重さが 15 トンあります。周囲の壁画は、州の歴史を描き、旧上院

通ずるドアは、ホンデュラスのマホガニーで出来ており、インディアン。ドアーといわれ、重さは一つ 750 ポンドあります。ロタンダ (rotunda) の床 (円形の床) の中央は、母なる自然 (mother Nature) を表象し、王座についているのは、ローマの女神セレス (Ceres) を表わしています。最高裁判所の天井は、最高の芸術作品といわれ、アメリカ産クルミの木片約 8,000 個が組合わされて作られています。釘は 1 本も用いられておりません。ベルサイユ宮殿に倣つて造られました。Eyes and ears are poor witness when the soul is borbarous (魂が野蛮であるなら眼も耳も劣等な証言者にすぎない) と書かれていました。

全米でただ一つ一院制の議院で、議員数は 49 名です。知事は、一院制の方が安上りで、よく民意を反映できるし、二院制の困難さがないといっていました。知事儀典室で、日本知事団からの土産物の贈呈がありました。田中知事令嬢が知事席につきました。父君の田中知事は、今日は私も娘に頭が上らんといつておられました。

第一ナショナル銀行にて昼食会

正午から第一ナショナル銀行役員室で昼食会が開催され、ティーマン知事も列席しました。ネブラスカ大学総長挨拶ののち、総長から日本知事団にネブラスカ大学百年記念のメダルが贈られました。

田中知事挨拶の要旨

ゆつくりアイスクリームをいただきたいと思つておりまじたところ、奥田団長からご挨拶をするようにとのご指命をいただきましたので、アイスクリームが溶けない程度の短かいご挨拶をいたしたいと存じます。

今朝は、ネブラスカ大学を訪問して、完備した施設を見せていただきましたが、たゞ今総長さんからの話を伺いまして、立ばな大学がどうして出来たかを知ることができました。

州議事堂では、優れた建築や壁画を拝見し随処に開拓者精神が溢れておりまして感銘いたしました。

私どもは、ネブラスカのアドミラルに任命されましたが、ネブラスカは海のない州でありますので、不沈海軍のアドミラルということになります。また私どもは、カウボーイ・ハットも贈られました。娘はニュー・ガバナーとして知事の椅子に坐らせていただきました。

今日このような会食の席を設けていただき重ねて厚くお礼申し上げます。

ネブラスカからオハイオへ

午後 1 時 30 分バスにてオマハのブラックストーン・ホテルに向う。午後 3 時 30 分ホテル発。オマハのエプリーフィールド空港に向う。午後 4 時 5 分ユナイテッド航空 262 便にて同空港発。午後 5 時 17 分シカゴ着。乗り替え。午後 7 時シカゴ発、デルタ航空 653 便。機内夕食。午後 10 時 57 分オハイオ州シンシナティ空港到着、ローズ・オハイオ州知事その他コモドル会代表等日本知事一行をタラップに出迎え。州警察パトカーの先導にて、バスにて宿舎シエラトン・ギブソン・ホテルに向う。ホテルでは約 100 名のコモドル会のメンバーが、ロビー一ぱいになつて待機し、一行が到着すると左右に分れて一人一人握手をしましたが、一度に何十人もの握手で大変でした。コモドル会というのは、海外貿易使節団の人々です。各室には豪華なフルーツ籠が、ローズ知事から贈られていました。西沢知事は、午後 6 時 47 分アレゲニー航空 862 便にてシンシナティ空港到着。一行に合流しました。

12. 10 月 22 日（水） オハイオ

オハイオ州警見

オハイオ州は、アメリカの最も代表的な州の一つと言えましょう。先づ地理的には、東北部はミシガン湖、オンタリオ湖等アメリカ 5 大湖のう

ちのエリー湖に接し、西南部はオハイオ河の流域となつています。西にシカゴ東にニューヨークの大都市に挟まれ、地理的諸条件に恵まれています。従つて水陸空交通の便もよく、農業、鉱工業、観光事業、教育等が総合的に発展しています。人口は百万を越え、州内に人口 50 万を越える都市も、クリーブランド、(大工業都市)、コロンバス(州都)、シンシナティ等 3 つも大都市が包含されています。

先ず幾業は、トウモロコシ年産 665 万トン、カラス麦 890 万トン、大豆 163 万トン、小麦 125 万トン等いずれもその生産は、全米の首位を占めています。羊毛は 1966 年、71 万 1,000 頭の羊から、635 万 1,000 ポンドを産出し、トウモロコシを飼料として、1967 年牛 207 万頭、豚 229 万 1,000 頭、羊 77 万頭を飼育していました。

鉱業については、石炭の産額は全米第 1 位で約 4,500 万トン、石灰 4,300 万トン、塩 502 万トン、砂利 4,270 万トンとなつており、その他セメント、天然ガス、石油等の産額も多大です。

工業については、全米第三位を占め、タイヤ、工作機械、事務機械、ガラス、金属製品、鉄工業等の生産は、アメリカ第 1 位を占めています。

観光事業も発達し、州立公園 71 のほか、名所旧蹟も多く、観光収入は、1967 年 28 億ドルでした。

教育については、公私立大学数 77 校で、学生数は 30 万に及んでいます。

知事はジェイムス・A・ローズ氏 (James A. Rhodes) で、年俸 4 万ドルです。アメリカでは、大きな州の知事ほど俸給が高く、最高は 5 万ドルですから、この点からもオハイオ州は、全米上位ということが出来ます。

視 察

10 月 22 日午前中の日程は、(1) シンシナティ地区の港湾施設の視察、(2) シンシナティ・ミリング機械工場の視察、(3) プロクター・アンド・ギャンブル石けん工場の視察の 3 つのうち、1 カ処を希望により選択すること

になつていました。結局希望者を3班に分けて、視察いたしました。ここでは(3)の視察について報告いたします。

プロクター・アンド・ギャンブル石けん会社(Procter & Gamble Co.)は、1837年にプロクターとギャンブルという2人によつて創立されました。石けんの年産額は、25億ドルで、アメリカの家庭の9軒に1軒は、この製品を使つているといわれています。全従業員はこの工場では4,000人で、昼夜3交替で作業しています。すべてオートマティックに生産されます。

石けんの原料は、動物の脂肪、大豆、綿の夷、鯨等からとります。副産物としてグリセリンからダイナマイトが生産されます。石けんのコストは秘密になつていますが、IVORYという浴用石けんの市価は、5セントであるとのことでした。

1日の労働時間は、8時間で、女子は1時間の賃金3・5ドル、男子は4ドル、機械技術者は4・5ドルの由でした。男子1日4ドルとして8時間労働で32ドル、1カ月の稼働日数25日とすれば、月収800ドルです。アメリカ人の普通の賃金より上位と言えそうです。

他に実験室があつて、1日10,000個の石けん製品の検査をするほか、加工途中の石けんの検査、原料の検査も行われています。石けんのほか、歯磨き、液体洗料、シャンプー等の生産も行われています。

正午昼食の馳走になり、石けんと歯磨き詰め合せの箱を土産品としてくれました。午後1時15分ホテル帰還。

第8回日米知事会議

午後2時から5時まで、シエラトン・ギブソン・ホテル4階の大舞踏室で、第8回日米知事会議が開催されました。出席者は、日本側は訪米知事、副知事全員、アメリカ側は、オハイオ州ジェイムス・A・ローズ知事(James A. Rhodes, Ohio)、ケンタッキー州ルイス・B・ナン知事(Louis B. Nun, Kentucky)、インディアナ州エドガー・ホイットコム

知事 (Edgar B. Whitcome, Indiana), ウェスト・ヴァージニア州ウィリアム・ロイ副知事 (William Loy, West Virginia), ミシガン州リチャード・ヘルムブレット副知事 (Richard Helmbrecht, Michigan) の知事副知事でした。

来賓としてジョンソン国務次官 (U. Alexis Johnson) 及び駐米下田大使のほか、オブザーバーとしてコモドル会代表、新聞記者等が出席しました。

日米知事会議の内容につきましては、別の報告書をご参照願います。

カクテル・パーティと晩さん会

午後 6 時から、昼間日米知事会議の開催された 4 階大ホールで、カクテル・パーティと晩さん会が開かれました。日米知事会議出席者全員の出席のほか、シンシナティ商業会議所代表、コモドル会員、州、市関係者等、約 600 名の盛大なパーティでした。

カクテル・パーティの最中、隣室で、ローズ知事とジョンソン国務次官へ、知事団からの土産品の贈呈がありました。

ジョンソン国務次官の演説は、約 20 分にわたる大演説であり、下田大使の演説草稿も重なるもので、共に日米知事会議において発表すべきものを、時間の都合上、晩さん会席上で発表されましたもので、両者日米知事会議報告書に含まれておりますので、ここには記録いたしません。その他のスピーチについて、次に記録いたします。

ローズ知事挨拶の要旨

日本知事団各位、来賓の皆様、私はたゞ今皆様の盛んな拍手をいただきまして感謝いたします。しかしながらオハイオ州では、知事 3 選の規定がございませんので、今一度知事として皆様方をお迎えすることは無いと存じますので、どうぞ私をお忘れないようお願い申し上げます。

日米知事会議は、日米共通の問題を討議する場でありまして、今日はまず社会福祉の問題が討議されましたが、今日の世界でこのように古い問題

を討議せざるを得ませんでしたことは、まことに残念なことであります。

職業教育の問題についても討議いたしましたが、これは日本の方が遙かに進んでいたことを知ったのであります。

私は、オハイオが今日の地位を築き、貿易の発展を見るに至りましたことは、オハイオ州民の絶大なる努力のお蔭でありまして、深くお礼申し上げたいと存じます。

貿易の分野でもオハイオは、カリフォルニア、ニューヨークに次いでアメリカ第3位の地位を占めております。しかもオハイオは、カリフォルニアの半分の面積しか有しておりません。もし同一の面積を有しておりましたならば、優にニューヨークも凌駕し得たと存じます。われわれは、世界各国に貿易の事務所を有しております。そしてこの貿易の原動力は、私たちの代表が世界各国を訪問されたお蔭でありまして、コモドールに所属する人々の功績を称えたいと存じます。私どもは、70年万国博の日程の終りの方で、日本を訪問することになっておりますが、日米両国の貿易の発展を称えたいと存じます。

私の親友下田大使をご紹介いたします。私は下田大使を深く尊敬しておりますものでありまして、昨夜私は、100名のコモドール会員と共に、ホテルのロビーで大使をお迎えしたのであります。

下田大使挨拶の要旨

日本の知事代表団をこのように盛大にお迎えいただきまして、まことにありがとうございました。知事団の方々も、さぞご満足のことと拝察いたします。

日米の関係はますます緊密化し、両国相互の交流も年と共に盛んになりましたことは、ご同慶の至りであります。日米知事の相互訪問は、特に日米の友好増進に、多大の貢献をされて参りました。

アメリカは、アポロの月着陸の偉業を達成されましたが、このことについて心からお喜び申し上げます。

明年は、70年万国博が大阪で開かれますので、ぜひ多くの方々にご訪問いただきたいと存じます。

奥田団長挨拶の要旨

今夕私どものためこのような盛大な歓迎会を催していただき、ローズ知事ご夫妻、ジョンソン国務次官その他州、市関係の方々、コモドル会員の方々に、厚くお礼申し上げます。私どもは、昨夜遅く当地に到着いたしました。

ジョンソン閣下にお会いいたしました時、閣下は日本語で話して下さいまして、日本には地獄で仏という言葉がありますが、極楽で仏に会ったような気がいたしました。

本日日米知事会議が開催され、日米の共通の問題について討議いたしました。このような日米知事の会合は、共通問題の審議のうえにも、親善増進のうえにも、最も必要であると存ずるのであります。

私どもは14日ホノルルに到着いたし、その他オレゴン州、アイダホ州、ネブラスカ州、と各州を訪問して当地に参りましたが、各地で盛んな歓迎と温かいおもてなしをいただき深く感謝しております。特にアイダホ州では、日曜にもかかわらず終日サミュエルソン知事のご案内をいただき、感激いたしております。各州を訪問して感じましたことは、すべてが日本よりケタ外れに大きいということであります。私どもは将来、貿易についても農業問題についても、両国の一層の発展のため、お互によく話し合つてゆきたいと存じます。

昨夜はホテルで100名以上ものコモドル会員の皆様の盛んな歓迎を受けましたが、その際オハヨウ、オハヨウという言葉聞いて奇異の感がありましたのであります。なぜかと申しますと、日本ではオハヨウは、good morning ということ、夜遅く good morning というのは、どういう訳かと思つたのであります。それは私には、オハイオがオハヨウと聞えたからであります。日本に帰りましてから、オハヨウと挨拶する度ごとに私

は、オハイオ州を思い出すことでしょう。

明年は、70年万国博が大阪で開かれますが、今日のお礼もかねて、ご
歓待したいと存じておりますので、ぜひ大勢お訪ねいただきたいと存じま
す。その節は、私の県もお訪ねいただきたいと存じます。奈良は、千年の
歴史をもつ日本の古都でありますので、日本の古代文化も見ていただきた
いと思います。ついでに三重県は、私の隣りの県でありまして、御木本パ
ールで有名であります。皆様ぜひ奥様ご同伴でおいでいただいて、御木本
パールも沢山を買上げいただきたいと存じます。

13. 10月23日（木） オハイオ～サウスカロライナ

オハイオ河遊覧

天気晴朗。昨夜西沢知事ミズリー州から帰還、一行に加わる。午前9時
30分、宿舎のシェラトラン・ギブソン・ホテル発。4隻のボートに分乗し
てオハイオ河を遊覧しました。下田大使も同乗しました。

地図で見ると毛ほどにも見えない河ですが、大利根の2・3倍はある大
きな河です。手前方の河岸に、ボートがたくさんもやつてありました。皆
3・40トンの大きなボートですから、遊覧船だと思つたのです。後で聞い
たことですが、これらは皆個人の持ち船だそうで、改めて日本と貧富の
懸隔の大きいのに、驚かされました。

私どもの乗つた船は、モルティマー・C・ウォッタース氏 (Mortimer
C. Watters) の所有で、この人はコモドル会のメンバーであります。
黒人のコックが愛想よくウイスキーを勧め、自慢の料理を出してくれまし
た。ウォッタース氏は、この調理人と家族を乗せて、フロリダまで、2
・3週間の旅行に出ることがあるといっていました。船室、機関室等よく

完備し、建造費約 14 万ドル（5 千 40 万円）ということでした。下田大使は、飛行機の都合で途中で下船、われわれは船中でたつぷりご馳走になりました。

空港にて

シンシナティ空港は、20 年前 4 百万ドル、現在の貨幣価値にすると 1 千万ドルで建設されましたが、毎年乗客の増加のため狭隘となり、近い将来年間 3 百万人の乗降客を予想し、一大拡張計画が進められています。シンシナティ市は、オハイオ州の都市ですが、空港はケンタッキー州の区域に属していますので、ケンタッキー州警察官が、知事団一行を護衛してくれました。

空港ラウンジで、約 1 時間半の待合時間がありましたので、デルタ航空会社がカクテル・パーティを開いてくれましたが、その際日本の知事、副知事を、陸軍大佐に任命したいので、名刺をほしいといつて、名刺をもらって行きました。本年初頭知事団が訪問もしないケンタッキー州知事から、訪米知事団に陸軍大佐の称号が贈られて来ましたのは、このような次第です。

機上にて

午後 4 時 25 分、デルタ航空 345 便にてシンシナティ空港発。午後 7 時 30 分ジョージア州アトランタ空港着、デルタ航空 651 便に乗り替え、午後 8 時 29 分同空港を離陸しました。

天気晴朗で、機上からの眺めの美しさは譬えようもありませんでした。円い月が手が届きそうなところに揮やいています。下界は、赤、青、黄とどりの輝やく真珠を撒きちらしたようで、青い真珠の列がうねうねと長く続いているところは、市街地の道路でしょうか？赤や黄の輝やく真珠がひと塊になつているところは、娯楽センターか何かなのでしょうか？2・30 階建てのビル全体が、電光に浮き出されているところもあります。西の空は暗闇に包まれ、地平線上に一線茜色が細く長く引かれています。太

陽が地平線から隠れた瞬間の光景です。高度 1 万米からの日没直後の眺めです。たちまち空は夕闇に包まれました。凡そ 1 時間後飛行機が少し揺れて No smoking, Fasten your belt のサインが出ました。目的地チャーleston空港は近いようです。やがてまた輝やく真珠を撒いたようなチャーlestonの市街が見える。自動車のヘッドライトが流れる。ちよつとバウンドしたと思うと着陸。かくして予定より 30 分程遅れて午後 10 時サウスカロライナ州チャーleston空港につきました。

空港にて州、市関係者の出迎えを受け、直ちに宿舎シエラトン・フォート・サムスター・ホテルという長い名前のホテルに、午後 10 時 30 分到着しました。

14. 10 月 24 日（金） サウスカロライナ

サウスカロライナ州警見

太平洋岸のオレゴン州から概ねアメリカ中部を横断して大西洋岸のサウスカロライナ州に達しました。しかも中部アメリカから南部アメリカに参りましたので、サウスカロライナは、気候、風土、産業等今まで訪問してきた諸州とは大変異つております。

サウスカロライナは、面積はアメリカで 40 番で、ほぼ北海道に等しく、人口は僅か 27 万です。そのうち黒人は 35 パーセント以上を占め、貴族的な社会と相容れず、黒人との衝突もしばしば起きています。西北はアパラチヤ山脈がありますが、余り高くなく、東南は太平洋に面して、平地が多く、気候は亜熱帯で、綿花、タバコ、トウモロコシ等の農産物の生産が盛んです。また畜産、養鶏等も盛んです。工業は繊維工業が最も盛んで、綿糸生産高は、全米第 1 位を占め、合成繊維品及び羊毛製品も多量に生産されて

います。

しかし先に訪問したオハイオ州と比較しますと、農業、工鉱業、林業等非常に劣っています。昔は Poor White（貧しい白人）といわれた地方ですが、現在では電化、機械化の発達によつて、パルプ、レイヨン工業等非常な進歩を遂げました。

サウスカロライナ州は、植民地時代からの長い歴史をもち、見るべき場所が多く、南北戦争で最初の砲火を交えたサムスター要塞のあるチャールストンは有名です。州都はコロンビア（Columbia）です。

州知事はロバート・E・マクネアー氏（Robert E. McNair）です。

チャールストン市とチャールストン港視察

チャールストン市は、(Charleston) サウスカロライナ最大の都会で、人口約 13 万、首都圏の人口は約 30 万であります。アメリカでも最古の都市の 1 つで、昨年 300 年祭が行われました。市内には、ブルック・グリーン庭園、エディストー庭園、ミドルトン庭園のような由緒ある名園や、モールトリー砦のような古跡があります。市街の建物も古いものが沢山残っています。

市の中心部は、クーパー河とアシュレイ河に囲まれ、半島のように突き出ています。大西洋岸の重要な港の 1 つです。

10 月 24 日、快晴、9 時 40 分ホテル出発、ポートでチャールストン港湾施設を視察しました。サムスター砦、州管理による港湾施設、カップパー河橋梁、工業施設、海軍基地、穀物エレベーター等の施設を、説明を聞きながら船上から眺めました。約 1 時間。

ドーチェスター技術教育センター

午前 10 時 30 分から、バークレー・チャールストン・ドーチェスター技術教育センター (Berkeley, Charleston, Dorchester Technical Education Center) を視察しました。この技術教育センターは、バークレー・チャールストン・ドーチェスターの 3 つの郡すなわち、サウスカ

ロライナ州が必要とする技術者の教育を行うところで、サウスカロライナ州だけがもっている教育施設です。目的は同州に民間企業を誘致し、これに技術者を供給することにあります。7年前創立されましたが、南部諸州のうちで最大の成功を収めているということです。富山県吉田工業がジッパー会社の設立を計画しています。

修業期間は2年間で、毎年9月に新入生の募集があります。入学資格は18才以上の高等学校卒業者で、所定の入学試験に合格しなければなりません。月謝は年間僅か12ドルで、別に活動費年間10ドルを要します。コースは、農業、化学技術、土木建築、資料分類、電気技術、電子技術、森産業、工業技術、機械技術の各コースに分れています。

昼間コースの外に、退役軍人と戦争孤児のセンターもあります。昼間と夜間のコースがあります。案内者の説明によると、ここの施設の卒業生は、99パーセント就職するということでした。

アヴコ・ライコミング会社

午前11時30分から、アヴコ・ライコミング会社 (Avco Lycoming) の工場を視察しました。この会社の工場の敷地面積は80万平方呎の広さがあり、工場建物は、縦1,500呎横400呎あります。従業員は3,500名で、完全な金属工業施設をもち、高圧ガスタービン・エンジンの製作、エアジン・テスト、エンジン・オーバーホール等の作業をしています。川崎重工では、この会社と同じガスタービン・エンジンを製作しているとのことでした。ここの技術者の5分の3は、前述のパークレー＝チャールストン＝ドーチェスター技術教育センターの出身者で占められています。

この会社の主催した昼食会には、ジョン・ウエスト (John West) 副知事の挨拶がありました。

更生センター

午後2時30分から、サマービル (Summerville) にある更生センターを視察しました。この更生センターは、Rehabilitationといわず殊更

に Re を削除して Habilitation といつているところに、深い意味が
ようです。Rehabilitation という意味は、復旧とか更生という意味で
すが、これは悪いものを元のように復旧または更生することですが、生れ
ながらに不具廃疾の子供は、どう復旧し更生することが出来るのでし
ようか？ 子供には何の罪とがはありません。責は親が社会が負うべき
です。

このような意味から、Habilitation といつているのではないかと思
います。

88 エーカー（10 万 5 千 600 坪）の敷地にある幾棟もの建物は、
500 人を収容することが可能ですが、現在は 360 人収容しています。
年間予算は 700 万ドルで、3 分の 2 は国が負担し、3 分の 1 は州が負担
しています。子供 1 人の入所に月 100 ドルを収め、他は収入に応じて多
額の費用を収めることになっています。

知能指数の低い子供、小児麻 の子供、身体障害児等が、それぞれの機
械器具を用いて歩行の訓練や四肢の運動などをしていました。重症者にな
ると床の毛布に横たわつたまゝ、身動きも出来ない子供います。呼吸して
いるというだけの存在です。ある 17 才の少女は、椅子に腰掛けて前の台
に上体をうつ伏せたまゝ、上体を動かすことすら出来ません。耳だけは聞
えますから、物を問われると犬の吠えるようなウォーという声だけを出
すことができます。生れながらにしてこのような苦患を背負はされている子
供に、何の罪とががありましよう。みんな親や社会がその責を負うべきな
のです。悲惨といおおか気の毒といおおか、表現のしようもありません。
われわれもまた社会の一員として連帯の責任をもっているのです。他人ご
とのように Rehabilitation などと考えていてはならないと思いました。

シタデル大学閱兵式参観

シタデル (Citadel) 大学は、一風変つた大学です。普通陸軍大学とい
われていますが、軍人になる義務は負わされていないのです。政治家でも
科学者でも、希望する職業につくことができます。この日一日案内してく

れたジョン・ウエスト副知事も、この学校の卒業生なのでした。毎週金曜日に閲兵式が行われ、この日もたくさんの見物人が参観していました。

歓迎晩さん会

午後7時30分からコロニー・ハウス・レストランで、チャールストン郡委員会のカクテル・パーティーと正式ディナーが開催されました。出席者約300名の盛大なパーティーでした。マクネール知事は、用事のためシントンに行き、午後9時頃このパーティーに参加しました。大変和やかな楽しいパーティーでした。

マクネール知事挨拶の要旨

昨年私は、アメリカ農産物展出席のため、フリーマン農務長官一行とともに日本を訪問しました。その際は、朝から晩まで引き廻されましたので、今回日本の知事団ご一行がわが州を訪問され、あちこち引き廻したとしても、苦情は言えない訳です。またその際日本の多くの工業を見せていただきましたが、全く爆発しそうな発展ぶりに驚いたのであります。日本の知事様に深く敬意を表します。特にクリフィールド氏の、縁の下の力となつて尽力して下さったことに、感謝の意を表します。70年万国博には、またこのうちの何人かの方々にお会いできることを期待しております。

今回皆様は、アメリカ南部の州として、サウスカロライナをお選びいただき、感謝いたします。当州の経済上昇率は、全米第1位であります。その証左としてガスタービンの会社をご視察いただいたのであります。西ドイツはアメリカに、4億2千万ドルの援助をしておりますが、そのうち3億6千万ドルは、当地に投資されておるのであります。

重ねて今般サウスカロライナをお訪ねいただきありがとうございます。いろいろの機関も見ていただきうれしく存じます。われわれは、困難な問題を有しておりますか、註（繊維品製産州として繊維自守規制を意味すると思われます。）両国が手を繋いで行けば、必らず解決する問題と思ひます。私どもは皆様の今回のご訪問のような機会を通じ、理解を深めるこ

とが出来ますことをうれしく存じます。

金丸知事挨拶の要旨

皆さん今晚は。われわれ知事団の申し合わせに従いまして、今晚は私が、ご挨拶申し上げます。

さる 14 日にハワイに到着いたしましたから、各地で非常に温かい歓迎を受けて参りましたが、昨晚チャールストン空港に到着いたし、温かい気候と心暖まるご歓迎をいただき、非常な感激を覚えました。

昨日はドーチェスターの TEC センターを見せていただき、この州の発展に大きな貢献をしていることを知りました。サマービルの優れた更生施設も拝見し、シタデル陸軍大学でアメリカの若々しさを見て、感銘いたしました。明日はまたフットボールの試合を見せていただけますことを楽しみにしております。300 年の歴史をもつサウスカロライナと、太西洋岸唯一の港であるチャールストンの港湾施設も拝見いたすことが出来ました。

1950 年にカリフォルニアを視察するため、60 日間旅行したことがございます。その当時は日本人が非常に珍らしく、Stranger として見られたものでしたが、今回は皆さんがよく日本を知り、日本を理解しておられ、何よりも喜ばしく存じます。

先程マクネアー知事さんは、今回は hard schedule であると申されましたが、私どもは今朝 7 時の朝食以来多忙な日程を過しました。

しかしながら、非常に得るところがございました。昨日はケンタッキー州で大佐の称号をいただき、国へ帰りましたら、益々多忙になることと思えます。

私どもが痛感いたしましたことは、アメリカが偉大なる国であり、産業が発達して、国民が勤勉であるということでもあります。日本は、石油も鉄も石炭もない小さな 4 つの島から成る国であります。今日の隆昌を勝ち得ましたことは、アメリカのご協力によるものであります。今後貴国と日本は、末永く友好の絆を固めて行かなければならないと存じます。

一行中 2 人の女性がおります。田中知事令嬢と私の妻であります。私は 20 年前は、1 人で旅行しましたが、今回は妻と参りました。令嬢は、今回の旅行を最も enjoy されたことと思いますが、妻の一番のお土産は、アメリカに倣えということだろうと存じます。

来年は EXPO 70 が開催されますので、ぜひおいで下さいますよう、この席におります知事団一同心からお待ちしております。

15. 10 月 25 日（土） サウスカロライナ～ワシントン

ミドルトン・プレース庭園

午前 7 時 30 分宿舎シェラトン・フォート・サムスター・ホテルで朝食を済ませてから、午前 10 時バスにてホテル発、チャールストンの古い市街を見物ののち、ミドルトン・プレース (Middleton Place) の名園をゆつくり見物しました。

昨日から 2 日間日本知事団を案内し、通訳を勤めて下さった、山田博士について記述してかきたいと思います。山田昌敬博士は、東京の医科大学卒業後、1956 年トロントで神経学を勉強し、更にシカゴ及びポートランドで勉強ののち、1962 年 VA 病院 (Veterans Administration Hospital) の職員となり、神経外科の医師をしています。夫人はアメリカ人です。

このミドルトン庭園は、1741 年にヘンリー・ミドルトン (Henry Middleton) によつて造られました。彼は毎日 100 人の人を使つて、完成までに 10 年の歳月を要したといわれます。南北戦争時代に荒廃しましたが、その後修築されて現在の庭園になりました。周囲の緑を浮べる「蝶の湖」(Butterfly Lakes)、樹齢 900 年、周囲 37 呎もあるカ

シワの木の森＝これには南部特有のスパニッシ・モスという苔が長く垂れ下つています。＝ライス・ミルの池 (Rice Mill Pond), イトスギの湖 (Cypress Lake), 3万5千本のツツジに包まれた遊歩道＝満開の頃はどんなにか見事であろうと思いました。＝緑に包まれた春の家 (Spring House), 投影の池 (Reflection pool), ツツジが池 (Azalea pool) 等々広大な庭園には, 沢山の池や湖や森があります。惜しいことに百花乱れ咲く季節ではありませんでしたが, 静かな池畔, 緑の小径を歩いていみると, 心も清まる思いがいたしました。案内書には “No man can enter Middleton Gardens and not Emerge a Better Man” 「ミドルトン庭園を訪れる者はみな善人になつて去る」と書いてありました。庭園案内の事務所で茶菓のご馳走になつて辞去しました。このあと知事, 副知事は, 幾組かに分れて個人の家庭を訪問して, 昼食の招待を受けました。

フットボール試合見物

午後シタデル・スタジアムで, シタデル大学 (Citadel) 対デイビッドソン大学 (Davidson) のフット・ボールの試合を見物しました。シタデル大学は, 1点を得るごとに大砲の空砲を放つ, 両軍応援団は秘術を尽して応援し, 場内は熱狂する観衆で湧き返り, 熱戦が展開されましたが, 上半 20 対 13 でシタデルがリードしている時, ホテル帰還の時間が来て退出しました。

ワシントンへ

午後 5 時 15 分 宿舎のシェラトン・フォート・サムスター・ホテル発, チャールストン空港に向い, 午後 6 時 15 分 同空港発のナショナル航空 420 便でワシントンに向け出発しました。

ワシントンまで僅か 50 分の飛行です。この短時間に機内夕食が出されましたが, 約 20 名のファスト乗客に, 1 人のスチュアデスがサービスするのはいかに多忙な肉体労働であるかを, 目のあたりで見ました。十代の若い外人スチュアデスが, 手際よく処理していました。

午後 7 時 25 分ワシントン空港に到着しました。ウインザー・パーク・ホテル宿泊。

16. 10 月 26 日（日） ワシントン

ワシントン警見

ワシントン市は 1790 年に首府に指定され、現在では人口 76 万、米国第 9 位の都会となっています。連邦議事堂（キャピトル・ビル）を中心に北京、北西、南東、南西の 4 区画に分けられ、樹木が多く、世界最高の路面率（47 パーセント）を誇っています。郊外住宅地を含めた人口は、200 万であります。市内人口はその 70 パーセント強が黒人で、これがワシントンの人口構成の特徴をなしています。

市内観光

午前 10 時バスで市内観光のためホテル発。諸外国の大・公使館が集中している官庁街を通過し、ジェファソン記念堂、リンカーン記念堂、ワシントン記念塔、タイダル・ベースン及びポトマック公園、アーリントン墓地等を訪問しました。

ジェファソン記念堂は、ポトマック公園の中、タイダル・ベースンの南岸にあつて、イオニヤ様式の柱に囲まれた堂内には、ジェファソンの青銅立像があります。

リンカーン記念堂は、ワシントン記念塔の西方、細長い反射池を狭んで、コンステイチューション・アヴェニューの西端の南側にあります。堂内のリンカーンの像は、東方を望んでいます。堂は大理石造りで、リンカーン時代の米国 36 州の団結を象徴する意味で、周囲に 36 本の柱があります。

ワシントン・記念塔は、ホワイト・ハウスの南方にあるオベリスクで、

高さは 555 呎あります。500 呎の高さに展望台があり、エレベーターで昇降することが出来ます。

タイダル・ベースンは、ワシントン記念塔及びリンカーン記念堂の南方、ポトマック河に沿って広がるポトマック公園の中心をなす入江で、1912 年尾崎氏の寄贈になる有名な日本桜 3,000 本は、ここに 있습니다。一重桜はベースンの周りにあり、南方の河畔にあるのが八重桜です。

アーリントン墓地は、ワシントン市の中心部から自動車です約 20 分の距離にあり、国有の共同墓地であります。起伏に富み、明るい公園のようになっています。1864 年設置されて以来、参拝者が絶えたことがありません。幾千の無名戦士の墓とともに、ケネディ故大統領、ロバート・ケネディ故上院議員、ダレス故国務長官の墓などもあります。

河本氏私邸の昼食会

正午河本幸夫氏邸を訪問して昼食のご馳走になりました。河本氏邸はワシントン郊外の閑静な住宅地にあつて、立派な邸宅でした。ある知事がこれ位の邸宅は、役所でどの位の人がは入っているかと尋ねましたら河本氏は、陸軍大佐級でしようと答えました。

夫人の手づくりの支那料理が大変うまくて、何回もかかわりして腹いっぱいいただきました。写真を撮つたり、裏の芝生で歓談したりして、ゆつくり休息することができました。

日本大使主催晩さん会

午後 6 時から日本大使官邸で下田大使主催の日本食によるカクテルパーティと晩さん会に招待されました。いつものように日本大使主催の晩さん会では、すし、てんぷら、さしみなど飛切上等な日本食が出され、2 週間のアメリカ滞在で日本食が恋しくなっている頃なので、鱈腹いただきました。ジンヨソン国務次官も招客の 1 人として出席していました。奥田団長が夜間撮影に活躍されました。一行中奥田団長だけが夜間撮影の器具を携行して、衆目を浴び、夜間撮影の独壇場でした。フラッシュが閃光を発す

るごとに、「そら今のは影つた証拠だ。技師の腕が優れている。西沢知事さんはフィルムに入れ方もご存知ないのだから。」といつて皆を笑わせました。西沢知事は「それカラー・フィルムでしょう。空なんだから影りませんよ」とやり返し、和やかな雰囲気でした。

解団パーティ

大使主催の晩さん会が終りホテルに戻つてから、午後9時、奥田団長の部屋で、オレゴン州到着以来、日本知事団のため献身的努力を傾注してくれたクリフィールド局長、河本氏、マーフィー嬢、田村氏夫妻の労をねぎらい、かつ、無事に旅行を終え、解団のためささやかなパーティを開きました。

このパーティのためにも、クリフィールド局長や河本氏から大変お世話になりました。奥田団長の控え室でこのパーティを開く予定でしたので、オレゴン州でクリフィールド局長に依頼し、団長の部屋は一番大きなスイートの部屋に変えて貰いました。経費を安上りにするため、飲み物やカナペなどは、ホテルに依頼せず外の酒屋などから買入れることにしましたが、日曜日のため酒屋は閉店しています。河本氏は、なんとか酒や食べものを買入れてくれましたが、もちろんホテルまでは配達してくれません。河本氏がホテルまで運び込んでくれました。

先づビールの乾杯をしてから、知事団から交る交る土産物が一人一人に贈られました。

クリフィールド局長から大要次のようなお礼の言葉が述べられました。『今回大変立ばな日本知事団の方々のお供が出来まして、光栄に存じております。知事団の方々は、それぞれアメリカの特色ある州を、ご視察になりました。ハワイは観光地として、オレゴンは水力の利用と養魚地として、アイダホはじやがいもとジェム・ステートとして、ネブラスカは畜産の盛んな州として、オハイオは工業の盛んな州として、サウスカロライナは、古い歴史をもつ南部の州として、それぞれに特色をもっておりますので、き

つと皆様は満足されたことと思います。

日米知事会議も、多大の成果を収めて終ることが出来ました。明年は万国博が開かれますので、アメリカ知事団が訪問いたしますので、よろしくお願ひいたします。』

ウイスキーやビールがまわるにつれて、鹿児島金の丸知事や田中知事令嬢の歌が飛び出し、愉快的なパーティになりました。日本人とアメリカ人が、こんなに胸襟を開いて語り合い、融合した有様は、これまでも無かつたし、これからも滅多に見られないだろうと思ひました。歡を尽すとはこのことを言うのでしよう。深更に及ぶまで語り合ひました。

17. 10月27日（月） ワシントン

運輸長官と朝食会

午前8時運輸省を訪問、ジョン・A・ポルペ（John A. VoIpe）運輸長官の朝食会に招かれました。ポルペ長官は昭和43年、マサチューセッツ州知事、訪日アメリカ知事団々長として日本を訪れました。小柄な身体を熱血でたぎらせているような、活動的な人です。

ポルペ長官挨拶の要旨

皆さんよくいらつしやいました。私は昨年アメリカ知事団々長として貴国を訪問いたしました。今でも長官といわれるよりは、知事といわれた方がしつくりします。

日本を訪問した時「おしぼり」を学びました。ある時友人の知事から、竹細工と「おしぼり」をもらいましたが、その後竹細工は失つてしまいましたので、このたび2打ほど買ひ求めて皆様のために備えました。

立ばな記念品と写真をいただいてありがとうございました。訪日中の数

々のご好意に対し、とてもか報いすることはできません。盛んな歓迎を受けましたが、特に田中知事の県では温かいおもてなしを受けたばかりでなく、大変美しい婦人にご案内いただきました。

日米共通の問題について話し合いを始める前に、団長奥田知事さんのご挨拶をいただきたいと存じます。

奥田団長挨拶の要旨

今朝はお忙がしいところ、私どものためにこの朝食会をお開きいただき、一同を代表して厚くお礼申し上げます。特にボルペ知事さんが、運輸長官にご昇進されましたことを心からお喜び申し上げます。長官のご活躍の場である運輸省で、知事として日本を訪問され、日本をよく理解しておられる長官と、食事を共に出来ますことを、うれしく存じます。私たち知事の中からも、将来大臣が出るかも知れません。

長官は、ニクソン大統領と親密な関係を有しておられ、私どもも長官のご就任を新聞で知っておりましたが、この機会に改めてお祝い申し上げます。

朝食後は、日米共通の問題について話し合い出来ますことを、うれしく存じます。

ボルペ長官

日本で見た新幹線については、私はいろいろの人々に百回以上も話をしています。全世界も新幹線に驚いています。私たちも地上を走る交通機関について、調査研究を進めています。私どもは時速 800 キロで走る地上交通について研究していますが、フランスでもエア・クッションの鉄道を研究しています。これは列車というよりも飛行機に似ています。私どもはまた、都市間の高速運輸機関についても調査を進めております。

田中知事質問

高速輸送機関の話がありましたが、従来の鉄道はどうゆうことになるのですか？

ボルペ長官回答

これには2つの回答があります。1つは短期の改革で、従来の線路を使い、電車を走らせることです。これはワシントンとニューヨーク間を、2時間半で走っています。現在まで1日1往復でしたが、今日から3往復になりました。現在まで航空旅客をごっそりさらうまでに至っていませんが、相当量の交通緩和に貢献しています。

第2の長期展望については、これも短期と長期に分れ、短期のものは英国の会社と提携して開発を進めています。軽量で時速240キロであります。もう一つのもは、フランスと共同で開発を進めているもので、空気のレールの上を走るものです。25メートル位の間隔に柱を立て、地上5メートル位のところに丁字型の台を造り、その上の空気のレールの上を走らせるもので、ガス・タービンで推進します。時速250キロ位ですが、これは騒音が激しいので目下研究中です。

長期展望としては、地下300メートルのトンネルを走るもので、山から谷に下り、また山に登る時は惰力を利用するものです。モグラ式のこの列車が完成すれば、全アメリカを端から端まで10時間で走ることが出来ますが、閉鎖恐怖性の人には不適です。

私の部下の次官が、3カ月前日本を訪問して、大臣と会見して来ましたので、その結果を報告してもらおうことにします。

ベッグス (Beggs) 次官談

経済閣僚委員会に出席して、原田運輸大臣と会談しました。日米相互に運輸について貢献しようとするものであります。エアクッションについても、騒音についても情報を交換することになっています。東京国分寺の鉄道研究所でいろいろのものをを見せていただき、感謝しています。

シェイファー航空局長の話

(註) シェイファー氏は、連邦運輸航空局長です。Mr. John H. Shaffer, Administrator, Federal Aviation Administration.

全米の飛行場と航空路を、10年間に140億ドルを投じて開設又は拡張する計画を立てています。50億ドルで新しく900の飛行場を開設し、2750の空港を拡張しようとするものであります。そのうち25億は、安全と施設の改善に使用いたします。

超音速 SST は、1972年に完成し、1978年に営業を始めることになっていきます。地上2万メートルをマッハ2.7で航行しますが、どのような騒音を発するかが問題であります。すなわち音速マッハを超えるときの騒音です。このような SST が出来ても、人口稠密地帯を飛ぶことはなく、海上を飛ぶことになると思います。このような飛行機が出来ますと、人類に多大の恩恵をもたらすことになりましょう。

ボルペ長官

ニクソン大統領は、特に都市内と都市間の交通のため、12年間の長期展望のうえに立つて、100億ドルの予算を議会に提出しました。今までは余りに自動車に頼りすぎてきたと思います。

州間連絡局ボー局長と会見

(註) ニルス・A・ポー氏は、サウス・ダコタ州知事として昭和43年アメリカ知事団と日本を訪問しましたが、今は州間連絡局 (Office of Intergovernmental Relations) の局長をしています。アグニュー副大統領との会見前に同氏と会見しました。

皆様方をアメリカの首府にお迎えできましたことを、光栄に存じます。昨年アメリカ知事団と貴国を訪問した時の思い出は、みな楽しいととばかりです。田中知事とはまたお会い出来てうれしく存じます。

大統領は、今日親しくお会いできないことを残念に思います。最後までお会いする予定であつたのですが、特別の議会の会議のため、お会いできなくなりましたが、副大統領が11時30分にお会いいたします。副大統領は、メリーランド州の知事をしていましたので、皆様方に特別に近親感をもっております。上院での会食前にお会いすることになっていきます。

私も日本で人生最高の経験をいたしました。このような会合を通じ、日米の関係は一層深められることと存じます。

この局は大統領の特別命令によつて作られた局であります。目的は、州、郡、市町村と大統領との事務連絡を容易にすることです。各州民及び市民により多く政府の施策に参加することが出来るようにするため作られたものであります。大統領は、地方分権化のためこの局を作りました。私はこの仕事を大変面白いと思つております。

全米を10の地区に分け、HEW省（House, Education, Welfare）の出先機関と他の2つの出先機関と合わせて5つの機関を置き、政府と各州、郡、市町村との連絡を容易にしています。これらの機関は、連邦政府の施策を実施しています。連邦政府の事業は、1,000種類ほどありまして、これらの事業について各地方に浸透させるとともに、住民の意向を聴いております。これらの事業の総括は、大統領がしております。

副大統領と会見

副大統領アグニュー氏（Spiro T. Agnew）との会見の室は、20名程の会議室で、地図と国旗の外には、何の飾りもない部屋でした。副大統領は、11時半に1分の差もなく隣室から出て来て、日本知事の囲む中央の席につきました。新聞社のカメラマンが多数おりました。途中でコーヒーが出されました。

皆様をお迎え出来てうれしく存じます。以前私は知事でありましたので、知事の苦勞をよく知っています。しかしこのような政府の位置につくと、いろいろむづかしい問題が出て来ます。

知事は地方の最高責任者で、一度裁決を下せば最後まで実行しなければなりません。これは白米共通のことだと思います。

クリフィールド氏は、知事の問題をよく知っています。個人個人の知事の癖まで知っています。オハイオ州のローズ知事に会われたと思いますが、彼は州のため全力を傾注している人です。

万国博にご招待を受けうれしく思っています。私は、アメリカ知事を本国に止めておくことがむづかしいのではないかと思っています。毎年知事の日本訪問希望者が甚だ多く、日本はぜひ訪問すべき国であると言っています。また、日本独特の親切な歓迎を感謝しています。私は来年日本を訪問出来ないかも知れませんが、副大統領としてではなく、一個人として日本を訪問したいと考えています。

上院議員主催昼食会

正午上院議員食堂で、ハロルド・E・ヒューズ (Harold E. Hughes), クリフォード・P・ハンセン (Clifford P. Hansen), J. カレブ・ボッグス (I. Caleb Boggs), ヘンリー・ベルモン (Henry Bellmon) 4 上院議員主催の昼食会が開催されました。ハンセン議員の歓迎挨拶ののち、奥田団長の挨拶がありました。奥田団長はヨーロッパ訪問のため、午後 2 時 30 分ナショナル空港発アメリカン航空 464 便に搭乗しなければならないので、昼食会途中で辞去し、空港に向いました。

昼食後奥田団長を除く知事団一行は、上院議会議を傍聴しましたが、その際ヒューズ議員が議会で行った歓迎演説が送付されてきましたので、次に掲載いたします。

米国上院国會議事録

1969 年 10 月 29 日

日本知事代表団のワシントン訪問

(ヒューズ上院議員演説)

議長。本日日本の知事副知事代表団の、偉大なるわが国の首府訪米について発表いたしますことは、私の欣快とするところであります。

上院議員各位のご承知のとおり私どもは、1961 年以来、日米知事会議を開催して参りました。この間アメリカの幾つかの知事団が、真にわれわれの友邦日本を訪問いたしました。そしてわれわれは、日本で日米知事会議を開催し、最も友好的な両国間に存在する共通問題について討議いた

しました。

1965年にわが偉大なるアイオワ州の知事として、同年東京で開催された日米知事会議に参加し得ましたことは、私の最も光栄とするところであり、また私どもは、日本の多くの県を訪問いたしました。1966年に私は、日本とアイオワ州の貿易の可能性について交渉し討議するため、アイオワ州の貿易使節団を引き連れて、偉大なる日本を訪問する光栄に浴しました。

私は、アイオワ州が日本の山梨県と姉妹州県の提携を結んでおりますことに、上院議員各位の注意を喚起したいと存じます。また、アイオワの首都デモインと甲府市とは、姉妹都市の提携を結んでおるのであります。

多くの上院議員各位は、以前それぞれの州で知事をしておられました。上院議会を見渡しますと、今日ご出席の非常に多くの議員各位が、それぞれの州で知事であられたことを知るのであります。

これらの議員各位は、州知事として、われわれの偉大なる両国間で行われたこれらの会議に参加されたことが、当睦の議事録に記録されております。1967年の会議は、たまたまわが州都デモインで開催されました。この会議は、日米両国にとり真に有益な、かつ、成果あるものであります。

特に附言いたしたいとは、今年の会議には、われわれの旧同僚の日本の方々、アメリカの多くの州を訪問されたことでもあります。ハワイに始まり、オレゴン、アイダホを訪問され、また、ネブラスカ及びサウスカロライナを訪問されました。知事各位は、今年の年次会議を、オハイオ州シンシナティで開催されました。

議長。 今日この国に8名の知事及び副知事と、若干名の婦人が訪問されておられます。これらの方々を私どもは、今日昼食会にご招待する機会を得ましたことを喜びに存じます。この昼食会では、駐米日本大使、上院多数党、少数党の委員長、下院議長及び上下両院議員各位が、日本知事各

位と親しく語り合う機会を得たのであります。

私は、偉大なるわれわれ両国間に進行するこの親密な関係は、過去においてわれわれを援助して参つたごとく、将来もわれわれの友情を一層緊密にするものであると存じます。知事という階層は、しばしばわれわれの偉大なる両国の国家的指導者の上層につながるものであります。そしてこのことは、日本の県知事とアメリカの州知事の個人的基盤のうえに打ち立てられた友好関係によつてもたらされるものであります。

われわれは、個人的にも一般的ビジネスの上においても、公務上においても、一層われわれ2大国間の友情と理解を緊密にする、多くの永続的友好関係を有しております。

私は特に、次のことを上院各位に申し上げたいと存じます。それは、日本の知事団が、現に此処におられること、今日ワシントン首府においてわれわれと共におられること、われわれが再びご一行を歓迎する機会を得ましたことを深く喜びとすること及び、このような友好関係が、末永く続きますことを衷心より希望するということであります。

議長。 私は目下アメリカをご訪問中の日本の知事団ご一行の氏名を、国会議事録に印刷されますことを、満場一致でご承認願いたいと存じます。(異議が無かつたので、一行の氏名は、次のとおり議事録に印刷が命ぜられました。)

1969年10月アメリカを訪問された知事団。(順位に従い) 日本知事及び副知事及び県名は次の通り。

奥田良三知事 (全国知事会副会長, 団長)	奈良県
竹内俊吉知事	青森県
田中覚知事	三重県
西沢権一郎知事	長野県
金丸三郎知事	鹿児島県
岩瀬繁一郎副知事	愛知県

中村直副知事 岩手県

木立勝副知事 大分県

日本知事団随員

井上良二 全国知事会事務局次長

小川政吉 全国知事会事務局渉外部長

アメリカ国務省

河本幸夫

ポール田村及び夫人

アメリカ全国知事会

ブレヴァード・クリフィールド局長

ロイス・マーフィー 同局長秘書

議長。 結論として私は、次のことを申し上げたいと存じます。すなわち日米知事会議の創設この方、両国知事代表は、殆んど毎年太平洋を横断して相互に訪問を重ね、次のような議題について討議を行う機会を得ました。すなわち日米両国における青少年非行問題、空気及び水の汚染、両国の経済問題及び貿易問題等であります。

このような討議は、全世界が要求するものであると存じます。この特殊の会議は、単にアメリカの州知事と日本の県知事、またわれわれの2つの偉大なる国会議員間で、個人的親交の上に始められたにしても、2つの偉大なる国民＝日本及びアメリカ＝の友情と理解を深め、偉大なる2国間で、何を成就し何を為し得るかの実例として役立つものであります。

あ と が き

今回全国知事代表団が訪問したアメリカの諸州は、ハワイを除きビジネスでも観光でも国際会議でも、われわれ日本人が平素訪問することの少ない、アメリカを横断する中央部の地方の州を主として、それに南部の1州を訪問しました。これらの州はそれぞれに特色のある州で、ハワイは観光地として、また、太平洋のパラダイスとして、日系人が全人口の3分の1以上を占める州として余りにも日本人によく知られています。このごろ猫も杓子もハワイを訪問し、そこら中荒して来るのでジャパニーズ・ピックといつて嫌われていることをご存知でしょうか？

オレゴン州は、フード山という富士山とそつくりの白雪をいただく秀峯があり、ポートランドは札幌市と姉妹都市になっています。コロンビア河の渓谷の美しさと、この河を利用する養魚と、ダムによる水力利用に特色をもっています。

アイダホは、全米第1のジャガイモの生産州で、巨大な馬鈴薯加工工場もあります。また、ジェム・ステイトとして各種の宝石を産出し、銀の産出は全米第1位です。

ネブラスカ州は、トウモロコシの生産は、420万エーカーに及び、これを飼料として牛、豚の畜産が盛んで、オマハでは年間200万頭の牛と100万頭の豚の取引が行われています。畜産の州として特色を有しています。

オハイオ州は、シカゴとニューヨークの2大都市に挟まれ、自動車工業その他の工業が盛んな州として、アメリカの代表的な農業と工業の州の一つです。

サウスカロライナは、南部を代表する州で、300年の歴史を有し、チャールストンも古い都市で、市内には名所旧跡や古くからの大庭園が残っています。

以上のようにそれぞれに特色のある州を訪問することが出来、深い印象を刻まれました。

日本知事団の行動もまことに紳士的で、朝7時半のホテル出発の時も度々ありましたが、全員集合時間に遅れることもなく、真摯な研究的態度と相まって、アメリカ人に深い感銘と印象を与えました。このことは、マイヤー駐日アメリカ大使から奥田団長あて書簡にも述べられており、また、クリフワールド局長は、日本知事団を絶賛し、実に立ばな知事団であつたと書いてきました。

オレゴン州からワシントンまで日本知事団を終始エスコートしたクリフワールド局長その他の人々の労苦は、高く評価しなければなりません。視察も会議も会見も、すべて円滑に行われましたのは、これらの人々のお蔭です。各地で多くの日系人や、ジョンソン国務次官、ポルペ運輸長官、ヒューズ氏その他上院議員等政府高官との会見は、胸襟を開いて和気あいあいのうちに行われ、特にヒューズ上院議員は上院で、日本知事団を歓迎する演説をぶつ等、日米の友好は最高潮に達しました。

アメリカ人は、開放的で開拓者精神とユーモアに富み、明るい国民です。アメリカ人を理解することから、真の日米の友好親善は生れます。

なお、第8回日米知事会議に関する報告は、知事団に随行した、井上事務局次長が都道府県展望に発表されたものを転記いたしました。

19 世話になつた人々の氏名リスト

LIST OF THE NAMES OF PERSONS WHO
EXTEND THEIR COURTESY TO THE
JAPANESE GOVERNORS' PARTY

(1)

U. S. GOVERNMENT DIGNITARIES

- | | |
|--|---|
| 1. His Excellency Spiro T. Agnew
Vice President
Capitol Building
Washington D. C., U. S. A. | 2. His Excellency U. Alexis Johnson
Undersecretary of State
Department of State
Washington D. C., U. S. A. |
| 3. His Excellency John A. Volpe
Secretary of Transportation
Department of Transportation
Washington D. C., U. S. A. | 4. His Excellency J. Caleb Boggs
Senator
Senate House
Washington D. C., U. S. A. |
| 5. His Excellency Harold
E. Hughes
Senator
Senate House
Washington D. C., U. S. A. | 6. His Excellency Henry Bellmon
Senator
Senate House
Washington D. C., U. S. A. |
| 7. His Excellency Clifford
P. Hansen
Senator
Senate House
Washington D. C., U. S. A. | |

(2)

JAPANESE DIPLOMATS

- | | |
|--|--|
| 1. His Excellency Takeso Shimoda
Ambassador
Embassy of Japan
2520 Massachusetts Avenue
N. W., Washington D. C. 20008
U. S. A. | 2. His Excellency Satoru Takahashi
Ambassador
Embassy of Japan
Avenida de Generalisino 67
Madrid, 16, Espana |
|--|--|

- | | |
|---|--|
| <p>3. His Excellency Tsutomu Wada
Minister
Embassy of Japan
46, Grosvenor Street
London, W1X 0BA, England</p> | <p>4. Mr. Koji Saka
First Secretary
Embassy of Japan
46, Grosvenor Street
London, W1X 0BA, England</p> |
|---|--|

(3)

AMERICAN GOVERNORS' CONFERENCE

- | | |
|--|--|
| <p>1. Mr. Brevard Carihfield
Secretary-Treasurer
National Governors' Conference
Iron Works Pike
Lexington, Kentucky 40505
U. S. A.</p> | <p>2. Mr. Yukio Kawamoto
Japan Program Officer
Bureau of Educational &
Cultural Affairs
Department of State
Washington D. C., U. S. A.</p> |
| <p>3. Miss Lois Murphy
National Governors'
Conference
Iron Works Pike
Lexington, Kentucky 40505
U. S. A.</p> | <p>4. Mr. and Mrs. Paul Tamura
c/o National Governors'
Conference
Iron Works Pike
Lexington, Kentucky 40505
U. S. A.</p> |

(4)

H A W A I I

- | | |
|---|---|
| <p>1. The Honorable Governor and
Mrs. John A. Burns
State Capitol Building
Honolulu, Hawaii, 96813
U. S. A.</p> | <p>2. The Honorable Francis R. Boyles
Brigadier General
Special Administrative Assistant
to the Governor
Governor's Office
Honolulu, Hawaii, U. S. A.</p> |
|---|---|

- | | |
|--|---|
| <p>3. The Honorable Akira Yoshioka
 Consul General
 Consulate-General of Japan
 1742 Nuuanu Avenue
 Honolulu, Hawaii 96817
 U. S. A.</p> | <p>4. Mr. Kiichi Hamanaka
 Consul
 Consulate-General of Japan
 1742 Nuuanu Avenue
 Honolulu, Hawaii 96917
 U. S. A.</p> |
| <p>5. Mr. Robert T. Sasaki
 Senior Vice President
 Bank of Hawaii
 Honolulu, Hawaii, U. S. A.</p> | <p>6. Mr. Frank Y. Oda
 735 Kapiolani Blvd.
 Honolulu, Hawaii 96813
 U. S. A.</p> |
| <p>7. Mr. James Tsutomu Nishi
 Office Appliance Co., Ltd.
 Vice President
 Branch Manager
 2433 Booth Rd., Honolulu
 Hawaii, U. S. A.</p> | <p>8. Mr. Ryokin Toyohira
 Managing Editor
 The Hawaii Times, Ltd.
 Honolulu, Hawaii 96907
 U. S. A.</p> |
| <p>9. Mr. Adam A. Smyser
 Editor
 Honolulu Star-Bulletin
 Honolulu, Hawaii
 U. S. A.</p> | <p>10. Dr. James H. Okahata
 Adviser
 United Japanese Society of
 Hawaii
 1109 Bethel St., Honolulu
 Hawaii, U. S. A.</p> |
| <p>11. Mr. Roger H. Coryell
 Director-Information &
 Education
 Nakapuu Oceanic Center
 Nakapuu Point
 Waimanalo, Hawaii 96795
 U. S. A.</p> | <p>12. Mr. Sakushiro Ono
 130 Rosebank Place
 Honolulu, Hawaii 96817
 U. S. A.</p> |

(5)

O R E G O N

1. The Honorable Governor and
Mrs. Tom McCall
State Capitol Building
Salem, Oregon
U. S. A.
2. Mr. Hubert A. Goode
Executive Secretary
Royal Rosarians
1960 SW. 16th. Avenue
Portland, Oregon 97201
U. S. A.
3. Mrs. Howard Sommers
12585 SW. Bull Mt. Rd.
Tigard, Oregon, U. S. A.
4. Mrs. Donald G. Drake
8400 SW. Woodside Dr.
Portland, Oregon, U. S. A.
5. Mr. Leland Johnson
Vice President
First National Bank of
Oregon
400 SW. Sixth Avenue
Portland, Oregon, U. S. A.
6. Mr. John Fulton
Director
Oregon Department of
Transportation
Salem, Oregon
U. S. A.
7. Honorable Terry D. Schrunk
Mayor of Portland
City Hall
Portland, Oregon
U. S. A.
8. Mr. Holly V. Holcomb
Superintendent
OREGON State Police Dept.
Room 107, Public Service Bldg.
Salem, Oregon, U. S. A.
9. Mr. Robert W. Schoning
State Fisheries Director
Room 307, State Office Bldg.
Portland, Oregon 97201
U. S. A.
10. Honorable Sinzaburo Hatanaka
Acting Consul General
Consulate General of Japan
Chamber of Commerce Bldg.
Portland, Oregon 97201
U. S. A.
11. Mr. George Baldwin
General Manager
Port of Portland
P. O. Box 3529
Portland, Oregon 97208
U. S. A.
12. Colonel Robert L. Bangert
District Engineer
Portland District Corps of
Engineers
P. O. Box 2946
Portland, Oregon 97208
U. S. A.

- | | |
|---|--|
| <p>13. Mr. R. W. deWeese,
 President
 Portland Chamber of Commerce
 824 SW. Fifth Avenue
 Portland, Oregon 97201
 U. S. A.</p> | <p>14. Miss Rhonda Anderson
 7410 DE. Salmon Street
 Portland, Oregon
 U. S. A</p> |
| <p>15. Mr. Richard W. Ems
 Pan American District
 Manager
 District Sales Office
 512 SW. Yamhill
 Portland, Oregon, U. S. A.</p> | |

(6)

I D A H O

- | | |
|---|---|
| <p>1. The Honorable Governor and
 Mrs. Don W. Samuelson
 State Capitol Building
 Boise, Idaho, U. S. A.</p> | <p>2. Mr. Gorener Ron Yokota,
 P. O. Box 166
 Boise, Idaho 83701
 U. S. A.</p> |
| <p>3. Mrs. Ishi Miyake
 Rt 1, P. O. Box 181
 Nampa, Idaho 83660
 U. S. A.</p> | <p>4. Mr. Douglas Bean
 Governor's Office
 State House
 Boise, Idaho, U. S. A.</p> |
| <p>5. Mr. Harold West
 Idaho Wheat Commission
 State House
 Boise, Idaho, U. S. A.</p> | <p>6. Mr. and Mrs. George Iseri
 287 SW. 4th Ave.
 Ontario, Ore.
 U. S. A.</p> |
| <p>7. Mr. Chet Sterling
 Idaho State Police
 Boise, Idaho, U. S. A.</p> | <p>8. William Tayler, Manager
 Gem State Honda Co.
 9210 Fairview
 Boise, Idaho, U. S. A.</p> |

9. Robert Carr, Plant Mgr.
Boise-Cascade Lumber Mill
4910 Warm Springs Avenue
Boise, Idaho, U. S. A.
10. Richard Reed, Manager
Security Trailer
Manufacturing Co.
2620 E. Amity Road
Boise, Idaho, U. S. A.
11. Mr. Frank Ogami
478 E. Court St.
Weiser, Idaho, U. S. A.
12. Mr. Robert Gibb
808 Ranch Road
Boise, Idaho, U. S. A.
13. Mr. Maurice Hatch, Manager
Amalgamated Sugar Co.
Nampa, Idaho, U. S. A.
14. Mr. Pat Harwood
Public Relations Mgr.
J. R. Simplot Co.
Caldwell, Idaho, U. S. A.
15. Mr. and Mrs. James Yamada
Wilder, Idaho
U. S. A.
16. Mrs. Mitzie Martinez
The Paper Tree
710 Idaho St.
Boise, Idaho, U. S. A.
17. Mr. Stanley Trenhaile
Commissioner of Agriculture
State of Idaho
State House
Boise, Idaho, U. S. A.
18. Mr. Ed Middlemist
Executive Director
Idaho Restaurant Assn.
Idaho Dept. of Lands
State House
Boise, Idaho, U. S. A.

(7)

N E B R A S K A

1. Governor and Mrs. Norbert
T. Tiemann
State Capitol Building
Lincoln, Nebraska 68509
U. S. A.
2. Mr. Larry C. Johns
Administrative Assistant
to the Governor
State Capitol Building
Lincoln, Nebraska 68509
U. S. A.
3. Mr. Jim Monroe
Director
Department of Economic
Development
State of Nebraska
Lincoln, Nebraska, U. S. A.
4. Mr. Gene Wheeler
Department of Economic
Development
State of Nebraska
Lincoln, Nebraska, U. S. A.
5. Mr. Glen Shanks
Data Processing Division
Department of Administrative
Services
State of Nebraska
State Capitol Building
Lincoln, Nebraska, U. S. A.
6. Mr. Frank Marsh
Secretary of State
State Capitol Building
Lincoln, Nebraska, U. S. A.
7. Mr. Bob Van Neste
Public Relations Office
University of Nebraska
Lincoln, Nebraska, U. S. A.
8. Dr. Dorothy Smith
Department of Health
State of Nebraska
Lincoln, Nebraska, U. S. A.
9. Mr. A. S. "Chico" Chaves
Vice President
First National Bank
12th & N Streets
Lincoln, Nebraska, U. S. A.
10. Dr. Joseph Soshnilk
President
University of Nebraska
Lincoln, Nebraska, U. S. A.

11. Mr. Jack Radican
Sales and Services Manager
United Air Lines
Municipal Airline Terminal
Lincoln, Nebraska 68524
U. S. A.
12. Mr. Fred Thoma
Greyhound Lines
1802 Farnam
Omaha, Nebraska, U. S. A.
13. J. D. Anderson
Guarantee Mutual Life
Company
8721 Indian Hills Drive
Omaha, Nebraska 68114
U. S. A.
14. Edd H. Bailey
Union Pacific Railroad
Company
1416 Dodge Street
Omaha, Nebraska 68102
U. S. A.
15. S. L. Cate
Gate City Steel Corporation
6901 Dodge Street
Omaha, Nebraska 68132
U. S. A.
16. Leo A. Daly
Leo A. Daly. Company
8600 Indian Hills Drive
Omaha, Nebraska 68114
U. S. A.
17. John D. Diesing
J. L. Brandeis & Sons
16th & Douglas Streets
Omaha, Nebraska, 68102
U. S. A.
18. H. P. Doerr
Northwestern Bell Telephone
Company
100 South 19th Street
Omaha, Nebraska 68102
U. S. A.
19. Edward W. Lyman
The United States National
Bank
P. O. Box 3408
Omaha, Nebraska 68103
U. S. A.
20. Morris F. Miller
The Omaha National Bank
17th & Farnam Streets
Omaha, Nebraska 68102
U. S. A.
21. A. Lynn Monroe
Omaha Public Power District
1623 Harney Street
Omaha, Nebraska 68102
U. S. A.
22. V. J. Skutt
Mutual of Omaha Insurance
Company
3316 Farnam Street
Omaha, Nebraska 68131
U. S. A.

23. Willis A. Strauss
Northern National Gas Company
2223 Dodge Street
Omaha, Nebraska 68102
U. S. A.
24. M. J. Warren
First Mid America Inc.
100 Continental Building
Omaha, Nebraska 68102
U. S. A.
25. Carlin H. Whitesell
Peter Kiewit Sons' Company
1000 Kiewit Plaza
Omaha, Nebraska 68131
U. S. A.
26. Mr. Mark Schimmel
Manager
Blackstone Hotel
36th & Farnam Streets
Omaha, Nebraska, U. S. A.
27. Mr. Keith Carter
Executive Vice President
Omaha Chamber of Commerce
200 Farnam Building
Omaha, Nebraska, U. S. A.
28. Mrs. Peggy Flower
Convention Bureau
Omaha Chamber of Commerce
200 Farnam Building
Omaha, Nebraska, U. S. A.
29. Mr. & Mrs. Patrick Okura
2604 Sarden Road
Omaha, Nebraska 68124
U. S. A.

(8)

O H I O

1. The Honorable Governor and
Mrs. James A. Rhodes
State Capitol Building
Columbus, Ohio, U. S. A.
2. Mr. Earl T. Barnes
700 Walnut Street
Cincinnati, Ohio, U. S. A.
3. Mr. Glen W. Allen
P. O. Box 1001
Columbus, Ohio, U. S. A.
4. Mr. Richard Krabach
City Manager
City Hall
Cincinnati, Ohio 45202
U. S. A.
5. Mr. Jack H. Schron
Jergens, Inc.
19520 Nottingham Road
Cleveland, Ohio, U. S. A.
6. Mr. Henry Hilberg
8125 Indian Hill Road
Cincinnati, Ohio 43215
U. S. A.
7. Mr. Henry Rollman
President
Rollman Advertising
1205 Tri State Building
Cincinnati, Ohio 45202
U. S. A.
8. Mr. Lyle Herbold
Sheraton-Gibson Hotel
5th and Walnut Streets
Cincinnati, Ohio 45202
U. S. A.
9. Mr. William Kagler
Kroger Company
Director - Public Relations
1014 Vine Street
Cincinnati, Ohio, U. S. A.
10. Mr. Kenneth Burch
Cincinnati Chamber of Commerce
Room 55 - 309 Vine Street
Cincinnati, Ohio, U. S. A.
11. Mr. John Hilberg
John Hilberg & Sons
544 W. Liberty
Cincinnati, Ohio, U. S. A.
12. Mr. Ray Nofsinger
Division Eight
Highway Patrol
Middletown, Ohio, U. S. A.

- | | |
|--|---|
| <p>13. Mr. Warren C. Nelson
 Director
 Highway Safety
 Columbus, Ohio, U. S. A.</p> | <p>14. Mr. Mort Watters
 Scripps-Howard Broadcasting
 Corp.
 500 Central Avenue
 Cincinnati, Ohio 45202
 U. S. A.</p> |
| <p>15. Mr. Clint Pace
 Procter & Gamble
 301 E. Sixth Street
 Cincinnati, Ohio, U. S. A.</p> | <p>16. Mr. C. Altbaier
 Cincinnati Milling Machine
 4701 Marburg Avenue
 Cincinnati, Ohio, U. S. A.</p> |
| <p>17. Mr. Richard Slagel
 ARMCO
 703 Curtis Street
 Middletown, Ohio, U. S. A.</p> | |

(9)

SOUTH CAROLINA

- | | |
|---|---|
| <p>1. The Honorable Governor and
 Mrs. Robert E. McNair
 State Capitol Building
 Pierre, South Carolina
 U. S. A.</p> | <p>2. Captain Capers G. Barr, Jr.
 General Manager
 South Carolina State Ports
 Authority
 Post Office Box 817
 Charleston, South Carolina
 29402, U. S. A.</p> |
| <p>3. Captain Howard F. Hoffberg
 Director
 Berkeley-Charleston-Dorchester
 Technical Education Center
 7000 Rivers Avenue
 Charleston, South Carolina
 29406, U. S. A.</p> | <p>4. Mr. Joseph M. Mergen
 General Manager
 AVCO-Lycoming Division
 Charleston Plant
 Post Office Box 10048
 Charleston, South Carolina
 29411, U. S. A.</p> |
| <p>5. Dr. Erbert Cicensia
 Director
 South Carolina Habilitation
 Center
 Ladson, South Carolina 29483
 U. S. A.</p> | <p>6. General Hugh Pate Harris
 USA (Ret.)
 President
 The Citadel
 Charleston, South Carolina
 29409, U. S. A.</p> |

7. Mr. J. Mitchel Graham
Chairman
Charleston Country Council
88 Broad Street
Charleston, South Carolina
29401, U. S. A.
8. Mr. J. Palmer Gaillard, Jr.
Mayor
City of Charleston
City Hall
Charleston, South Carolina
29401, U. S. A.
9. Mr. G. K. Livingston, Jr.
President
Mr. W. Kenneth Johnson
President-Elect
Charleston Trident Chamber of
Commerce
Post Office Box 975
Charleston, South Carolina
29402, U. S. A.
10. Mr. F. William Broome
Executive Vice President
Charleston Trident Chamber
of Commerce
Post Office Box 975
Charleston, South Carolina
29402, U. S. A.
11. Mr. Charles Duell
Owner
Middleton Place Gardens
Route 4
Charleston, South Carolina
29407, U. S. A.
12. Mr. and Mrs. Joseph P. Riley, Sr.
74 Murray Boulevard
Charleston, South Carolina
29401, U. S. A.
13. Mr. and Mrs. William B. Deas
72 Murray Boulevard
Charleston, South Carolina
29401, U. S. A.
14. Shokei Yamada, M. D.
Veterans Administration
Hospital
109 Bee Street
Charleston, South Carolina
U. S. A.
15. Colonel P. F. Thompson
Director
South Carolina Highway Patrol
Columbia, South Carolina
U. S. A.
16. Mr. Glenn Williamson
Manager
Sheraton-Fort Sumter Hotel
1 King Street
Charleston, South Carolina
29401, U. S. A.

17. Senator Allen Carter

Legislative Delegation Member

Post Office Box 5244

Charleston, South Carolina

29406, U. S. A.

18. Lieutenant Governor John C. West

Post Office Box 11450

Columbia, South Carolina

29202, U. S. A.

19. Mr. Wayne Seal

Governor's Aide

Governor's Office

Pierre, South Carolina

U. S. A.

20. Mr. Patrick Williams

S. C. Department of Parks

Recreation and Tourism

Post Office Box 1358

29202, U. S. A.

AFFendix

1. His Excellency Ambassador and Mrs.

Armin H. Meyer

American Embassy

Akasaka, Minato-ku, Tokyo

2. The Honorable James F. Crane

Deputy Chief, Cultural Division

American Embassy

2 Aoi-cho, Akasaka, Minato-ku, Tokyo

3. The Honorable John F. McDonald

Cultural Division

American Embassy

2 Aoi-cho, Akasaka, Minato-ku, Tokyo

4. Mr. Dennis Askey

Chief

Press and Publications Division

American Embassy

20 英 文 日 程

SUMMARY OF ITINERARY —— VISIT BY JAPANESE
GOVERNORS AND PARTY TO UNITED STATES

<u>DATE</u>	<u>LOCATION TO BE VISITED</u>	<u>HOTEL AND TELEPHONE NO.</u>
October 14-16 Tuesday-Thursday	Honolulu, Hawaii	Royal Hawaiian Hotel (808) 923-7311
October 17 Friday	Portland, Oregon	Benson Hotel (503) 228-9611
October 18 Saturday	Boise, Idaho	Downtowner Motel (208) 344-7691
October 19 Sunday	Boise, Idaho	Downtowner Motel (208) 344-7691
October 20 Monday	Omaha, Nebraska	Radisson-Blackstone Hotel (402) 348-0111
October 21 Tuesday	Cincinnati	Ohio Sheraton-Gibson Hotel (513) 621-6600
October 22 Wednesday	Cincinnati	Ohio Sheraton-Gibson Hotel (513) 621-6600
October 23 Thursday	Charleston South Carolina	Sheraton-Fort Sumter Hotel (803) 23-4516
October 24 Friday	Charleston South Carolina	Sheraton-Fort Sumter Hotel (803) 723-4516
October 25 Saturday	Washington, D. C.	Windsor Park Hotel (202) 483-7700
October 26 Sunday	Washington, D. C.	Windsor Park Hotel (202) 483-7700
October 27 Monday	New York City	The Biltrnore (212) 687-7000

MEMBERS OF TRAVELLING PARTY
VISIT OF GOVERNORS OF JAPAN TO UNITED STATES,
OCTOBER, 1969

JAPANESE GOVERNORS AND VICE GOVERNORS

PREFECTURE

(By Order of Precedence)

Governor RYOZO OKUDA (Vice President of the National Governors' Association and Leader of the Delegation)	NARA
Governor SHUNKICHI TAKEUCRI	AOMORI
Governor SATORU TANAKA and Daughter, MASAE	MIE
Governor GONICHIRO NISHIZAWA	NAGANO
Governor SABURO KANEMARU and wife, SAKAE	KAGOSHIMA
Vice Governor SHIGEICHI IWASE	AICHI
Vice Governor MasARU TAKI	OTTA

AIDES TO JAPANESE GOVERNORS

Mr. Ryoji Izuchi, Deputy Executive Secretary of National
Governors' Association

Mr. Masakichi Ogawa, Chief, Foreign Affairs Division of National
Governors' Association

NEWS MEDIA

Mr. Takeshi Tagomori, Jijitsushin Press

UNITED STATES DEPARTMENT OF STATE

Mr. Yukio Kawamoto, Escort Officer

Mr. Paul Tamura, Aide

Mrs. Paul Tamura, Aide

NATIONAL GOVERNORS' CONFERENCE

Mr. Brevard Crihfield, Secretary-Treasurer

Mr. Gene Minogue, Travel Consultant

Miss Lois Murphy, Assistant to Mr. Crihfield

PROGRAM AND ITINERARY

October 14 (Tuesday)

Honolulu, Hawaii

Arrive late evening and spend night at Royal Hawaiian Hotel

October 15 (Wednesday)

Visit in morning to State Capitol and Punchbowl Memorial Cemetery. Luncheon with Japanese Consul-General at his residence. Afternoon free with escorts. Early evening reception at Governor Burns' Executive Mansion.

October 16 (Thursday)

Visit in morning to Sea Life Park. Luncheon at Polynesian Cultural Center. Evening Dinner at Kanraku Teahouse with American-Japanese Community.

10 : 15 p. m.

Depart Honolulu via Pan American Airways, Flight #894

October 17 (Friday)

Portland, Oregon

7 : 35 a. m.

Arrive Portland via Pan American Airways, Flight #894, welcoming reception headed by Governor McCall, and proceed to Benson Hotel for rest period (morning free).

Following luncheon at Benson Hotel, tour of harbor area and proceed to State Capitol at Salem to visit Governor's office. Then a reception at Governor's home and dinner at Illahe Country Club.

October 18 (Saturday)

Bus tour in morning of Columbia Gorge, Multnomah Falls, Bonneville Dam, and Eagle Creek Fish Hatchery.

Lunch at Hood River, followed by visit to Japanese Garden and rest at Benson Hotel.

5 : 45 p. m.

Farewell ceremony at airport and depart Portland via Air West, Flight #777, arriving Boise at 7:40 p. m. and sleep at Downtowner Motel.

October 19 (Sunday)

Boise, Idaho

Staying at Downtowner Motel. Breakfast at Governor's House, followed by tour of State Capitol, lumber mill operation, trailer manufacturing shop, snowmobile plant, and pre-fab home construction.

Putting tournament and luncheon at Hillcrest Country Club, followed by visits to Amalgamated Sugar Plant, Simplot cattle feed yard, and Japanese-American farm. Then dinner and return to Downtowner Motel for sleep.

October 20 (Monday)

9:15 a. m.

Depart Boise via United Air Lines, Flight #670, changing to United Flight #264 at Denver en route to Omaha.

October 20 (Monday)

Omaha, Nebraska

1:38 p. m.

Arrive via United Air Lines, Flight #264, and proceed to Radisson-Blackstone Hotel for rest (laundry must be deposited at this time). Then leave for tour of Boy's Town. In the evening there will be a reception and dinner at the Radisson-Blackstone.

October 21 (Tuesday)

After breakfast at hotel, proceed to Lincoln and first visit Kellogg Center at University of Nebraska, followed by tour of university campus. Then a tour of the Nebraska State Capitol Building. Luncheon at the First National Bank and Trust Company, and return to Omaha.

4:05 p. m.

Depart Omaha via United Air Lines, Flight #653, at Chicago en route to Cincinnati.

October 21 (Tuesday)

Cincinnati Ohio

8:57 p. m.

Arrive Cincinnati via Delta Flight #653. After greeting at airport, proceed to Sheraton-Gibson Hotel and spend night.

October 22 (Wednesday)

After breakfast at the Sheraton-Gibson, there will be a variety of optional visits in Cincinnati featuring companies and plants active in international trade. Luncheon at the hotel.

From 2 p. m. to 4 p. m. will be the joint business session of the Japan-U. S. Governors' Conference, with additional American Governors participating (see separate sheet for program of the business session).

In the evening there will be a private reception for the Japanese and American Governors, followed by a large State Dinner. The principal speaker will be Ambassador U. Alexis Johnson.

October 23 (Thursday)

In the morning and afternoon there will be a continuation of the optional tours of industrial, commercial and port facilities relating to international trade.

6:25 p. m.

Depart Cincinnati via Delta Air Lines, Flight #345, changing to Delta Flight #651 (Atlanta, Georgia) en route to Charleston.

October 23 (Thursday)

Charleston, South Carolina

9:20 p. m.

Arrive Charleston via Delta Flight #651 and proceed to Sheraton-Fort Sumter to sleep.

October 24 (Friday)

After breakfast at hotel, embark by boat for Harbor Tour which will include: Fort Sumter Monument, State Port Facilities and Bridges, industrial facilities, Naval Base. Debark at State Port Grain Elevators to inspect grain handling facilities, and then visit Technical Education Center.

Luncheon at AVCO-Lycoming Plant, and tour of facilities. Then drive by General Electric Plant and proceed to Summerville for inspection of South Carolina Habilitation Center, followed by Dress Parade at the Citade and return to hotel. Reception and dinner at New Colony House Restaurant.

October 25 (Saturday)

Tours in the morning of Historic Charleston: Dock Street Theater, St. Michael's Church, Hunley Museum, etc. Then a visit to Middleton Place Gardens and sightseeing in Old Town. Luncheon will be at private homes.

Finally, there will be a brief visit to a typical American College football game before returning to hotel.

6:15 p. m.

Depart Charleston via National Airlines, Flight #420.

October 25 (Saturday)

Washington, D. C.

7:25 p. m.

Arrive Washington via National Flight #420 and proceed to Windsor Park Hotel and sleep.

October 26 (Sunday)

Breakfast at hotel, followed by sightseeing tour of the major points of interest in Washington. Evening reception hosted by The Honorable Takeso Shimoda, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary, at the Japanese Embassy.

October 27 (Monday)

Breakfast hosted by The Honorable John A. Volpe, Cabinet Secretary for Transportation, followed by business discussion with officials of the U. S. Department of Transportation.

Business discussion with either the President or Vice President of the United States, depending upon their presence in Washington.

Traditional luncheon at the United States Senate, hosted by Senators who are former Governors, followed by a visit to the Senate Chamber and tour of the U. S. Capitol. Following this the group will return to the Windsor Park Hotel and then depart for the airport en route to New York City.

State Department escorts and interpreters will accompany the Japanese Governors, Vice Governors and aides to New York City, where they will spend the night at The Biltmore, Madison Avenue and 43rd Street.

SAYONARA

BDD 69

October 1969